広島大学医学部昭和49年卒業生

卒業20周年記念アルバム

仁科チューターグループ

藤田チューターグループ

中井チューターグループ

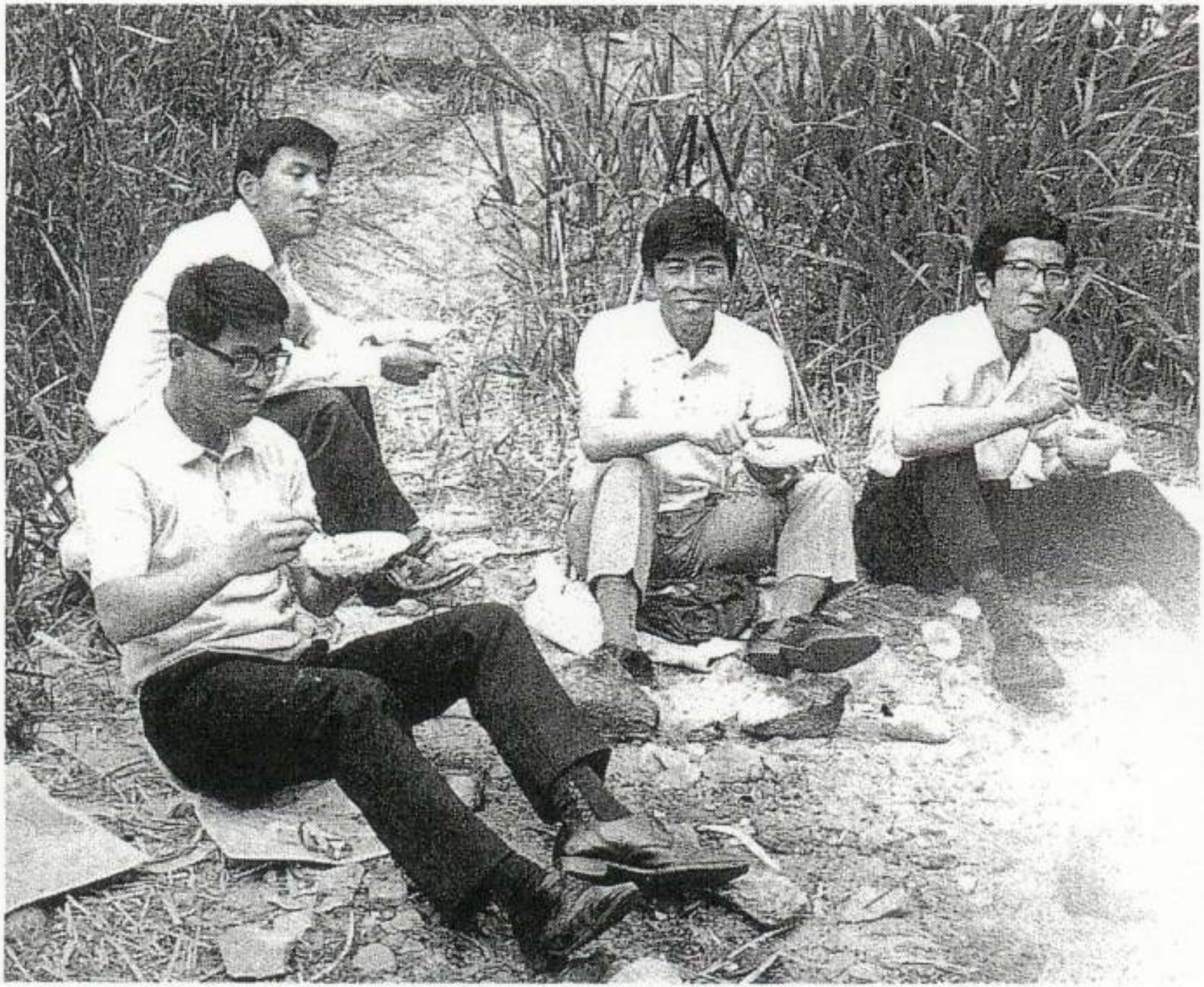
山元チューターグループ

中井チューターグループ（広大教養部）
教養部オリエンテーション・セミナー
昭和43年５月18日～19日
於：湯来国民宿舎

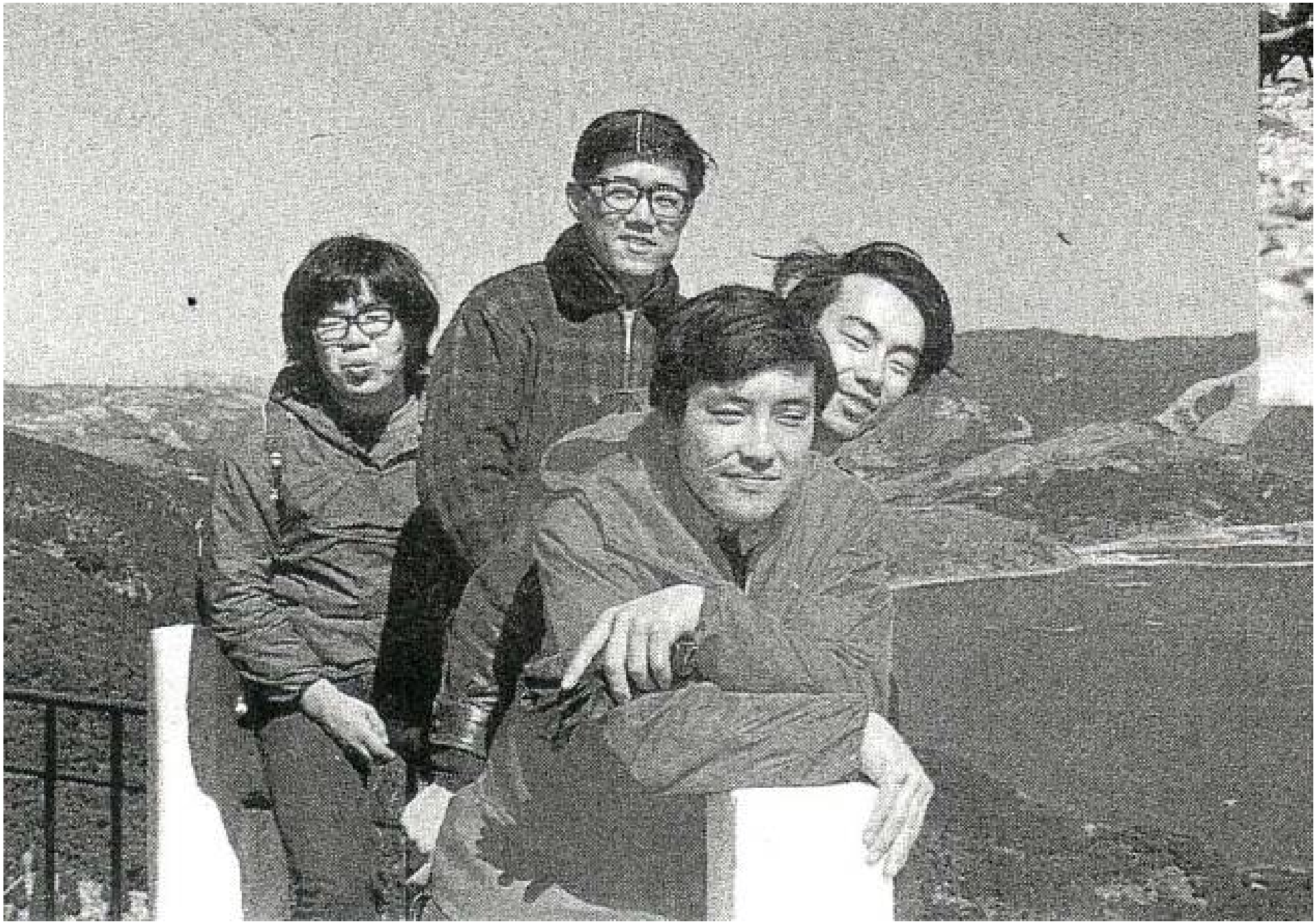
サッカー部

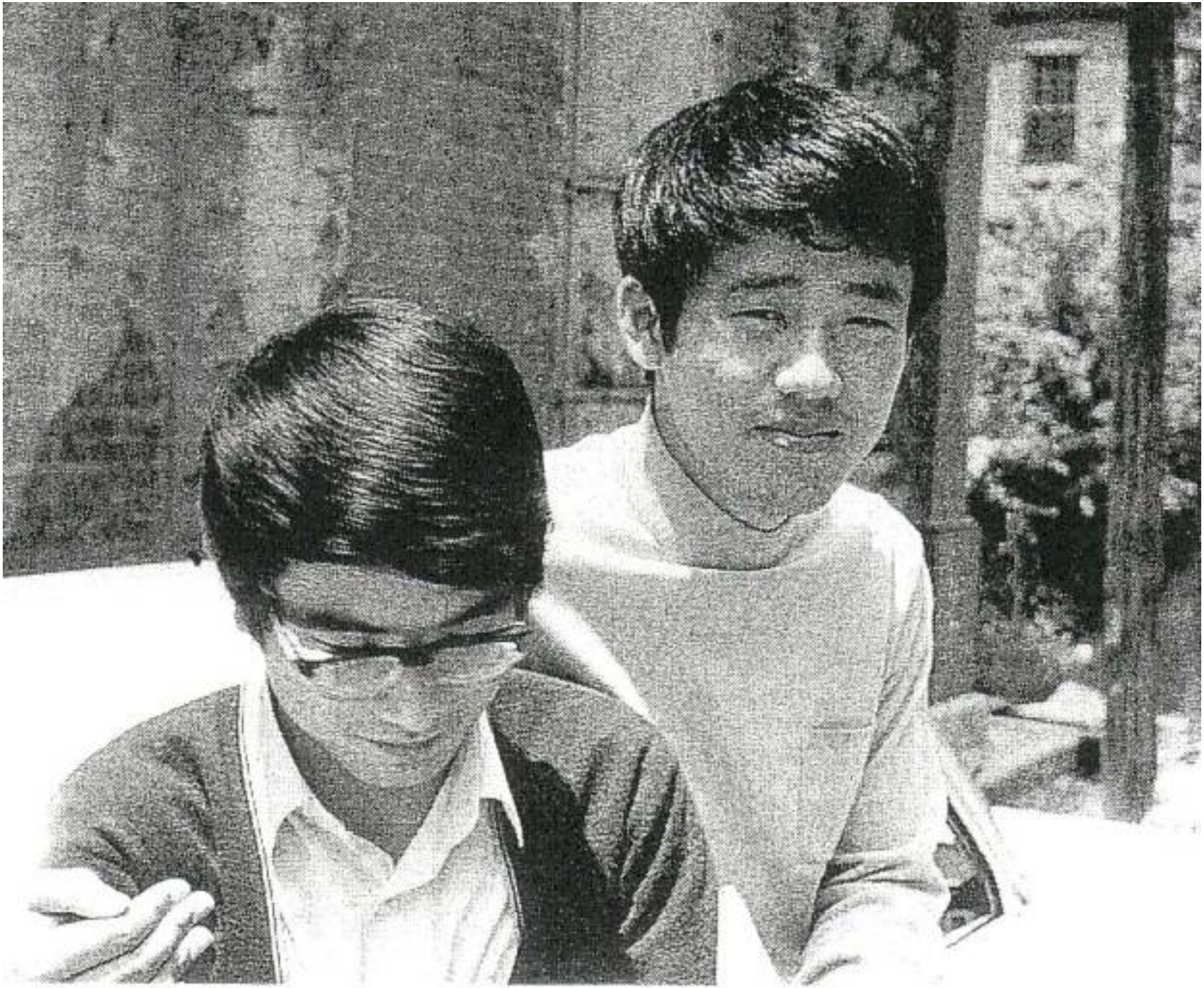
野球部

医進１年　軟庭部レクレーション

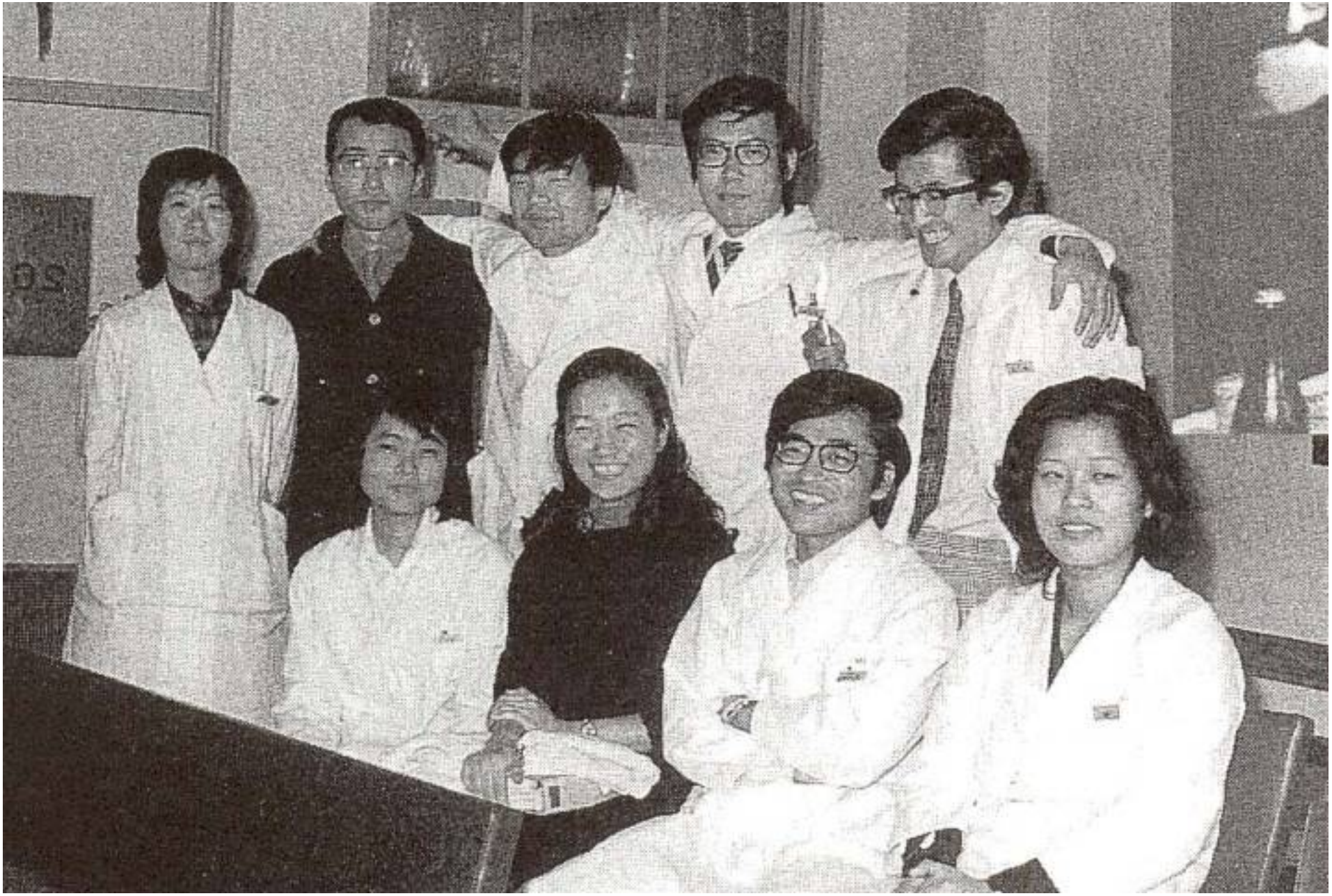


医進１年
大学祭　仮装行列





広島5
45-99



広島大学医学部昭和49年度卒業生

卒業20周年記念アルバム

アルバムに一文を添えてとのことで，うすくなった頭をたたいてみれば，「雀狂頭」～知る人ぞ知る，因みに頭の狂った雀達ではありません～は遠くなりにけりで，いまだ青雲の志士さめやらぬ，気付いてみれば大学生と中学生の息子をもつ立派な中年男性の話なぞ，少しも面白くないわいな，とそういうわけで近況報告でお茶を濁そうと思います。

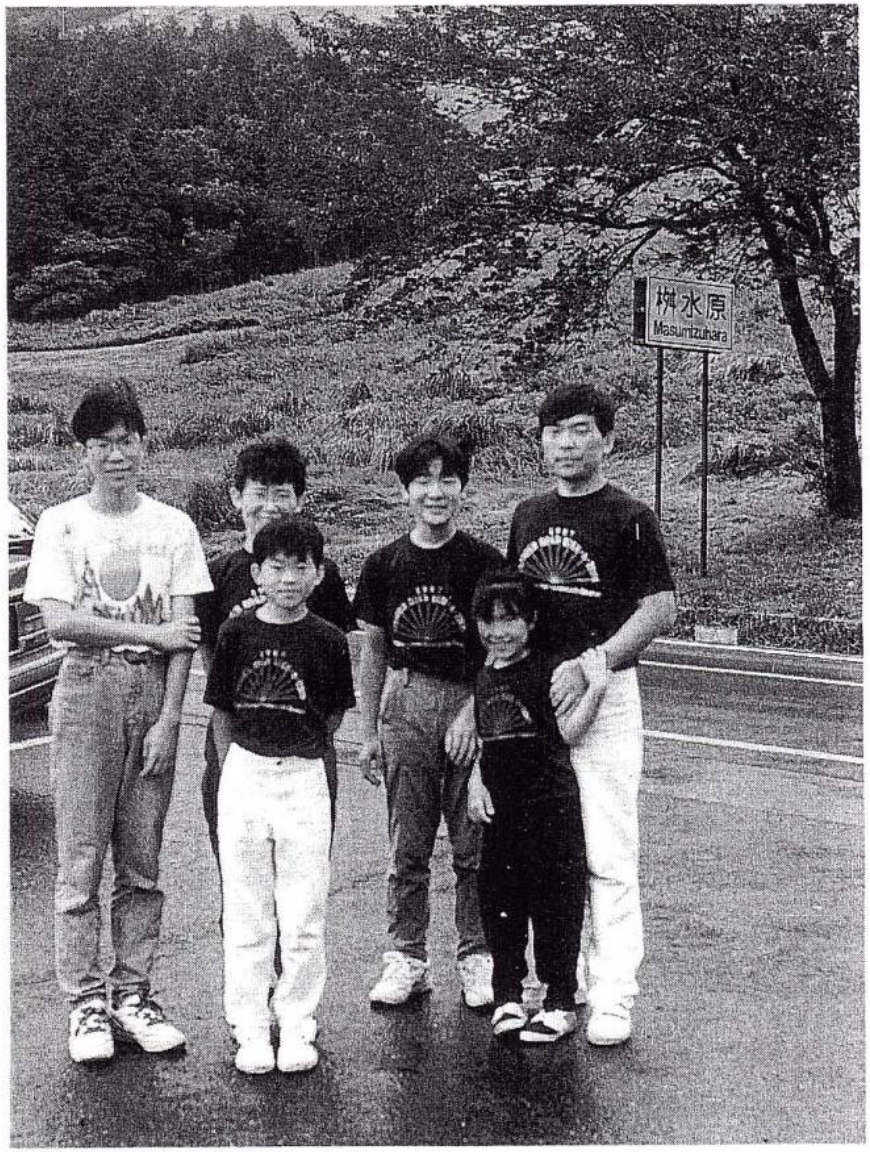
さて，現在私は(社)広島県地区衛生組織連合会と長たらしくも立派な名称をもつ組織に属していますが，この組織は昭和32年「カとハエのいない郷土の建設」のかけ声のもとに組織された公衆衛生推進協議会の広島県本部にあたり，事業専門として環境センター，食品衛生センター，健康クリニックの三部門があります。環境部門がもっとも大きく，例えば新広島空港の環境アセスなどを手がけています。食品部門はおなじみの広島カキの細菌検査や，貝毒あるいは，各種水質検査，食品の細菌検査を行っており，私の属す健康クリニックは年間一万人弱の人間ドックと五万人弱の検診を主な仕事にしています。まだ弱小な部門なのでよろしくお願いします。この様なわけで病理学をふり出しに内科学，その延長として予防医学に身をおいている訳です。

手前みその近況報告に添えた一葉は中央検査部坪倉教授の退官記念会（H．5．3．19）に，久しぶりに同級生四人が顔を合わせたものです。(向こう側左側から有田，私，一人おいて竹崎，岡本の諸君です。こうしてみると皆あまりかわっていませんね)

青　木　陽一郎

40才も半ば近くなり，思うところあり平成４年８月より沼田町伴にて内科小児科クリニックを開業しました。広島の大きい病院には同級生がそれぞれ要職を占めており，お世話になることも多く大変助かっております。紙上を借りてお礼申し上げます。沼田は10年後はともかく，まだ田舎で今まで全く無縁の所であり，経営的には大いに苦戦しています。休日は同級の松村君のテニスグループ（ＴＣＡ）にいれてもらい，生田，市川，藤井，肥後，長尾君らとテニスを楽しんでおります。家族は妻と子供４人で，写真は平成５年夏大山登山の時のもので，右より私，彩（宮園小２），健太郎（附中２年），真（宮園小５），妻裕子，公成（ラサール高２）です。家族でバーベキューや登山やキャンプをしたりスポーツや音楽をするのが楽しみですが，ご他聞に洩れず子供の学校，塾などで家族全員が揃わないのが心残りです。

安　部　　勉

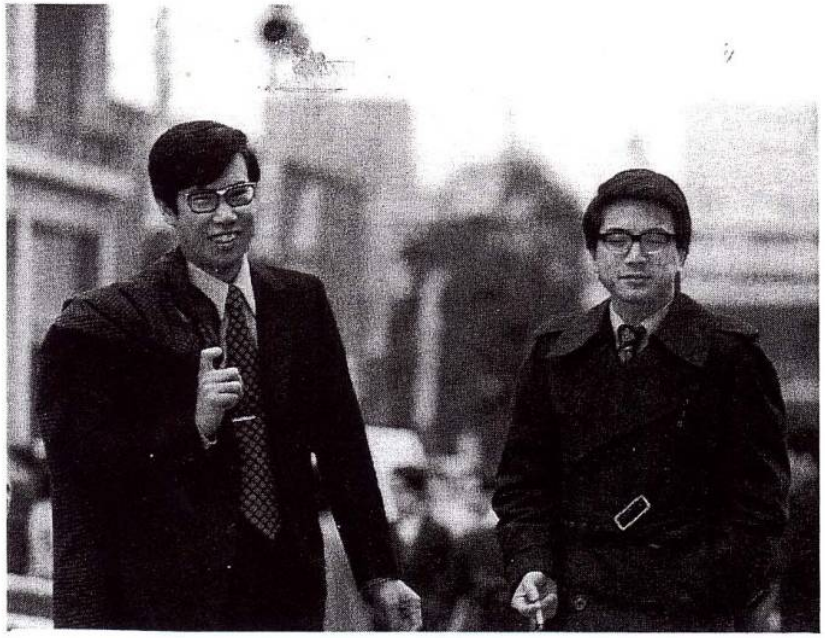


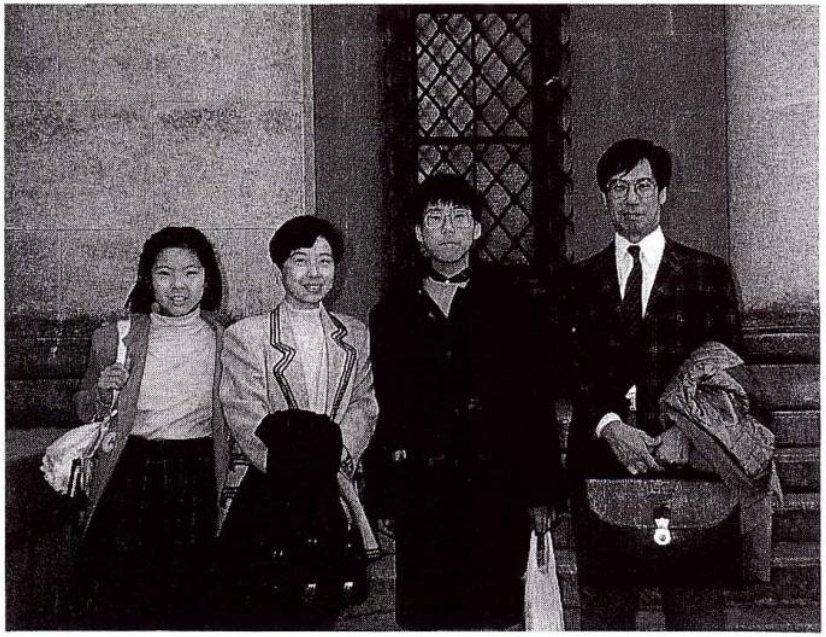
家族は妻と２人の子供（中学３年の長男と小学校６年の長女）で，私を入れて４人で中区に住んでいます。私自身，ついこの前まで小学校６年だったような，あるいは中学校３年生だったような気がします。時間の流れというのは知らない間に積もり積もるものです。

私にとってこの卒業後の20年は，ただその時に与えられた職分の中でがむしゃらに走ってきたようです。今もその延長線上にあり，広島赤十字・原爆病院に呼吸器科を作ってやっと３年がたちました。医局の整備や外来の整備，病棟の確保ができて診療環境が整ったところです。診療内容のレベルアップをはかり，医局スタッフの増員確保をはかることを当面の目標にしています。

40歳を境に髪を染め始めましたが，最近では特に頭頂部を中心に髪の密度がへってきたようです。今後も前向きに一生懸命努力したいと思っていますが，一方では，自分自身の今後を考えながら，ゆっくりと足元を見つめてみる時期にきているかもしれないなと思っています。

有　田　健　一



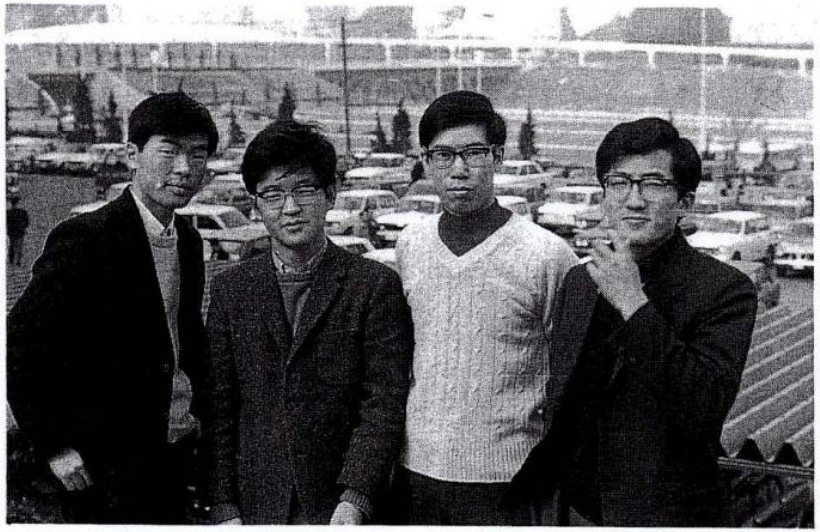


49卒の皆さん，お元気ですか。僕は第２内科免疫グループに入局後，大学病院をキーステーションに比婆西城病院，国立大田病院へ各一年ずつ出たり戻ったりし，最後は地御前逓信病院・ＮＴＴ中央健管を経由して，昭和62年に五日市で開業しました。専門は気管支喘息・アレルギー疾患です。

さて，左の写真は昭和43年に大阪へ旅行した時のものです。まだ開業前で工事中の万博会場へ入り込み，ウロウロしていたらパトカーに注意されて追い出されました。左から安部・小山田・有田・生田です。まだ髪も黒く若々しいこと!!

右の写真は，平成４年の夏のタイ・シンガポール旅行の時の家族写真です。左から白髪の私，長女，次女，超女です。

生　田　隆　穂



昭和49年卒業後，何とはなく小児外科をやりたいと思い誰に相談することも無く，また誰に勧誘されるでもなく，第一外科に入局した。その後土谷病院で心臓外科を，島根県の国立大田病院，双三中央病院，広島記念病院で一般消化器外科を研修し，昭和55年からは大学に戻りずっと小児外科を専従してきた。卒業後今年で20年に成るが，外の病院に勤務したのは３年間のみで，17年間は大学にいたことになり，いつの間にか頭の白さはもちろん，在局年数でも医局で最古参に成ってしまった。

最近はビデオが多く，スナップ写真を撮ることが少なく，少し以前の写真ですが，平成３年夏に信州に行ったときの乗鞍でのわが家４人のスナップです。

市　川　　徹

1992年９月，米子に家族共々赴任しました。勤務する病理学第一講座，中海に接する錦公園，そして飲み屋街まで何れも歩いて５分。大山中腹，日本一の漁獲高を誇る境港そして足立美術館までは車で30分。広島へは車，汽車で３時間余，バスで４時間といった所に住んでおります。快適ですが，夏の雨，冬の雪はさすがに日本海。寒冷地手当てを８月に戴くことになっております。

教室は今の所，閑散。数少ない大学院生には早く歩くことから教育しています。教室のテーマは消化器がんと臓器移植の病理。消化器グループは私を入れて４名。未熟，小型のチームですが，徐々に人を増やしたいと思っております。山陰は臓器移植の後発地ですが，幸い，中四国の各施設からコンサルテーションとして標本を送って戴いております。

中海と大山は四季折々の姿で目を楽しませてくれます。市内のはずれにある皆生温泉は今日も賑わっているようです。

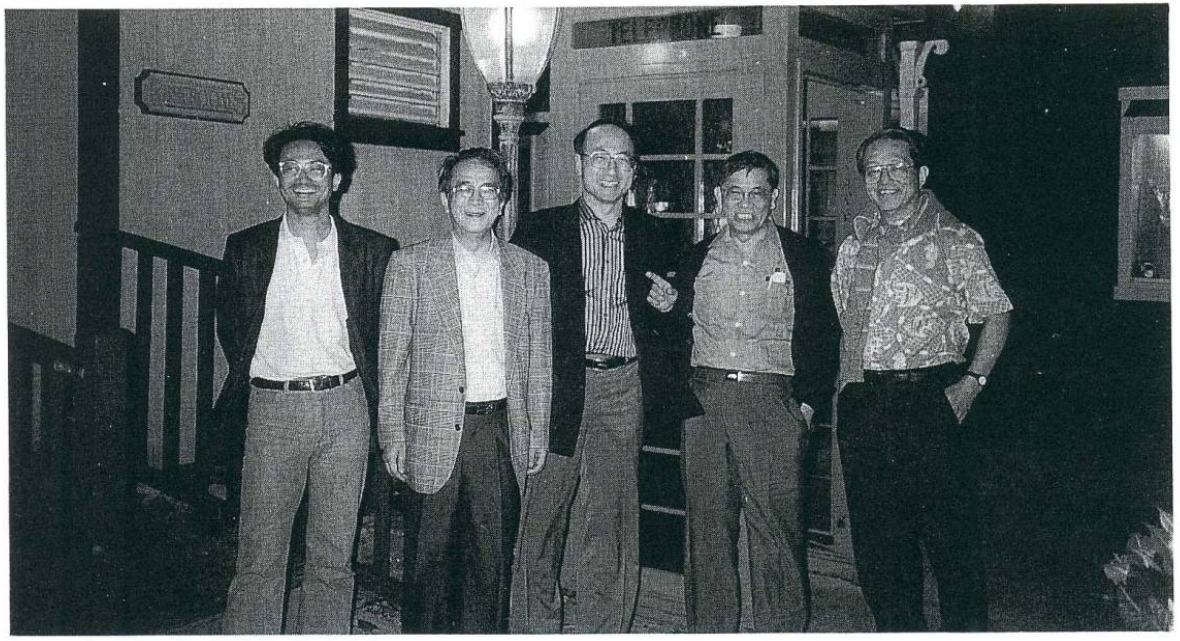
井　藤　久　雄

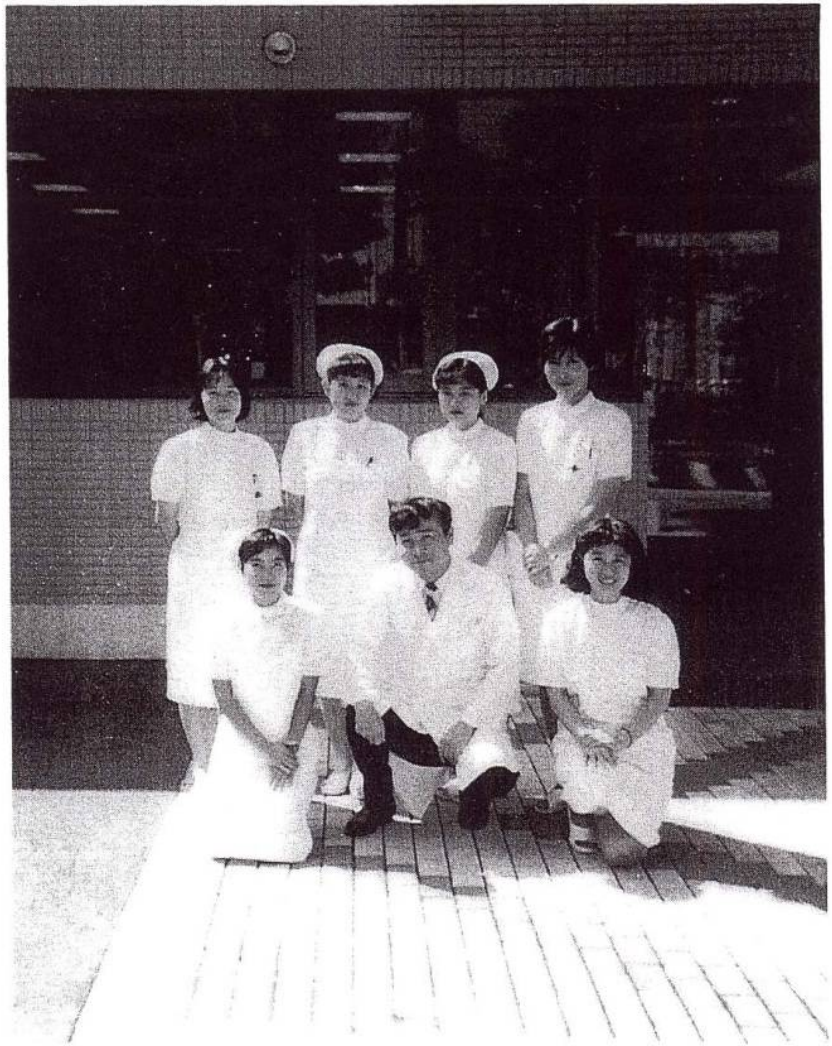
母校の教授職を拝命して３年が過ぎました。就任当時41才でしたので，これからの22年間の長さに嘆息しておりましたが，過ぎてみるとこの３年の早さに驚くばかりです。この早さは浅学菲才ゆえに東奔西走しなければならない事が多いことによりますが，一方今まさに，大学が大きな転換期あるいは変革期をむかえている事も無関係ではありません。

近年，戦後40数年維持されてきた大学教育の枠組みがはずされ（いわゆる大綱化），各大学が独自で魅力あるカリキュラムやキャンパスの整備に努力しなければ，大学自体の存立に拘わる状況が生じています。我が医学部も例外ではなく，医学進学課程が廃止され医学科として６年一貫教育体制を平成６年度入学生から適用すべく，現在，専門教育の新しいカリキュラム作りがなされていますが，その責任者のひとりとして日々頭を悩ませているところです。これからの医療や医師の有るべき姿を模索しながら，一気に改革を断行しなければなりませんが，大学の定員や予算の削減状態が続き，附属病院の赤字等の問題を抱え，改革は容易ならざることです。しかしながら，次代を担う優秀な医師，研究者，教育者を育てることこそ教授職の最大の使命と心得て，励む毎日です。

写真は平成３年３月，日米がんセミナーでハワイカウアイ島へ行った時のものです。右端から名古屋市立大：伊東教授，国立ガンセンター：杉村名誉総長，筆者，国立衛生試験所：林センター長，国立ガンセンター疫学：津金氏。

井　内　康　輝



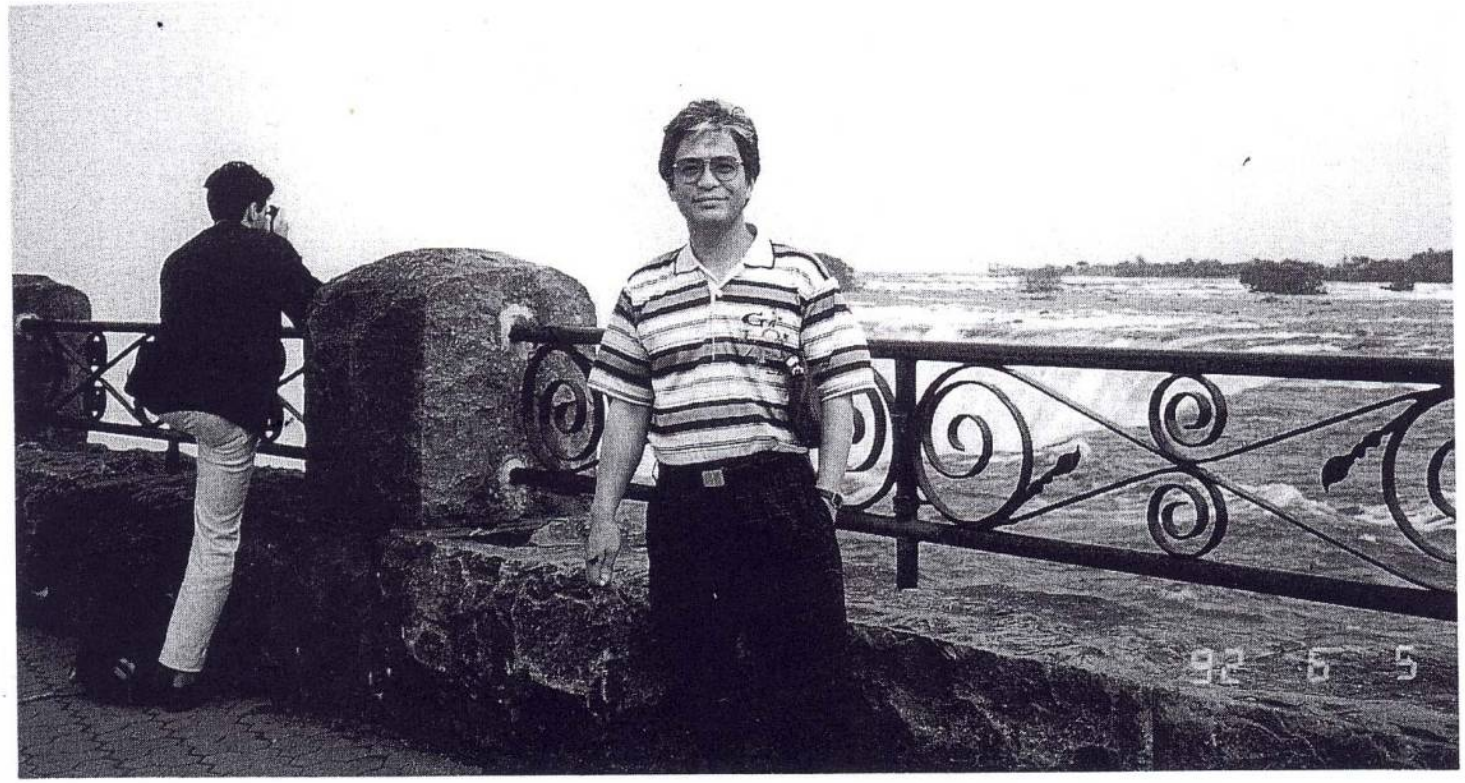


平成３年７月に思う所があって長年勤務した国立福山病院を退職し，福山の自宅近くに無床診療所を開設しました。やっと３年目にはいった所ですが気分的にはすでに５年以上経過したような感じです。一応在宅医療に取り組んでみようという気持ちもあり，この２年間で10件程度の在宅での臨終にも立ち合ったのですが，昔徹夜で麻雀をしたような元気さはすでになく精神的肉体的にそろそろ壁にあたりそうな感じです。気分転換がむずかしく晩酌の量が増え体重も１年間で６kg増加しました。趣味はゴルフ，囲碁，麻雀，釣，野球などですが今は主として囲碁をしております。というのは職場が女性ばかりなので男のにおいを求めて自然に足が碁会所へ向っていく感じです。子供は男１人女１人で早いもので２人とも高校生になっております。診療所は福山駅の近くですので来福の節は是非お立ち寄り下さい。

今　福　健　雄

卒後20年，時には馬車馬の如く，また時には駄馬の如く自分なりに充実感をもって過ごしてきた。しかし過ぎてみれば早いもので，“もう20年もたったのか”と呆気ない気がしない訳でもない。6年前より中電病院に勤務し，皆様の電気代で生活の糧を得，自分の好きな股関節，肩関節などを中心にぼつぼつと頑張っているというのが現状である。数年来，開業にある種の夢と希望を抱いてはいるが，未だ決断しかねている。さて，私の家族は，家内と，息子2人の4人であるが，3/4が男という殺伐とした雰囲気が漂いどうも頂けない。ついつい帰宅が遅くなる。娘が出来るまで頑張ればよかったと思うが，後の祭である。さて写真はNiagara fallを訪れた際のもので少し古くて申し訳けないが，93年2月より肝炎に感染し療養を余儀なくされたため，適当なものが見当たらない。蛇足ながら入院中は諸兄に心配を頂いたが，すっかり回復（但し酒は禁止）し元気に働いていますので，ご安心の程を。

岩　森　　洋



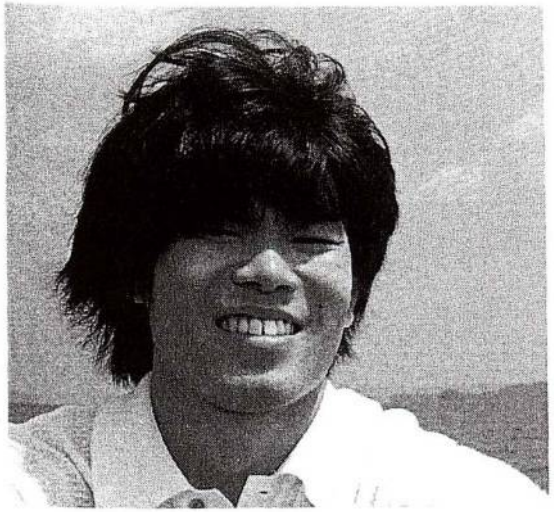
卒業と同時に公衆衛生の大学院に入り，当時の田中教授の紹介で呉にある日新製鋼の産業医の研修を始めた。当時は，現在の公衆衛生の吉永教授が産業医をされており，その指導の下にヘルメットを被り職場をパトロールして環境の測定や環境改善の指導や健康診断の企画をしていた。当初は，４年間を予定していたが，労働衛生が性に合ったようでついつい長くなり今年で20年目になる。また13年前から広島市内の稲荷町で友和クリニックを開き，労働衛生の相談と職業病の治療をしている。働いている人だけを診る診療所で，先輩の松山，広瀬先生から教えてもらった針や漢方等の東洋医学的な治療も行っている。今年からは，医学部の学生と月１回針治療の勉強会を行っている。もし，興味のある人は参加して下さい。

腱鞘炎，腰痛，振動病等の職業病の予防が研究テーマで腱鞘炎予防ボールペンや腰痛ベルトの開発，研究を行っている。

写真左は，学部の３年生の頃女房の里の島根の益田から，萩に遊びに行きボートに乗っている時のものである。あの頃は，髪が長かったのに驚く。痩せており体重も現在と10kg以上は違うと思う。

写真右は，平成５年４月21日の産業指導医の就任披露宴で産業医をしている日新製鋼の上司と女房で撮ったものである。体重の違いがよく分かる。

宇　土　　博



49年，大学を卒業して北九州小倉市民病院で３年の研修の後，小児神経科の勉強のために鳥取大学の脳神経小児科に１年国内留学をした。53年秋，再び小倉に返り，当時としては日本で初めての試みで，障害児のために，教育（保育）と医療と研究を一体化させた施設，北九州総合療育センターが新設され，開設と同時に小児神経部門を任された。

その後，58年春，故郷の尾道市民病院が移転新築されるのを機に，岡山大学小児科の木本，大田原両教授の好意でそこの小児科部長に赴任することになり10年いた小倉を後にした。平成元年４月より当地にて小児科医院を開業し今日に至っている。子供は１男３女で，長女が今春，山口大学の医学部に入学した。今の願いは，娘が自分の歳になるまで第一線で仕事をしていたいことである。こう書くと，私もいつのまにか，仕事中毒症といわれる悪しき日本人の熟年世代になっているのだと考えさせられる。（写真は尾道ロータリークラブの面々との写真です。右端が私です。）

宇　根　幸　治

この企画のために古い写真を探していたら昭和47年，同級生と一緒に隠岐に行った時の写真が出てきました。

この企画のために古い写真を探していたら昭和47年，同級生と一緒に隠岐に行った時の写真が出てきました。向かって左から，立石，生田，有田，長尾そして私ですが，20数年経ってみんな頭のあたりが多少変わっているだけで，まあ他は今と同じ様なものだと妙に自信をもった次第です。(ほんとかいな)。しかし，40歳代になって体力は落ちましたねえ。徹夜すると次の日は仕事になりません（まあそんなことはどうでもいいか)。

今年（平成５年)，家族と一緒に再び隠岐を訪れました。もう１枚はその時の写真です。隠岐は町並みが変わっていましたが，自然の景観，古い神社のたたずまいは以前とまったく変わっていませんでした。人間だけが歳をとっていくのだなあとしみじみ思ったことです。

現在，私は呉市の中国労災病院に来てから11年，やっと「循環器内科をやっている」と人に言える様になりました。

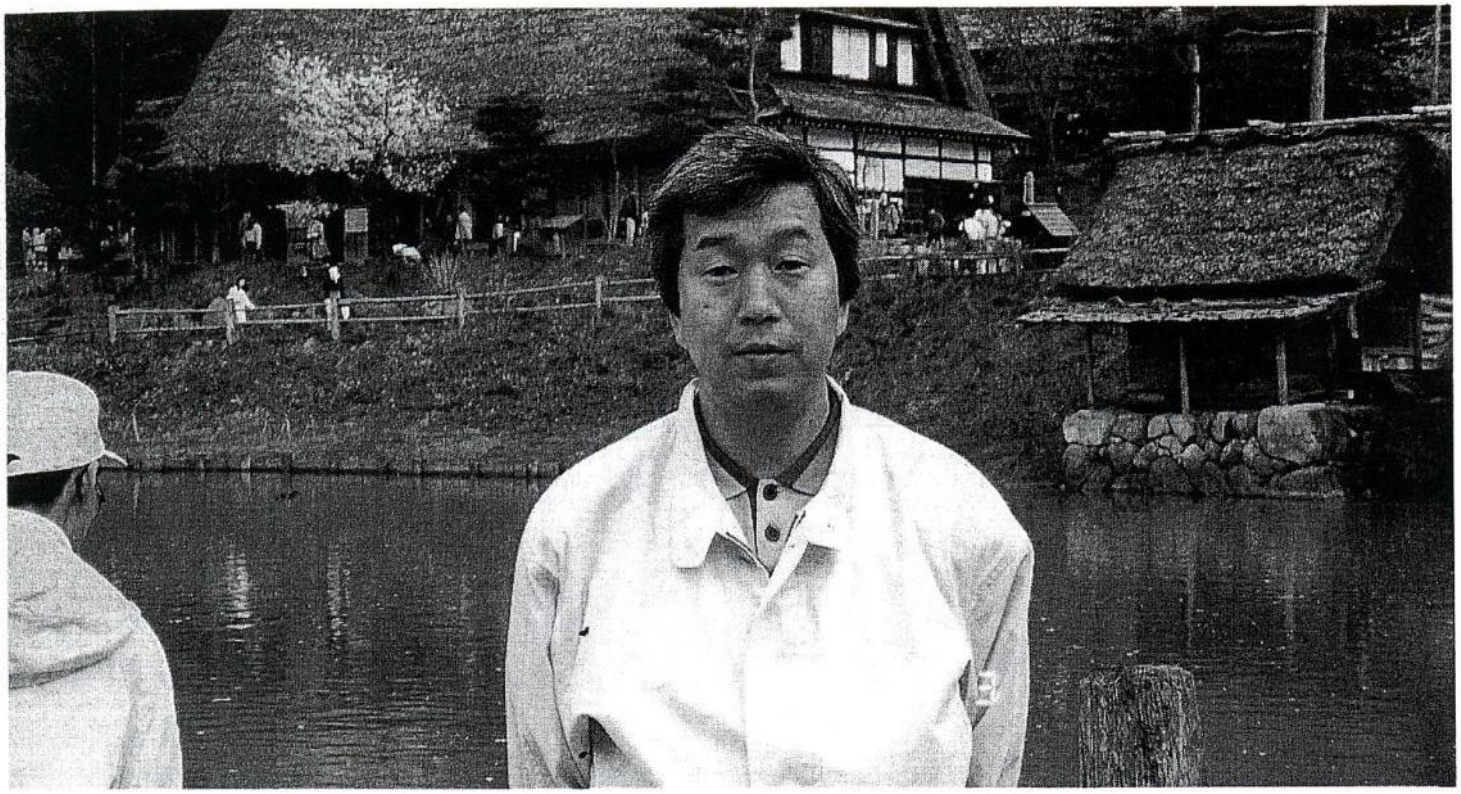
榎　野　　新

昭和61年４月に現在の広島赤十字原爆病院眼科に赴任して８年になります。今年の８月には待望の新居が出来上がる予定で，この調子だとこのまま居すわってしまいそうな気配です。

子供たちもいつのまにか随分成長しまして長男が高一，次男が中二，長女が小学校五年になります。頭の痛い大学受験もすぐそこのことになってきました。某君の御子息が広島大学医学部医学科に合格されたと聞きおよびましたが，実に羨ましい限りです。我が愚息には「神風」が吹くことを願うしかなさそうです。

仕事以外の楽しみと云えばゴルフ，ゴルフ歴は10年以上になりますが，腕前はＨＤ19と何とかやっているという程度。大谷潔君と芸南医師同好会の幹事を務めていますが，同好会での成績はいつもＢＢ候補と奮いません。チャンスがあれば誘ってやって下さい。

追　中　松　芳



学４の春，久世町（岡山県）で行われたリーグ戦参加時の４人です。

左から，小野君，大久保君，今福君，日浅君です。前原君の故郷で，春秋年２回の定期戦があり，医学部以外のチームは強く，一部リーグに残るのが大変でした。

現在，市内の福間外科に勤務しております。

平成３年度の院内小旅行（米子）で撮ったものです。丁度，中国腎不全研究会と重なったため，前半同行し，後半発表帰広しました。

学生時代と体型が変わり，体重が65kg，頭の方も薄くなって来ましたが，融通のきかないところは余り変わっていないように思います。

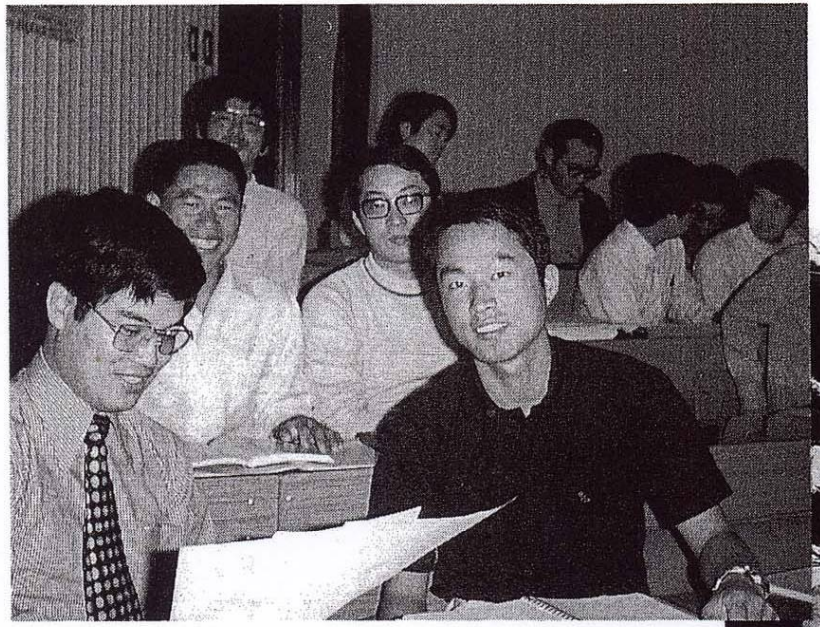
大久保　　孝

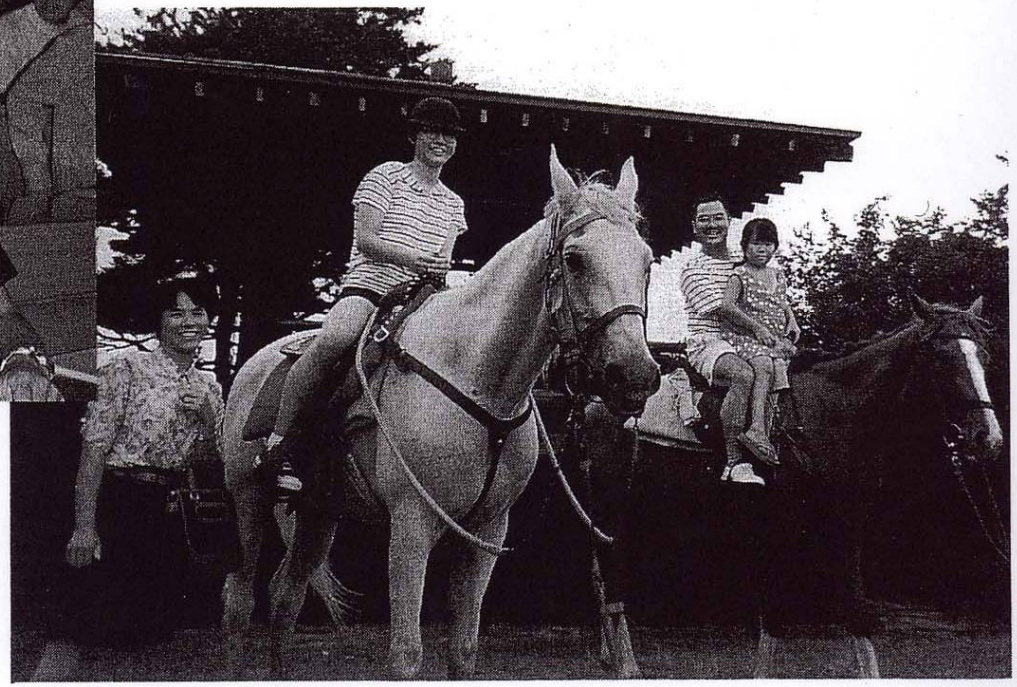
学生時代の写真をみて，私を含めみんな若々しい姿になつかしい想いがよみがえります。己斐に小児科を開業して，11年目となりました。長女（高２年）はバスケット部，長男（中３年）は野球部，次女（小２年）はスイミングと，皆クラブで忙しい毎日です。

私はゴルフに熱中していますが，腕前は今一歩といったところで，楽しみ優先です。

この写真は，夏に小豆島に旅行した時，長男が撮影したものです。

大　谷　　潔

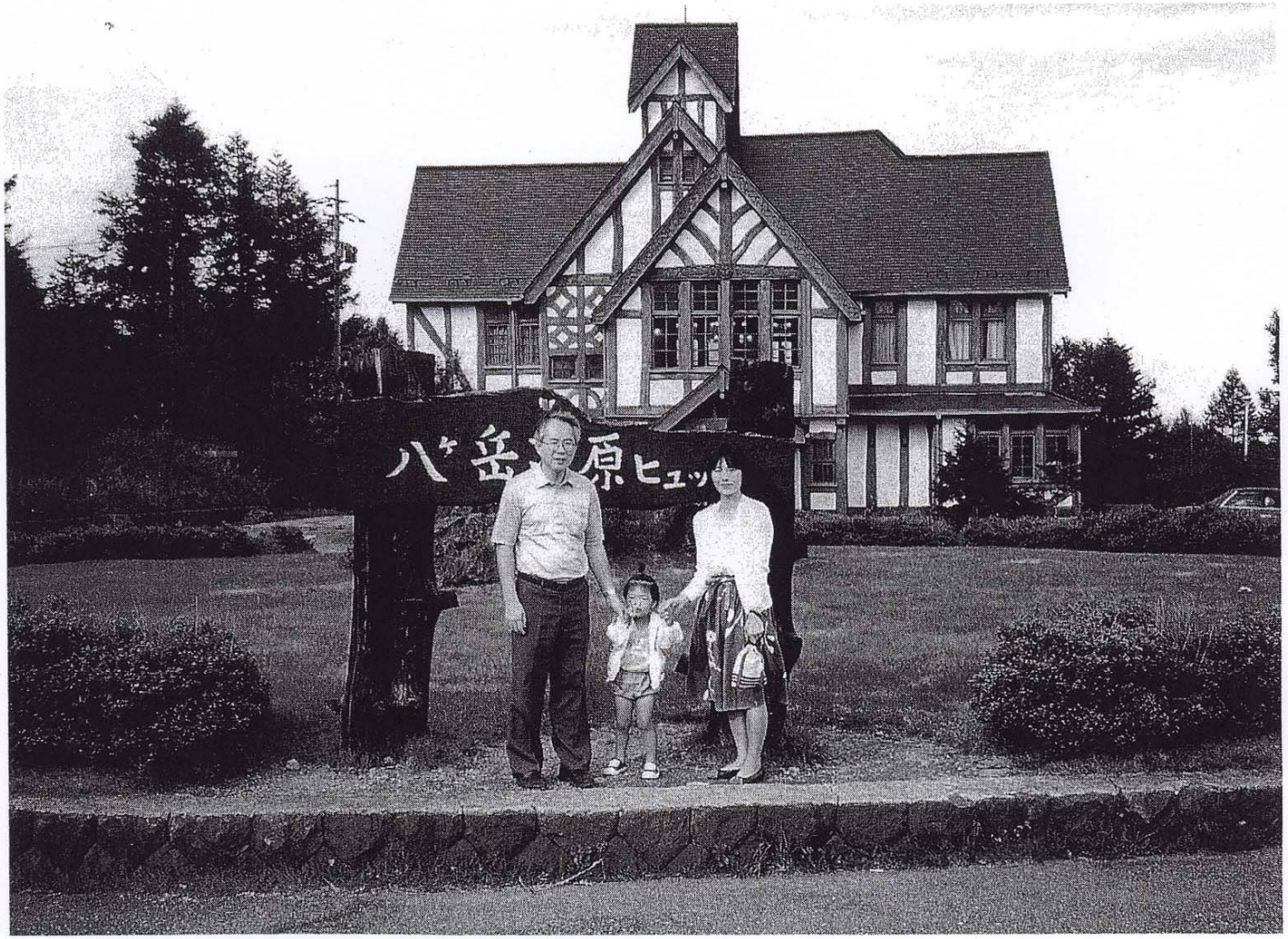




山梨県の南部，富士川のほとりに住んで８～９年になります。写真のように妻と三才の長男と三人家族です。私は頭が白くなり，全体が太目になりました。

山梨に来て，スキーと渓流釣りを趣味にしていましたが，ここ５～６年はもっぱら，地の利を生かして？富士山の写真撮影に凝っています。富士は朝夕一瞬一瞬色々な表情をみせてくれて実に感動的です。

大　成　憲　二



「医師国家試験に落ちる」という夢を今でも見ることがある。「今からどうしたらいいのだろうか」と悩み苦しんでいる中で目を醒まし，「医者として働いている自分」に気づき「ホッ」と胸をなでおろす。今まで，こんなことが何回あったことだろうか。卒試から国試までの間の精神状態は，今から考えても，確かに不安のかたまりといった感じで，正常とは言い難い。しかし，それが，20年近くたった今でも，夢の中に現れるとは，兎にも角にも，皆と同じように国試にも合格し，今は医者として働いている，しかも，自分の力量のみが試され評価の対象とされる開業医という立場に立っている。診療の場においては，「一期一会」という言葉を座右の銘としている。一回しか診療できないかもしれない患者さんに対し，全力投球で治療にあたるというものだが，どうも最近は，変化球や，スルーボールがふえてきたようだ。

岡　田　正　範

“よく遊び，よく学ぶ”をモットーに20年歩んできた。“よく遊び”の実行は生来のスポーツ好きで“野球，ゴルフ，サッカー”にとかっこ良く跳び跳ねたいところだが，ごろ寝でテレビを独占しているおとうさんとなり日曜日ともなると粗大ゴミと化している。ふと見ると20年前の西医体10連覇の記念写真（岩森，追中，高田，本家）があり，懐かしい。昨今のＪリーグの盛り上がりは，再び血が騒ぐものがあり，息子２人を連れて“オーレ，オレ，オレ，オレ”をやっている。皆は，立派な社会人，医者になっていることと思う。小生の20年は，実に転々としたもので昭和49年に第二外科入局（一緒にいた同級生は　井藤，大久保，奥道，土井，西村，夜陣），脳外科入局（土井，西村），松山赤十字病院（柳川）一時，沖縄赤十字病院，広大脳外科（土井，西村）一時，久井国保病院，国立循環器病センター（岡本，末広），広大脳外科，中国労災病院（榎野，岡田（正），竹本，中川）一時，ドイツのマックスプランクに留学，米国（メイヨクリニックなど）に研修出張，現在に至る。幸い多くの良い指導者に巡り合う事が出来ハッピーであった。現在島部長のもとに集う国内外（写真はハンガリーの医者ら）から多くの若人と共に未来を夢見て頑張っている。

岡　田　芳　和

①硬式庭球部新入生歓迎コンパでの記念写真。

松浦教授，生田教授の若き日の姿が印象的です。初々しい有田氏，おぼっちゃま風の榎野氏，笑顔のかわいい大成氏，涙をさそう故岡本勝美氏，まだ純朴な定本氏，この頃よりすでに風格のある田頭氏，田頭先輩と対照的にあどけなさの残る吉田氏，この頃より顔の大きい筆者など懐かしい顔が並んでいます。

宴会の会場も，今は無き中野荘です。

②昨年10月，中国四川省に医学交流で訪れた時の写真。講演？に気をとられてか，熱烈歓迎の垂れ幕は，後でこの写真を中国から送ってもらって初めて気づきました。

岡　本　光　師

昭和49年，第２外科に入局し１年間の研修の後，国立療養所広島病院に３年間出張。その後８年あまりを大学病院にて呼吸器外科を専門にすごし，昭和61年８月より吉島病院に外科を開設し現在に至っている。年間約160例（呼吸器４割，一般６割）の手術を外科３人でこなしているが，結構忙しい毎日を過ごしている。趣味であるパソコンは，PC－98に飽きて最近買ったばかりのMac Lc－IIIのマウスを追いかけ回している。もう一つ趣味のゴルフは，月２回ぐらいはやっているがスコアは一向によくならず，「ゴルフは楽しければいい」とか「ゴルフは健康のため」とかいいつつ，曲がらずよく飛ぶクラブが売り出されるのを首を長くして待っている今日このごろである。

奥　道　恒　夫

生田先生に催促されつつ，久し振りに昔のアルバムを開いて見ました。その中で，特に印象強かったのがこの写真です。卒業してすぐに研修を始めたのが，第三内科でした。病棟も開設されたばかりで，研修医も私たちのグループだけでした（安部，榎野，立石先生と私）。三内科のスタッフも充実しており，脳血管造影，腰椎穿刺，筋生検，脳波など，多くの経験をさせていただきました。

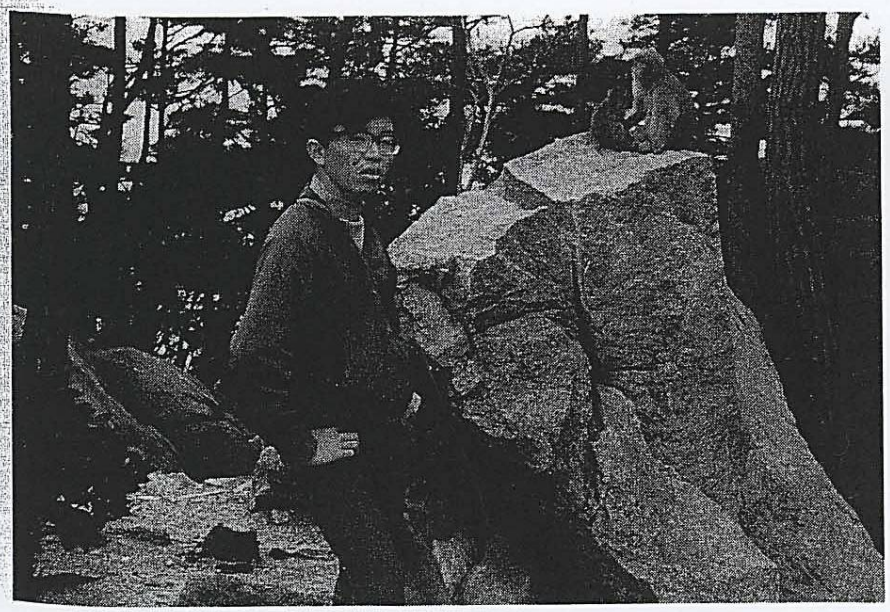
最近の写真は，家族旅行のスナップです。毎年，夏休みを一週間取り，旅行に出かけています。最初は喜んでいた子供達も，最近ではイヤイヤながら，ついて来る始末です。この写真も一人抜けています。来年は，どうなることかと思っています。ところで写真の後部に見える島，どなたかお買いになりませんか。七億円で売りに出ているそうです。一年中暖かいし，海はどこまでも青く澄んでいます。

奥　道　和　子
（旧姓　植木）

開業して５年経ちました。貧乏性のため，いつものことながら，問屋，メーカー，保健所，市役所，支払基金と喧嘩の相手は拡がり，時には，銀行，厚生省というところまで喧嘩してしまうのが，開業医の苦労なのですね。女房が喧嘩好きでよかった。僕はおかげで何もしなかったけど，疲れました。貧乏のためから始まったレセプトも，パソコン５台でＬＡＮで結ぶようにしました。結構疲れたのでお金のある人には自作は勧めません。

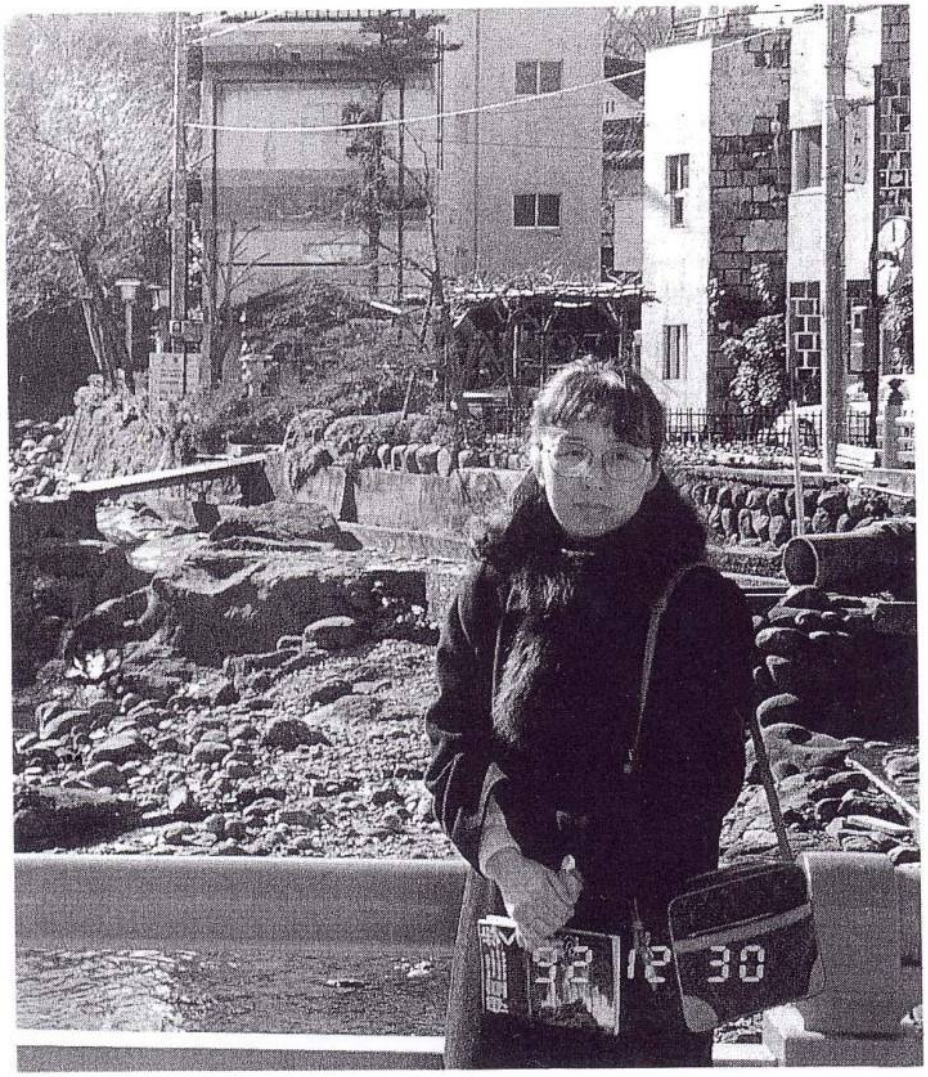
息子の中学校の生徒アンケートで，なりたくない職業は，１位　やくざ　２位　医者　３位　政治家とのこと。あまりにもマスコミで作られた悪徳医者のイメージで，事実よりも売れるかどうかが，先行する商売としてのマスコミには，「沈黙は金」で抵抗する以外ありませんね。

生　越　正　史



皆さん，御無沙汰しています。

私は主人の上智大学転任について上京し，６年前から国立療養所中野病院呼吸器科へ勤務しています。結核の伝統を背負って来た中野病院も今月で終止符を打つことになり，本日は最後の当直をしながら，これを書いています。これまで家庭の事情で病院を転々しましたが，病院と共に終わるのはこれが初めての経験で，社会的に不安な存在と烙印された悔しさと噴りに傷心しているます。その前に勤務した岡山県の国療津山病院は，症例も多くドラマチックなエピソード豊富な大変面白い地域病院で，そのときの患者さんの出版されたノンフィクション「二度わらべ」に登場するあわて者の女医さんと勇敢過ぎる婦長のコンビは大事な記念となりました。



「親はなくとも子は育つ」とはいうけれど，研修医のときに生まれた一男（18才），一女（17才）も受験の時期を迎えています。

10月からは，国立国際協力医療センターで仕事をするようになっています。

どうぞお元気で幸せにお過ごし下さい。

豊　田　恵美子

（旧姓　小崎）

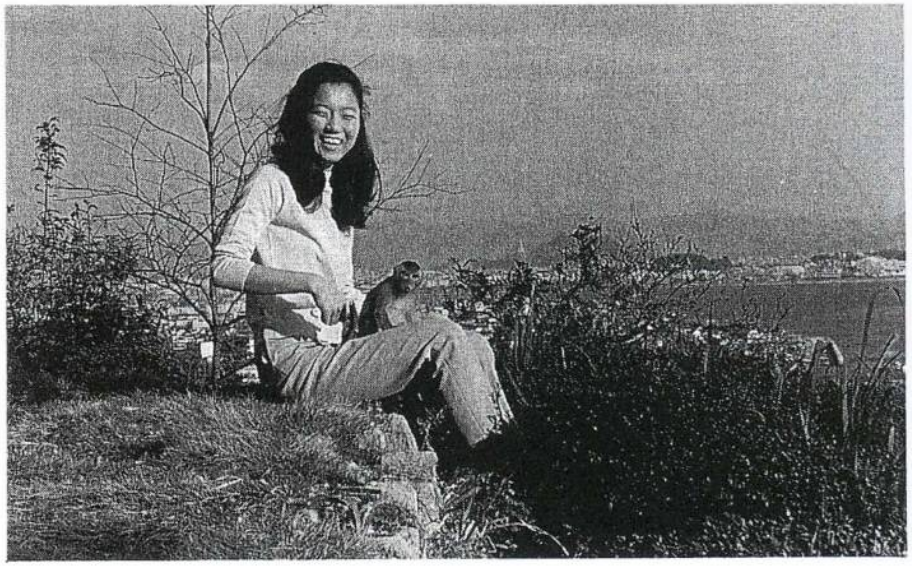
東広島市の国立療養所病院の最年少として就職して十数年，そのまま居座って上から？番目となりました。いつの間にか結核，及び非定型抗酸菌症が専門になり，あれやこれやでいつも何かの締切に追われている感じです。診療面では十年以上の長いお付き合いの患者さんも多く，病気の長期経過だけでなく，人の一生と病気の関わりを教えてもらいながら御世話させていただいています。

さて家族の方ですが，循環器疾患相手で在宅時間不定の夫，夜行性で天才型の長男，早寝早起きやや横着者の次男，何事もきっちり優等生型の長女と各種そろっております。３人の子供達は次々に受験期を迎え当分「受験生の母」も兼業することになりそうです。

広島病院横の大沢田池にて長女と。かも，さぎなどバードウオッチングの好適地です（写真左）。

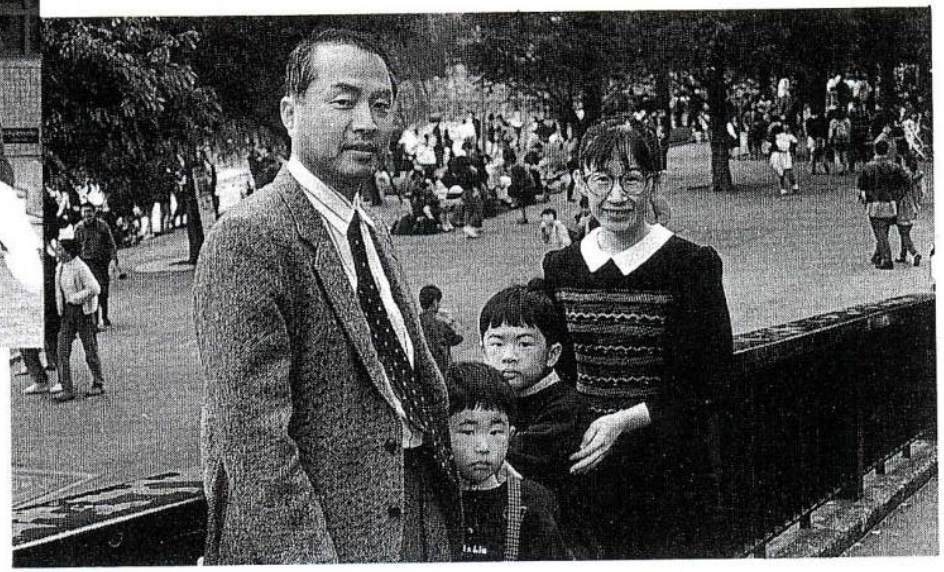
20数年前の海は現在アルパークなどが並ぶ街になってしまいました。膝の上のお猿は女の子にかわり？ました（写真右）。

重　藤　えりこ
（旧姓　小田）



卒業後は腎移植に夢を抱いて第二外科に入局し，現在まで一応それにそった道をきていると思っている。昨年9月に3年間過ごした松山赤十字病院から大学に帰り，現在は病棟勤務の傍らにブタを使った肝臓移植の実験などを行っている。昭和58年にやや遅めの結婚をし，現在は妻に二人の子供（長男8才次男5才）の家族4人で比較的平穏に暮らしている。学生時代の写真はいずれも学4の時のものでひとつは講義室内で大谷，日浅，前原君達と写したもの（大谷潔君のページ参照），後方に香川君や小金丸君，柳川君達の顔も見られる。席が決められていたわけではないのに，いつも同じ様な連中とノートを並べていた。公衆衛生学田中正四先生の講義の時，欠席していた私が教科書の読み上げを指名され，日浅君が代返代読してくれたが，その次に出席番号は離れていたにもかかわらず彼が指名されたため絶句し，皆が爆笑した話が思い出される。恐らく田中先生は日浅君の顔を知っておられたのだろう。もう一方は舟入病院でのポリクリの際のもので，左から井藤，幸田，高橋，松岡，私，日浅，児玉，大谷，大久保，藤井の各氏との1枚である。

小　野　栄　治



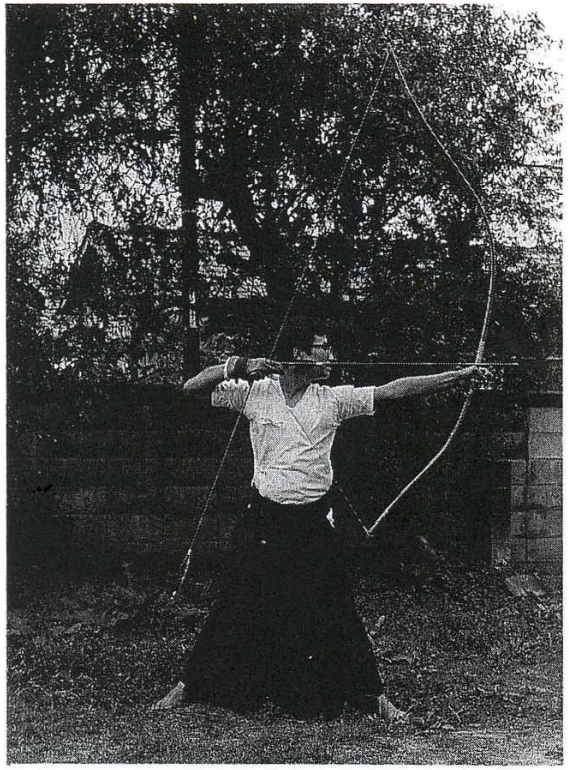
平成元年に広島三菱病院を辞め，自宅近くで内科を開業，貧乏暇ありの気楽な生活を送っています。平日にはもっぱら患者の話し相手，休日には晴れれば魚釣，雨がふれば絵を描くといった晴釣雨描の繰り返しで，極楽での生活とはこんなものかと思えていますが，そろそろ呆け防止策も必要となってきています。このような開業医の生活で知識，技術の維持，向上に努めるのは大変なことだと実感しています。

同級生の皆さんには患者の紹介に際し大変お世話になっており，この場を借りてお礼申し上げます。勤務医で残っている皆さんには頑張って病院長を目指し，今後も助けて戴きたいと願っております。

小山田　　健

大学を卒業して19年。定職に就かせていただいて13年。平成元年４月より安佐市民病院内科に勤務させていただいています。専門は肝臓病。肝炎，肝硬変，肝癌，食道静脈癌と疾患は多彩です。最近はＣ型肝炎のインターフェロン療法で多忙です。黄疸，肝腫瘍，すべて肝由来，肝原発と見做されることが多く，他の消化器専門医に助けていただいています。廿日市市より可部まで山陽自動車道経由で通勤しております。車の走行距離は年間２万km。夜間視力の減退を感じます。家族は，妻，娘，息子，各１名。犬１匹。子供は勉強しません。やはり親ゆずりでした。Golf のハンディは10で止まりました。最近パソコンを始めました。98を買って，１年以内にＭａｃを買ったため，妻は不機嫌です。意のごとく成らないのはパソコンだけではないようです。

折　免　滋　雄



早いもので，卒業後もう20年を迎えようとしていますが，卒業の年の11月に結婚した私達も，同じだけの年月を重ねてきました。３人の子ども達も各々に成長し，やっと手が離れてくれました。

しかし２人の仕事も年々忙しくなるようで，なかなか自分の時間を持てそうにありません。

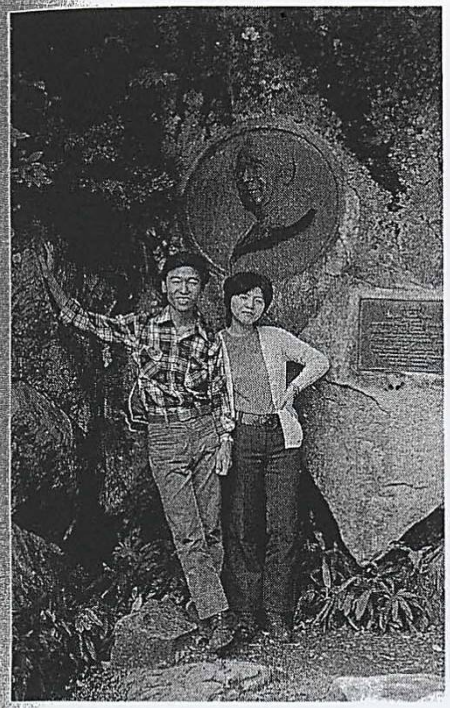
主人は，呉共済病院での勤務が５年目を迎え，呉の人間になってしまいそうです。これまで双三中央病院，西城病院，呉共済病院（昭和56年）への出張を経験し，今回を含め，単身赴任期間も通算では，長くなってしまいました。

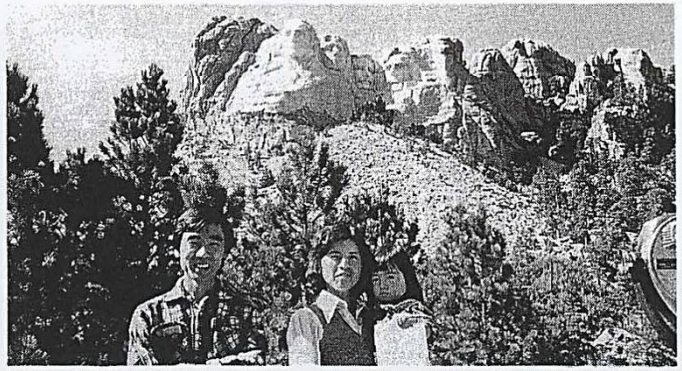
私は，吉島病院に４年弱勤務した後，１年間を主人の Denver 留学に長女と同行し，主婦業を経験しました。帰国後は，長男出産後間もなく日本通運健康保健組合に所属し今日まで，産業医として働いています。

これからは，多忙な中にもゆとりと潤いのある生活を目指したいものです。

勝　部　泰　裕

勝　部　睦　子（旧姓　福原）





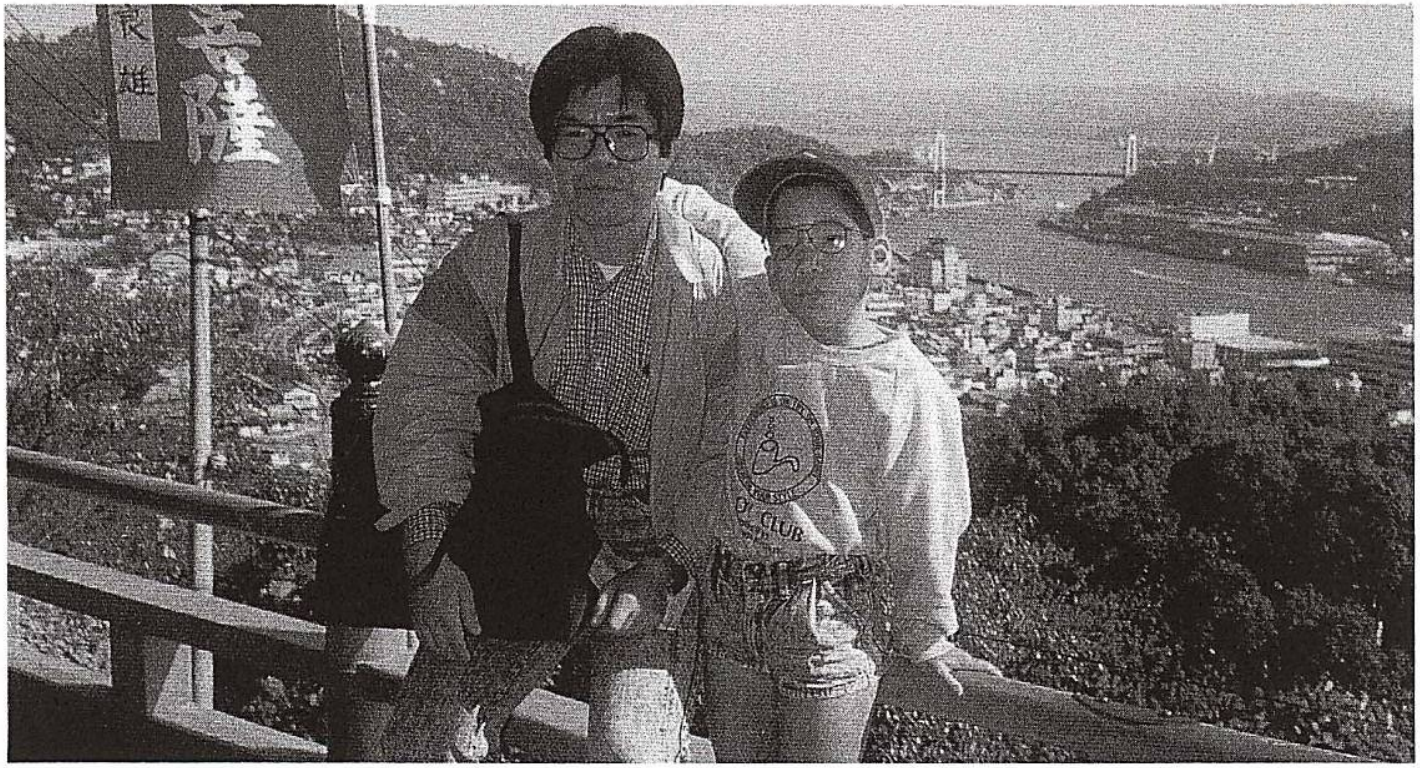
ずっと金沢医科大学で小児外科をやっていました。一応講師にもして頂き，学位も頂きました。金沢医大のラ

ずっと金沢医科大学で小児外科をやっていました。一応講師にもして頂き，学位も頂きました。金沢医大のランニングクラブに所属し，毎月300キロ以上走り，河口湖，篠山，小豆島，明日香村などのマラソンにも遠征し，のんきにしていたのですが，昭和63年石川県鳳至郡（能登半島）公立宇出津病院に小児科・小児外科医長で単身赴任，シベリアからの季節風を受け約２年間を過ごしました。

能登半島に赴任中の生活は，大学とは違った，地域医療を担っていると言う充実感のある毎日でした。その後，別に望郷の念止まらず，といった事もなかったのですが，縁あって２年半前に東広島市西条町に住み着くことになりました。小児科だけでなく，最近では内科もやっています。５月からは，また開業という転機を迎え，目下，その準備でゴチャゴチャ，一家五人と犬１匹猫２匹を背負って頑張る決意を固めている今日この頃です。

ハスキーも真顔で転ぶ春の道　武司

川　中　武　司



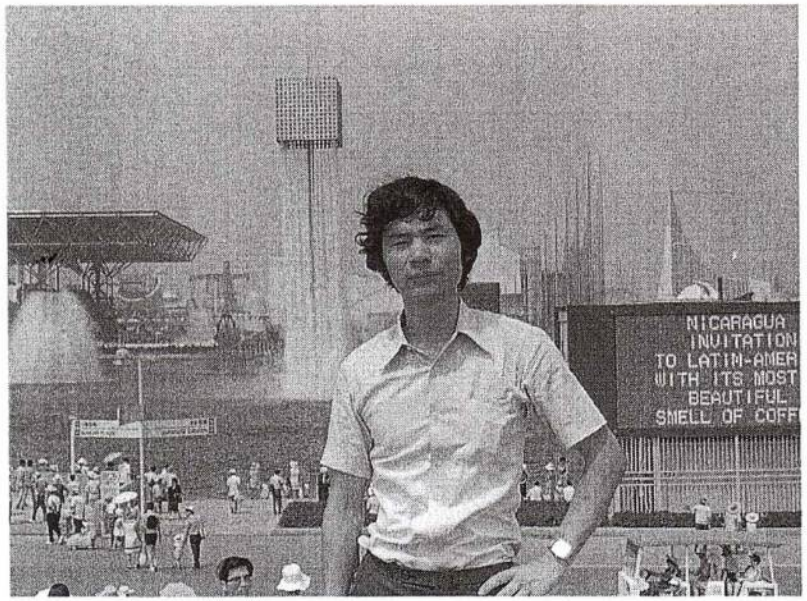
早いもので卒後20周年を迎えることになりました。記念アルバムを作成するにあたり「近況報告」をという実行委員会からの依頼を受け，どうしたものか？と頭を抱えるている内に締切の期日が過ぎてしまいました。

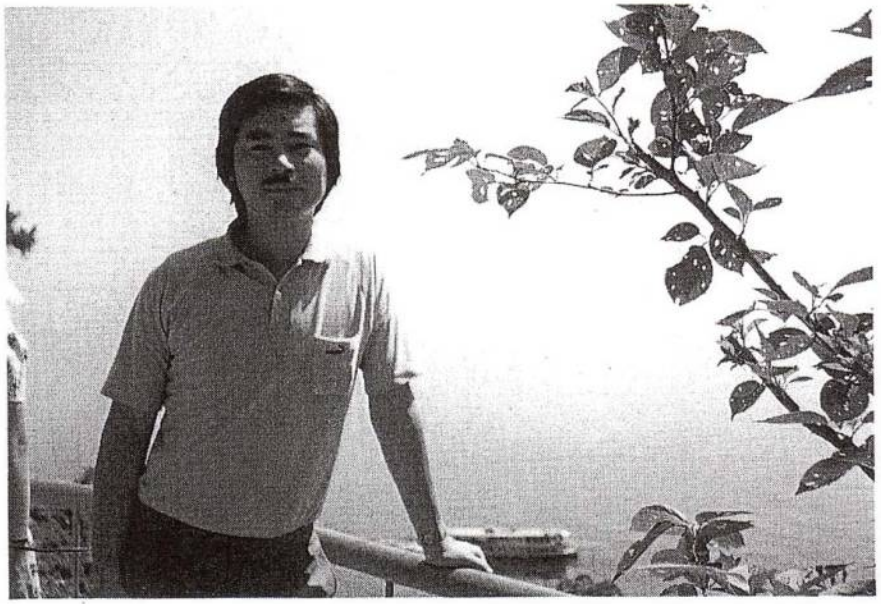
世界の変動は目まぐるしく，アメリカに於いては団塊世代（ベビーブーマーポピュリスト）の正副大統領が誕生しました。同世代の私達も刺激を受けざるを得ません。皆さんもご覧になったと思いますが，私はチャプリンの「独裁者」という映画が好きで，テープが擦り切れるほどに何度もビデオを見ました。妻からは「あきもせずよく見るね！」と皮肉も言われました。

映画の最後にヒンケル（独裁者）に瓜二つの床屋さんが偶然にもヒンケルに間違えられて，全世界に向けて演説する印象的な場面があります。その演説の中で私が一番印象に残っているのが次の一説です。

More than machinery, we need humanity.
More than cleverness, we need kindness and gentleness.
Without these qualities, life will be violent and all will be lost.

清　川　育　男





卒業して20年，第一回の同窓会で広島を訪れた以外は，奈良の田舎で子育てと仕事に無我夢中で過ごしてまいり，皆様とはとんと御無沙汰いたしております。現在，大和三山に囲まれた奈良盆地の南部に位置し奈良医大に徒歩で10分の所に居を構えております。仕事場まで近いということもあって，なんとか今日まで仕事を継続してきました。卒業当初は阪大眼科に席を置いておりましたが，奈良にまいってからは麻酔研修後，腫瘍放射線科というあまり耳慣れない教室で毎日過ごしております。それなりに楽しんでおりますが，最近は体力・知力共に衰えてまいりましたので，第２の生活設計（今まで学んできました内視鏡を中心にした画像診断のできる環境）を模索しているところです。現在当地は吉野の桜も春爛漫で，もうすぐ若葉の季節を迎えます。あわただしい中に四季折々のかがやきを具現する様は人生に似て面白いものです。奈良・京都においでの折りは是非お立ち寄り下さい。

錦　織　ルミ子
（旧姓　鯉田）

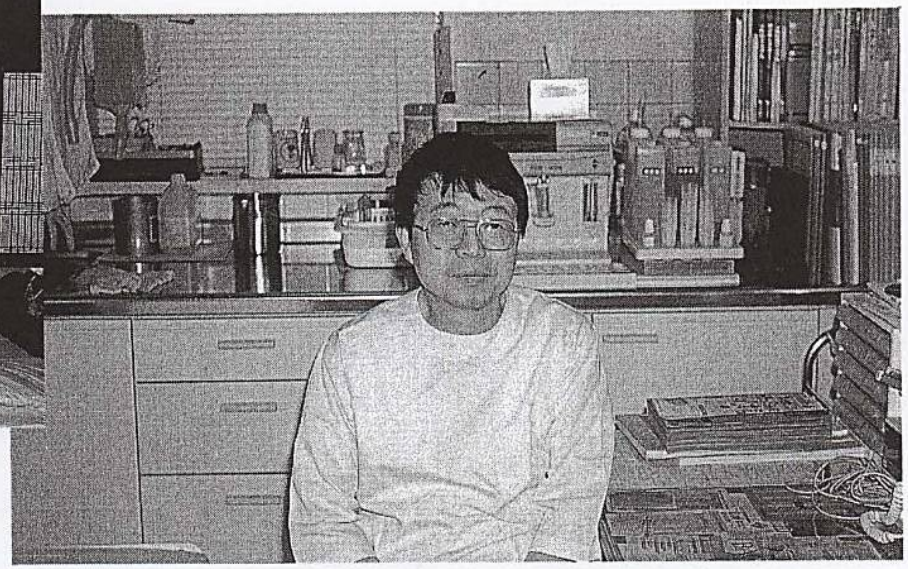
卒業してもうすぐ20年になりますが，いろんなことがありました。過ぎ去ってみれば，なつかしく，又あっという間の20年間という感じがしています。

Ｈ３年９月より広島市向洋新町（洋光台）に幸田内科医院（内科・ペインクリニック）を開業しました。最初はなれないことばかりでたいへんでしたが，最近はやっと自分なりの診療になれてきた感じです。

運動不足で困っていますが，なんとか朝30分の犬の散歩と，週１回の卓球の練習をするように頑張っています。趣味の囲碁の方も，いろいろと雑用が多く，勉強する気になれませんが，何とか頑張りたいと思っています。

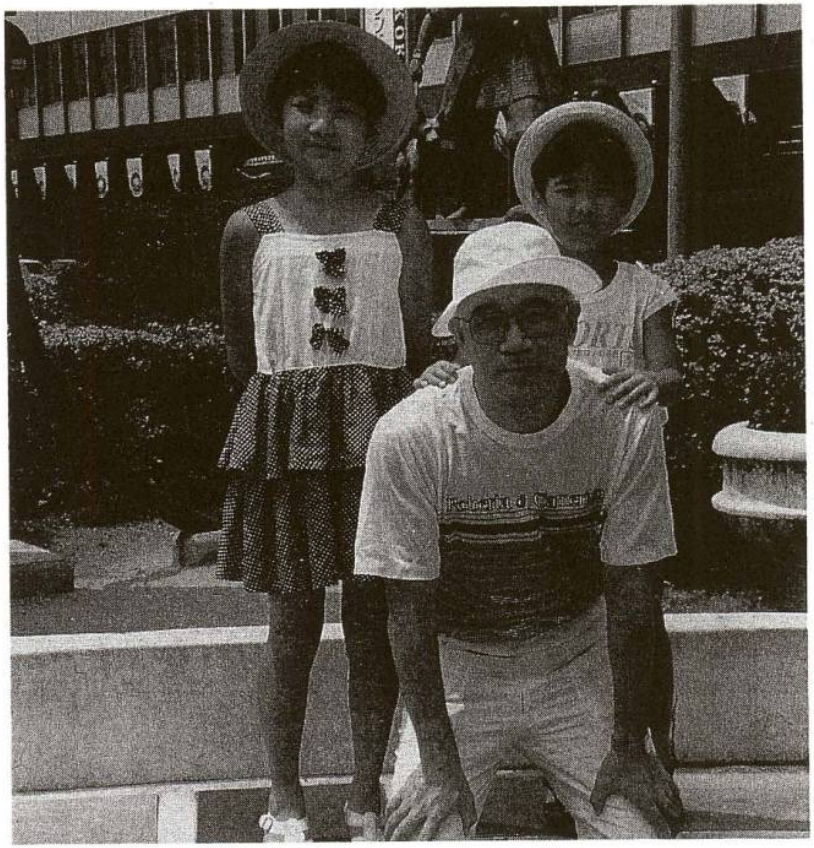
風邪をひくことも多く，体力のおとろえを感じていますが，これからの残りの人生も充実した日になるように頑張りたいと思っています。

幸　田　清　文



原医研内科に入局後，故郷へ帰り，離島の医師として七年間勤めましたが，地元，離島，若さ故結局一度も海水浴に行けない生活でした。ただ夜空の星がやけに美しかった事を覚えています。今は文字通り海のそばにある広島シーサイド病院に勤務しています。広島に来て子供は捻橋先生にお世話になり，私は年がいもなく町内会の運動会で走りアキレス腱を切り吉岡先生に治していただきました。やはり持つべきは友と感謝しています。土，日は子供会のソフトボールの練習に付き合ったり，密かに腕をみがいて幸田先生に四子で囲碁の挑戦に行っては返り討ちに会っています。写真は日赤学生奉仕団で寺で合宿した時のものです。重見先生と私が写っています。あと一枚は家族で岡山に行った時のものです。長女（小六）は塾に通い，長男（小４）は市民球場のファールボール取りに熱中しています。先日，小山田先生と球場でバッタリ会い久し振りに勝ちゲームをみました。

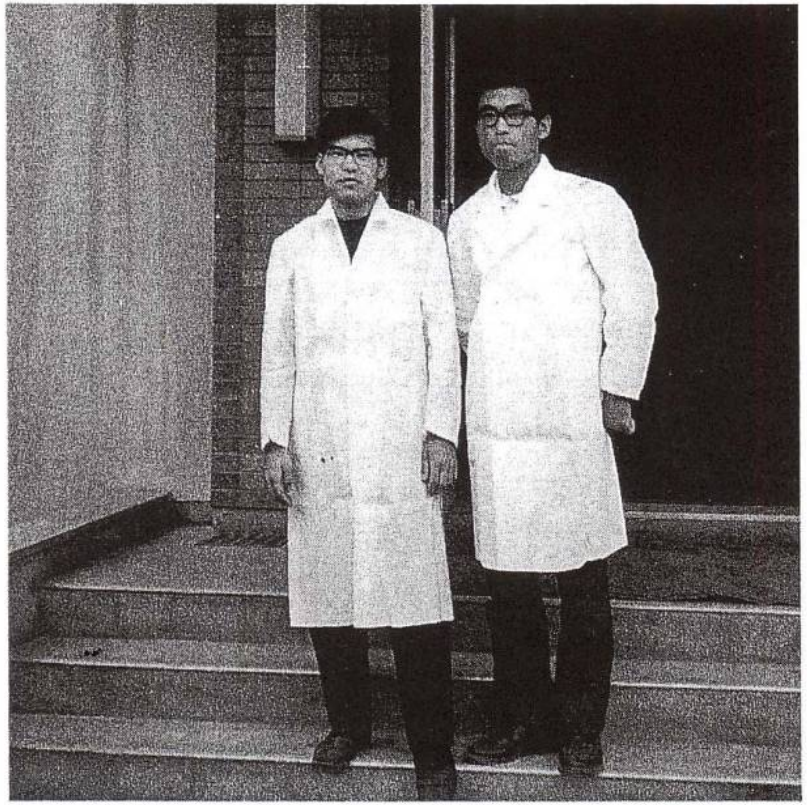
小　金　丸　茂　喜

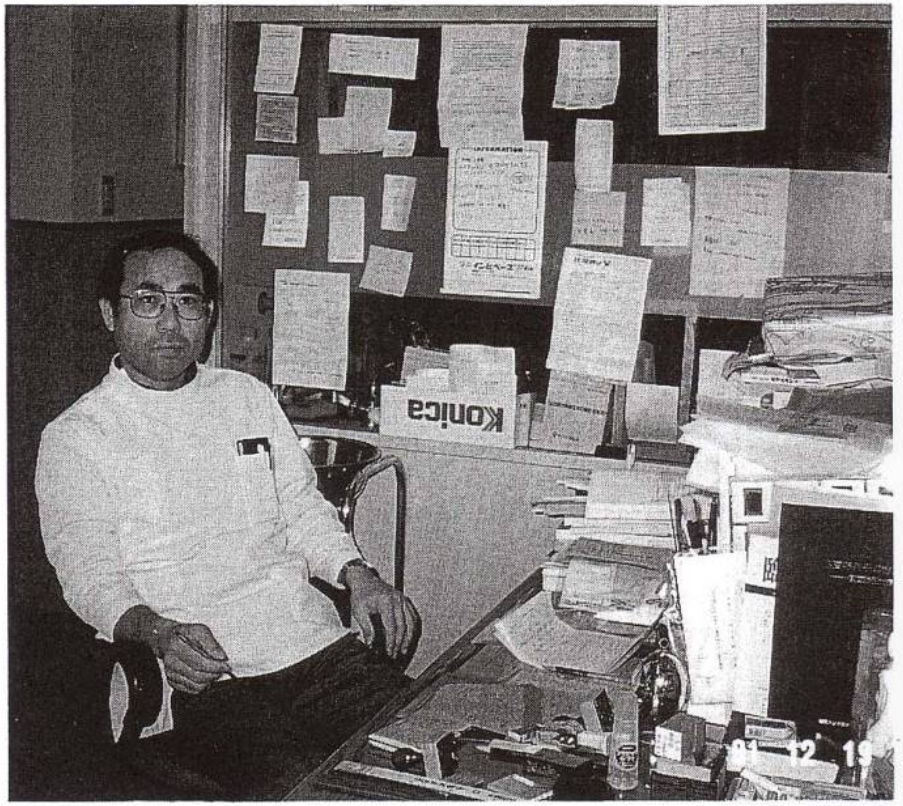


平成二年七月三十一日付けで九年四ヶ月勤務した尾道総合病院泌尿器科部長職を辞し，同年八月より三原市中心部のビル内に泌尿器科専門の診療所を開設。長年の総合病院での経験を生かし地域の人が可能なかぎり最先端の医療が受けられるようにすることを信条として診療しています。

趣味としては学生時代，軟式テニス三昧でしたのでその延長として時々硬式テニスをしています。また世間の趨勢に倣ってゴルフもしていますが，いずれもなかなか上達しません。

児　玉　光　人





『仕合わせに気付く』

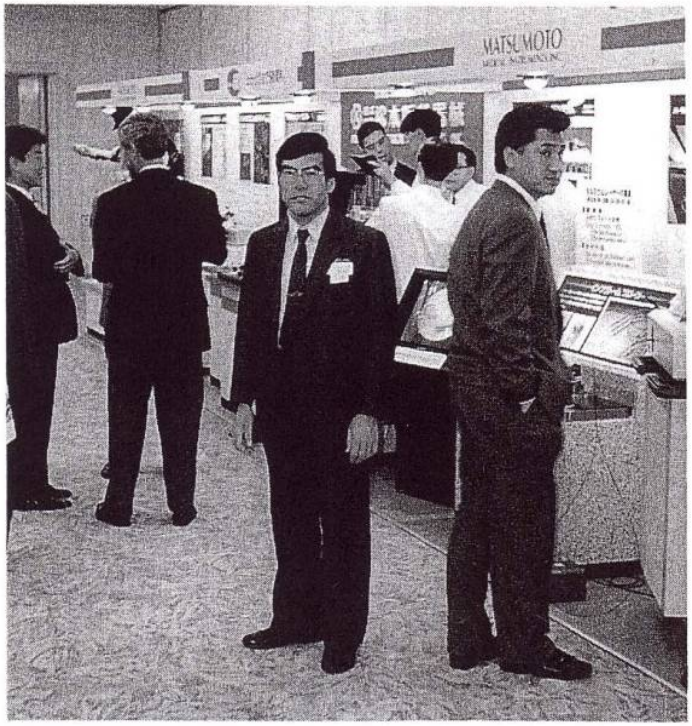
「まあ，あそこはほんとうにきれいな素晴らしい所ですよ。先生。」

医学を学んだ広島県の地を離れて勤務することになった時，人々が異口同音に言いました，目を輝かせて。

周南のこの町を一度でも訪れたことのある人ならば，ここに住んで仕事をすることの素晴らしさに思いを致さずにはいられないのでしょう。冬でもヨットを浮かべる人がいるほど温暖で，そして真夏には南から燦々と降り注ぐ陽光と潮風，そして私が感じるのは，人人の品の良さ――まるで，いつか訪れたカルフォルニアを思わせるこの町は，光。

悠久の時の流れの中で，限りあるほんの一瞬の人生を地下鉄を乗り継ぎ喧騒な街に埋もれて過ごすのを時間の無駄遣いとすれば，この町ではそんなものとは無縁だ。より多くの時間を自分のものとすることの仕合わせ。光にあるのは豊かな自然と，私が出会った人々の優しさだけではない――

米　今　義　夫



眼科に入局して１年の研修の後広島赤十字１年大学に戻り５年，エール大学２年再び大学に帰って２年，そして昭和60年４月より郷里明石に開院して丁度８年になります。この業界では移動は少ない方でしょうか。

医院はこれまでテナントでしたが昨年末に土地を購入し，開院以来の夢，自分の医院を平成５年９月１日オープンに向けて現在建築中です。毎晩設計図を飽かずに眺めて楽しんでいます。あれこれと忙しい毎日ですが，学生の頃と変わらず週末には麻雀をして日当を稼ぎ，その他にも時間を見つけてはいろんな小物を日用大工で作るのも楽しみの一つです。作品を家の中に持ち込むと家内が嫌がりますから，目につかないところで使えるような物を作っています。先日などＣＬメーカーから小物の注文がありました。

今，これからの人生設計を具体的に考え始めています。絵を描いたり焼物をしたり趣味の世界を拡げたいと考えています。

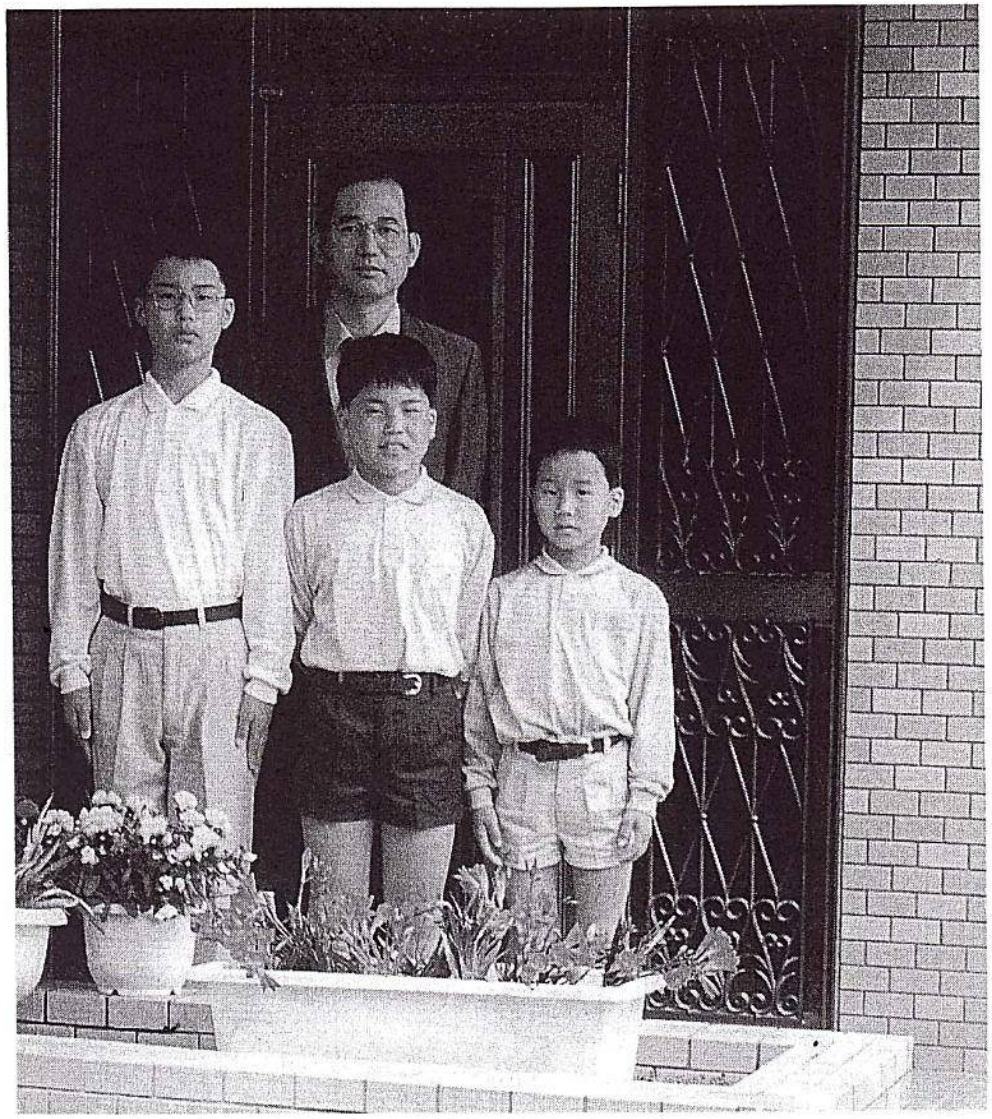
近　藤　和　義

卒業後20年，ずっと産婦人科医をやっています。現在，大阪の済生会野江病院に勤務。毎日，片道約１時間の通勤をするサラリーマン医者です。

卒業後漸次，体重も増えはじめ，これではならじと，スイミングスクールやテニススクールに通ったこともありますが，生来，スポーツは苦手なので，やがて脱落。最近はもっぱら，みる，きく，たべる，という室内型の余暇を過ごし，それなりの体型になりました。又，パッチワークを始めたので，部屋の中に作品があふれかえるにつれ，肩こり，眼の疲労が加わり，これは医者の不養生。でも，文楽鑑賞という渋めの趣味もあるので，もしかしてこれは老化現象??と，ハタと思いあたりました。

釈迦に説法ではありますが，皆様も健康に気をつけて，今後も御活躍下さい。

相　良　雪　子



卒業後20周年に当たるので近況報告をするようにと幹事の方から依頼があり，何を書こうかと考えているうちにこの20年間の出来事が次から次へと浮かんできました。卒業後第一内科に入局し慢性胃炎のテーマで仕事をしたことや，尾道農協病院，加計町立病院，三菱三原病院等での楽しかった事等が思い出されます。そして昭和62年９月より生まれ故郷の近くの福山市駅家町に無床の診療所を開業しました。当地は福山のベットタウンとも言うべき所で，田舎の風情は残っているものの，少しづつ発展しつつある町です。そのような訳から患者さんはどちらかと言えば若い層の人が多く，風邪の流行に患者数が非常に左右されやすく，夏は暇を持てあましています。暇つぶしと運動にでもなればと38才からゴルフを始めましたが，ゴルフも奥が深く一向に上手にならず足踏み状態が続いています。今は地域医療の大変さを身を持って味わって毎日生活しているところです。

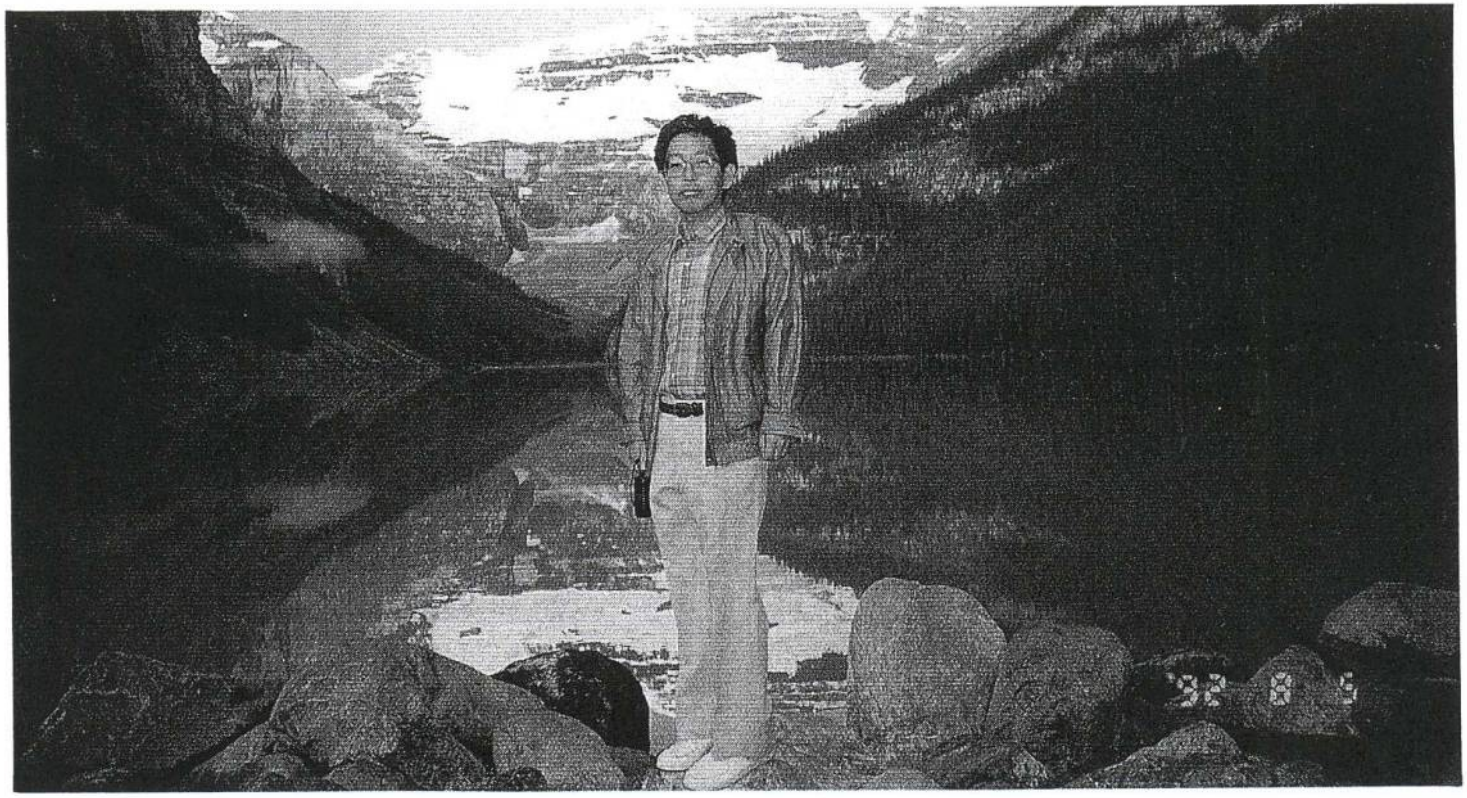
佐　野　宏　一

『卒業して20年たって思うこと』

大学で臨床講義が始まってまもなくの頃，医者にとって患者さんは師でありいろんなことを学ばせてもらうのだから，大切に接するようにという内容の授業があったことを最近思い出した。最近思い出したということはしばらく忘れていたということである。以前は教科書に書いてある病気に患者さんを通して実地に接することで医学的知識が得られることだと考えていた。しかし，最近になって患者さんの生き方，考え方を話してもらう機会があり，その言葉の意味には人生の先達である患者さんから自分の知らない世界を教えてもらえるということも含まれているのではないかと感じるようになった。

今後は医療を施す側と受ける側という関係ではなく，医学的知識をもった１個人と，自分の知らない世界を知りたまたま病にかかった１個人との付き合いを目指した医療に務めようと思う今日このごろである。

定　本　謙一郎



七年前より，無床の内科診療所を故郷今治で開業しております。市の郊外ですので，周囲は田畑が多く，閑静な所です。

日々の患者数は多くはないのですが，養護老人ホーム二件の嘱託医をしており，結構忙しく，また老人医療について考えさせられる事が多い毎日です。

家族は妻と，他には仕事がら（？），人命救助犬セント・バーナード（二才，体重七十kg，おとなしいため番犬にならず）がおります。

只今，唯一の趣味が犬の散歩です。

写真は，昨年，職員旅行で沖縄宮古島に行った時のものです。

重　見　雅　博

早いもので，卒業してから20年の歳月が過ぎたのかと驚くとともに，昔のことが懐かしく思い起されます。卒業当時は，まさか戸河内の方へ勤務することになろうとは予想だにしなかったのですが，赴任してすでに13年目になりました。57床の小さな病院ですが，50卒の妻と一緒に田舎の病院の医療レベルの向上だけを考え，どうにか当初の目的は果たした感じがします。一町に一つしかない医療機関ですから，町民の健康教育や病気予防，検診から治療，そしてリハビリや在宅ケアといった，地域包括医療を実践する為に，試行錯誤しています。院長として経営的なことや，マンパワーの問題等に頭を痛める毎日で，学生時代にもっとそれらの事を勉強しておけば良かったと，今では後悔しています。やらなければならない事は沢山あり，忙しい毎日ですが，田舎のおいしい空気を吸いながら，頑張っています。

繁　本　茂　憲

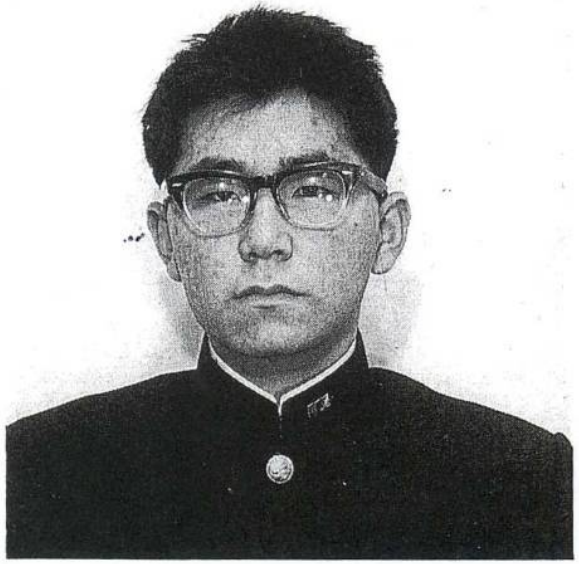
学生時代より人生観，価値観が多少？ずれていた小生は相変わらず唯我独尊的？生き方をしています。現在は本州最西端の過疎の町豊北町の角島診療所に勤務しています。

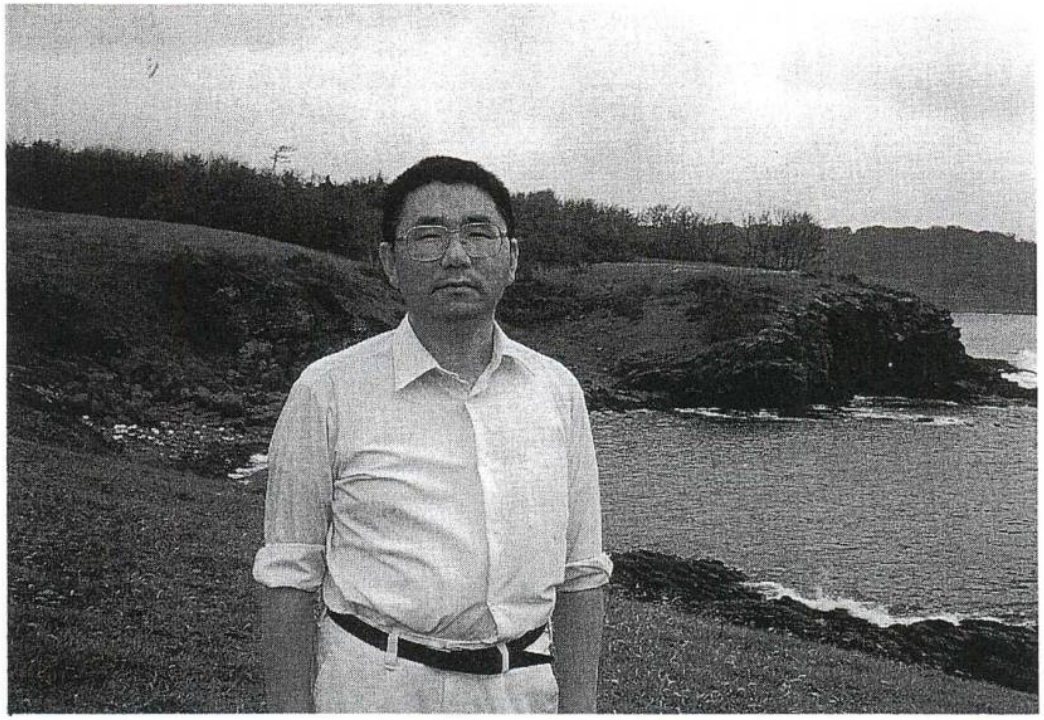
晴れた海，キラキラと輝く波頭，チリントポン（地名）の眼に染む芝の緑，和牛の親子がのんびりと草を食べています。新月の夜，幻想的なイカ釣り舟の漁火。多くの人々がずっと昔価値のない物として捨て去った何かが，今なおひっそりと島には息ずいています。

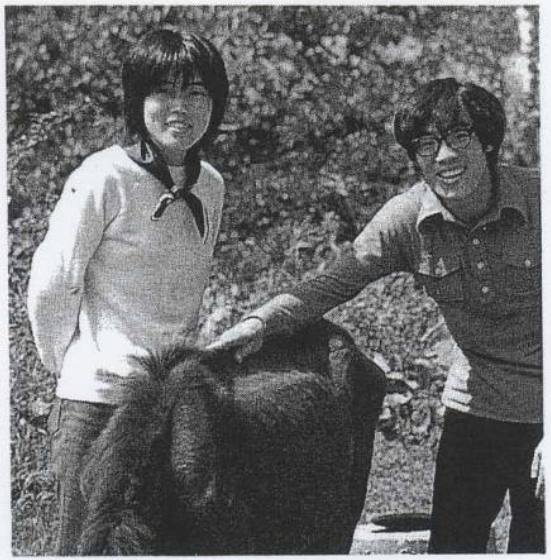
家族は女房一人子供三人（女，男，女）で，健康だけが取り柄の一家ですが，長男が数学オリッピック日本代表の一人に選ばれイスタンブール世界大会に行くことになりました。

人生は美しいことだけ憶えていれば良い。苦しいことの中に美しさを見つけられればもっと良い。人を羨望せず，妬まず，おもねらず，正直にありのままに生きてきたことを胸を張って言えるような人生を送りたいと思っている昨今です。

篠　崎　正　光







『時計草』

夏休みが終わって，前期の試験が済むと，十月の初旬に結構長い試験休みがありました。毎年，その休みを利用して秋の気配を求めて旅をしていました。若い頃の写真は，そうした旅で，都井岬の野生馬と戯れている所です。

もう一枚の写真は，平成五年の連休に家族とレオマワールドに出掛けた時のスナップです。子供は大きくなって，背丈は抜かれつつあります。気分はいつまでも若いつもりでいるのですが，色褪せた写真を見ていると時の流れを感じないわけにはいきません。

神　人　　勉
神　人　映　子（旧姓　川口）

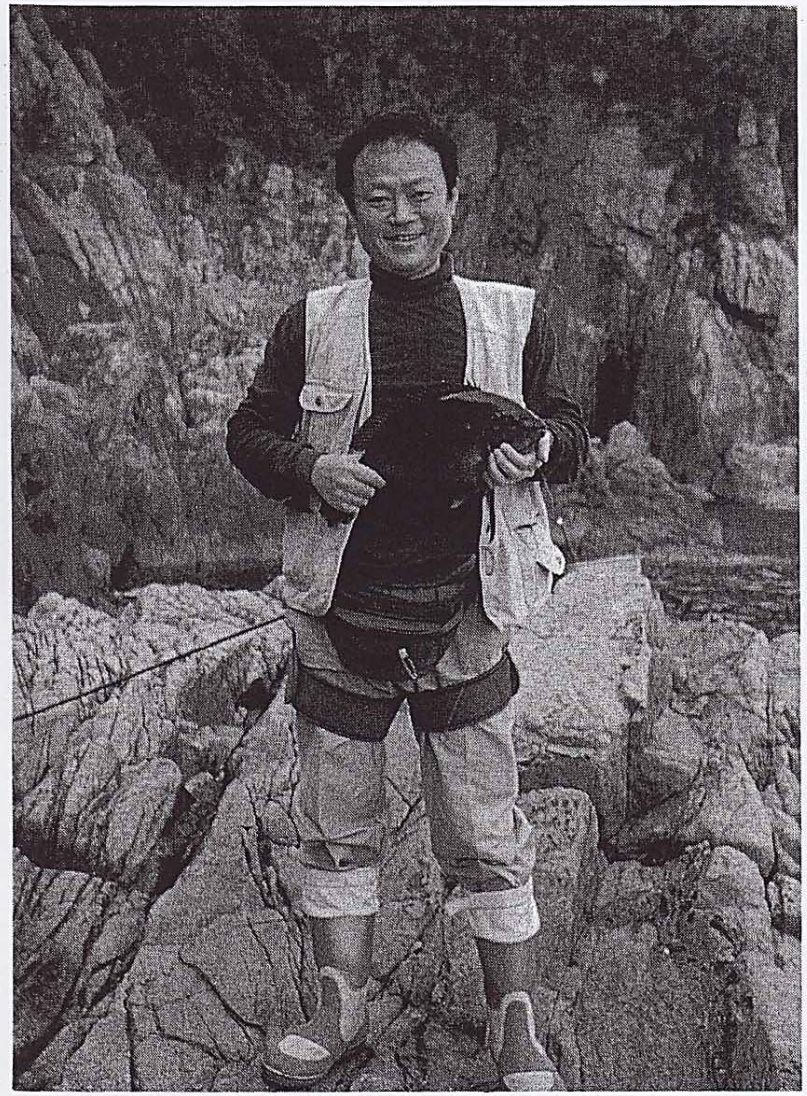
早いもので，広島を離れてから19年になります。兵庫医大，国立循環器病センター，関西労災病院を経て，現在は大阪市大第２外科にて心臓血管外科を担当しています。市大に来て３年になりますが，３年目にしてようやく年間100例近くの開心術ができるようになり，緊急手術も多く相変わらず忙しい毎日を送っています。

こちらに来てからはずっと西宮に住んでいます，西宮は高級住宅地である芦屋市や，宝塚で有名な宝塚市の隣にある町で，神戸や大阪といった大都市にも近く，後ろは山（六甲山），前は海と自然環境にも恵まれた住みやすいところであり，非常に気に入っています。家族は妻と子供二人（中学３年，１年）で，子供はどちらも男の子です。暇をみつけてはゴルフに行っていますが，全く上達しません。日曜日には夫婦二人で練習場通いをしていますが，最近では後からゴルフを始めた女房に指導を受けている有り様です。

末　広　茂　文

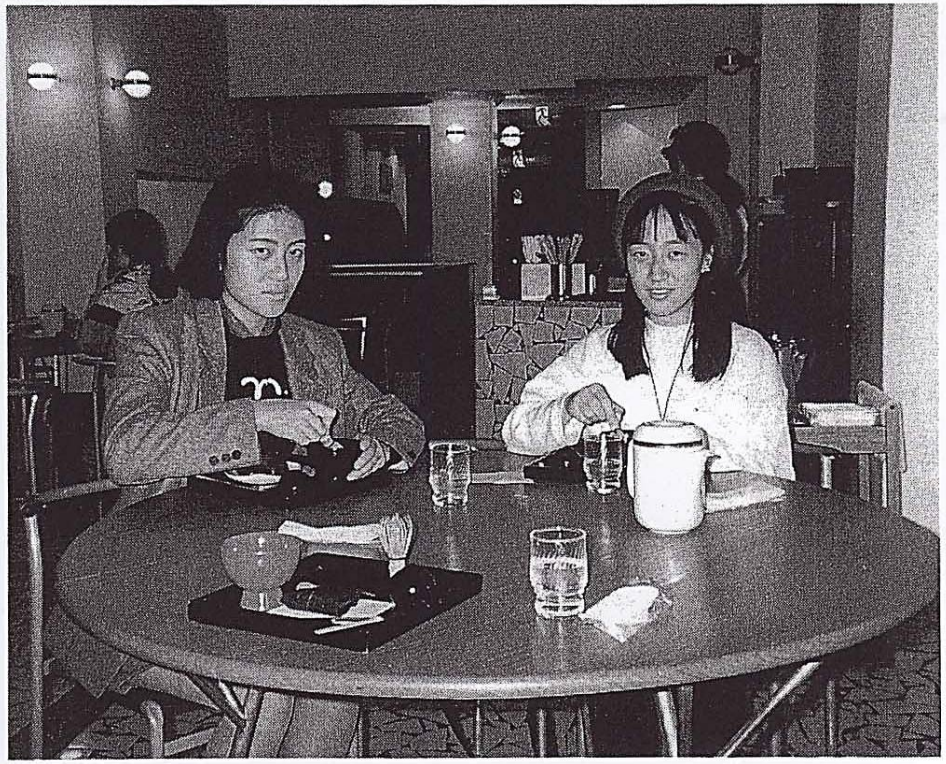
平成４年９月に永年在籍した広大耳鼻科より厚生連広島総合病院に移り，外来と手術に追いまくられながら毎日を過ごしています。

近頃，薄暗い場所では小さな字が読みづらくなり，そろそろ老眼鏡が必要かなと思ったり，また体力的にも筋力の劣え，足腰の老化の前兆とも言うべき瞬発力の低下等々，中年期に入った悲哀を実感しています。でもまだまだ，先は長い！当分の間は臨床医として第一線を維持すべく，日頃の努力が大事だと奮闘しています。



住居はかれこれ12年旭町で，４人の女性に囲まれて生活しています。（妻，長女17才，次女15才，母80才），家族でも男一人孤軍奮闘の毎日です。右の写真は長女（左）と次女（右）です（平成５年旅先にて）

田　頭　宣　治



僕の学生時代は，音楽とサッカーの２本立てでした。高校の同級生だった本家好文，藤井隆典の両君と共に『僕ら３人』というフォークロックのバンドをやりましたが，２年であえなく解散。【写真１】は昭和44年１月22日，広大フォークソング同好会のコンサート風景です。この頃はキリスト教への疑問，ベトナム・沖縄，水俣病・砒素ミルク，大学紛争……自分は何を考え，どうするのかと過酷な決断を迫られた時代でもありました【写真２】。

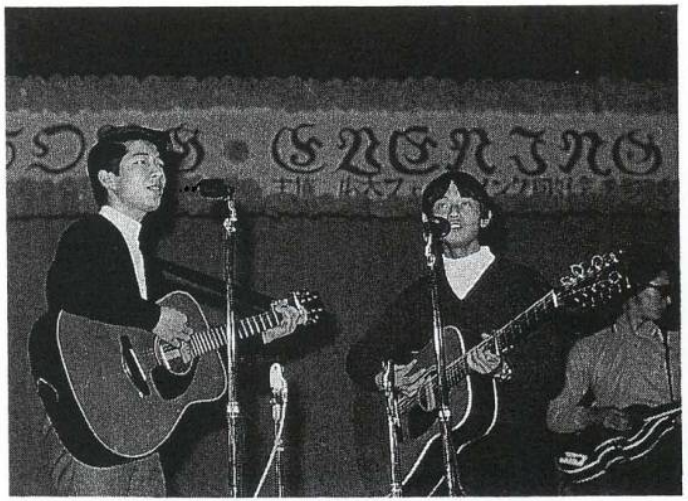
中学から通算12年間サッカーをやったのですが，一度もレギュラーになれなかったのは，僕くらいじゃないですか？これは悔しいけれど自慢できると思っています。身長160cm，体重49kg，ウエスト68cmで相手とぶつかれば飛ばされ，足が遅く，キック力も体力もなしでした。先輩まわりでお金を集めるマネージャーを４年しましたが，西医体10連勝に少しは貢献したかもしれません。

【写真３】は昭和46年，京都で優勝した時のものだと思います。Ｍ２ですね。

仕事は選びとる部分と成り行きとがあります。僕とエイズは血友病患者への贖罪から始まりました。今は手ごわいけど，やりがいがあると感じています。

長男，長女，次男，妻と住んでいる自宅は，学生時代に住んでいた土地に立てたビルの11階です。隣に両親が住んでいます。

高田　　昇



『二十年二昔』

十年一昔とは言い古された言葉ですが，自分の人生にも十年に大きな節目があるようです。

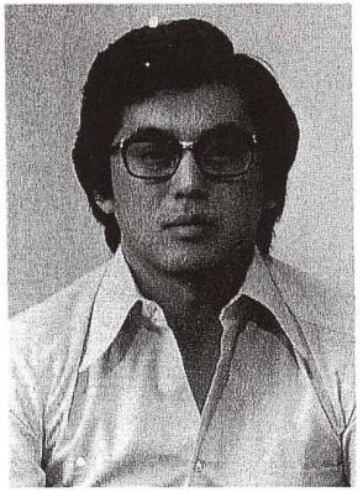
卒後十年で兎にも角にも大学を飛び出し，紆余曲折を経て，二十年目にして遅ればせながら独立いたしました。

平成五年の八月より，可部の地で整形外科を開業して一年足らずですが，診療はあくまでも暇，されど雑用は極めて多忙，の情けない日々を送っております。

写真は当院自慢の女の子達。このスナップで，私を除けば平均年齢はまだ20代のキャピキャピギャル（？）達です。私はといえば，学生時代より体重が10キロ余り増加し，逆に頭髪は半分以下に減少して，しっかりと，チビ・ハゲ・デブの，嫌われるおじさんの仲間入りを果たしつつあります。

あせらず，欲ばらず，気を抜かず，これからの10年を地域のお医者さんとして過ごしてゆきたいと思っております。その後の十年どう過ごすか，それはまたその時になったら考えましょう。

高　橋　秀　裕



〔その一〕

“まだ受講届けを出していない”“試験が迫っているのに何もしていない”“今日は何の講義があるのか分からない，スケジュール表はどこだ”“英語の授業があるのに予習をしていない，ああどうしょう”……ハッと目覚めた，ああ夢だったのか。最近再びこのような夢にうなされ夢のなかでのあせりと苦痛にさいなまれる。お分かりか実は教養部の頃の夢をみているのである。あの頃に大学紛争がなくてレポート提出でお茶がにごされなかったらと自責の念が潜在意識として夢になるのである。スケート，パチンコ等に夢中の教養部時代であった。学部に上がってからは授業をさぼったことはほとんどなくそのためこのような夢をみることはない。医者になってからも勉学を怠っていると必ずといっていいほど教養部時代の“わぁーどうしよう”という夢が出現する。そろそろまた勉学に勤しまなければと思っている今日この頃である。

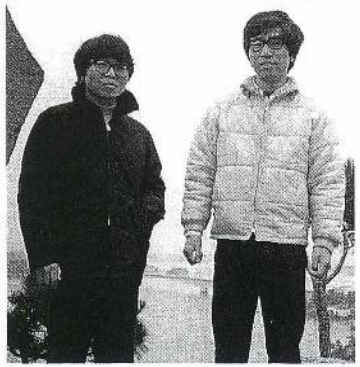
〔その二〕

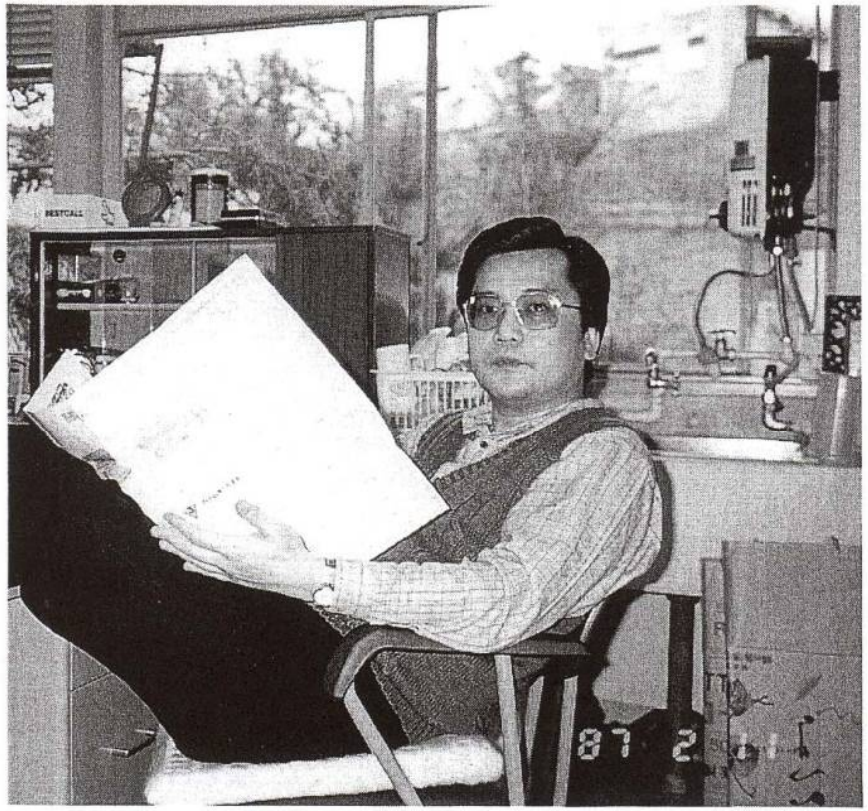
開業して早や十数年，開業医観について述べてみたい。患者に対して真摯で医学的知識の豊富ないわゆる名医であればあるほど開業したら無力を感じると思う。いくら説明しても患者を納得させることが出来ないこと及び患者数も増えないことに気づくであろう。これは患者の質の問題で，開業医を受診する人はいかに早く診てもらい，自信タップリに投薬を受け親切な言葉をかけてもらうかを願っているからである。（我々医療従事者からみれば紹介状一つとってみれば大体その医者の実力はわかるが，患者には判断の手立はなく，我々が専門外の電気屋さんの実力を見分けることが出来ないのと同様である）

第二に開業医ほど張り合いのある職業はないことに気づくと思う。（患者の苦痛，医療過誤等落ちこむこともままあろうが）なぜなら医学的知識の豊富さが患者の利益に，また医業収入に結びつくからだ。腹部，心エコー，胃，大腸ファイバースコープ，注腸造影，直腸指診等の技術をもっていればかなりの疾患は鑑別あるいは診断出来る（もちろん基礎的知識の上での形態学的診断技術であることは云うまでもないが）（私の場合保険本人以外からは腹部，心エコーの請求はしていない），しかし現実はきびしく，このような技術を駆使しても内科ではやっと食べていける程度である。（もちろん勤務医の先生方の収入には及ぶべくもないが，やりがいはある）

第三に金儲けを念頭においたら失望するだけである。逆に金儲けの出来るほど患者をさばいていたら必ずしっぺ返しが来るであろう。

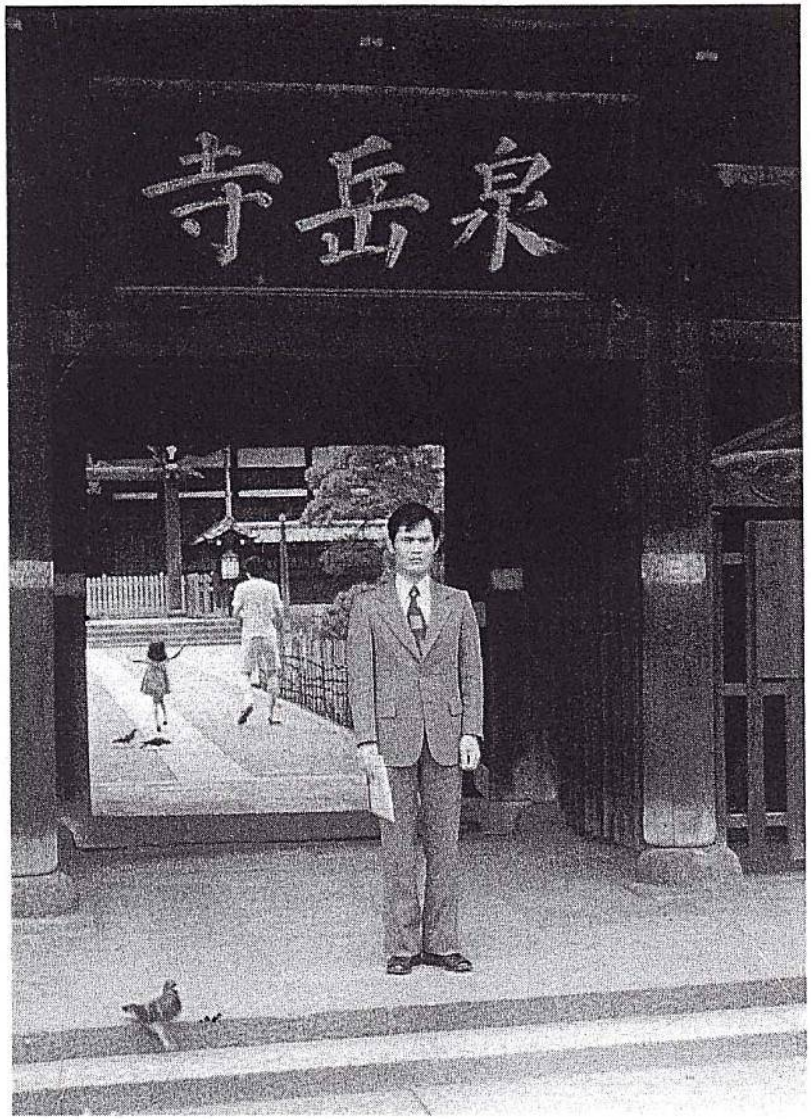
高　橋　信　義





卒業して20年間が経過したと思うと，卒業当時と現在を比較して，余り成長していないことに自分自身反省しています。私は広島大学第一内科から国立呉病院に昭和62年１月に赴任して約７年が経過しました。残念なことに，この病院には私以外に昭和49年卒の同級生はいません。自宅が広島なので，自宅と病院の間を往復するのみで，７年間経過しても呉の町には未だ不案内です。現在，消化器内科を担当しています。家族を紹介します。私は学生結婚でしたので，他の同級生に比べて，子供が大きく，妻と二女の家族４人です。長女は現在大学在学中で他県に居住し，次女は来年大学受験を控えています。近況報告といっても，私自身に話題が乏しく，余り書くことがありません。最後に，卒業20周年記念祝賀会を計画され，実行されている同級生諸君に感謝致します。

竹　崎　英　一

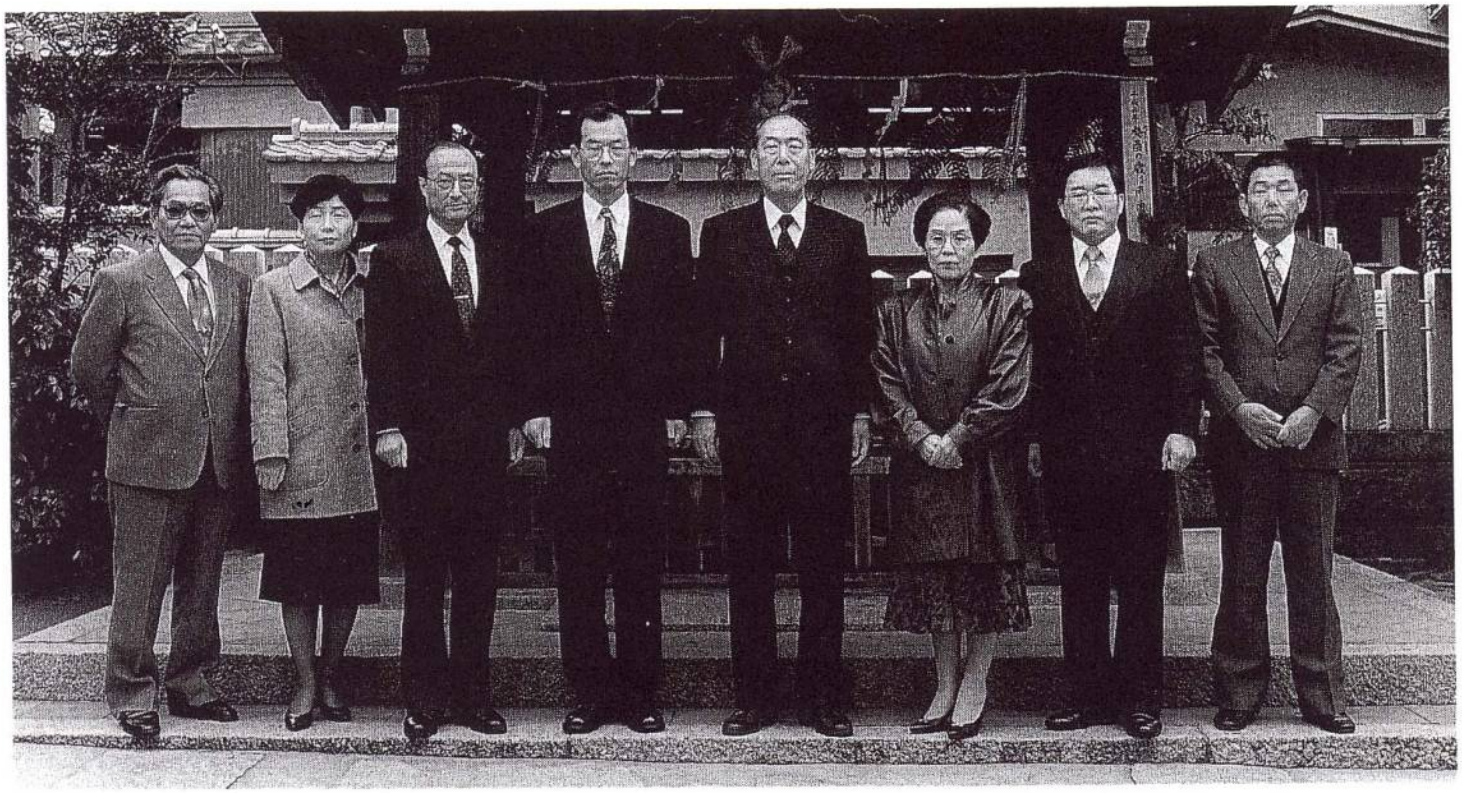


卒業後，２年の内科研修の後に第一内科に入り，宇和島社会保険病院，尾道農協病院に一年づつ出張後，肝研にはいり，その後，中国労災病院勤務を経て，昭和六十年に呉市広町で開業しました。開業の地は前が海で後がすぐ山になっており，人口二千人あまりのバスの終点の小さな村です。患者さんは田舎ですので非常に素朴で，新鮮な野菜や魚を持ってきてくれますので住むには非常にいいのですが，ただ，子供の教育は難しいようです。すぐ近くに循環器の榎野君と脳外科の岡田君がいますので，急患の際は非常に助かります。釣りが好きで，開業当初はいつも釣りができると喜んで，早速，船の免許を取りましたが，いつでも行けるという気持ちから逆に釣りから離れて，いまでは一年に一回海の上に居るくらいです。最近は健康の為にゴルフを始め，熱中しています。ハンデーは13となり，シングルを目指して練習に励んでいるところです。私は酒が全く飲めませんので，ゴルフが唯一の社交の場となっています。卒業して20年，開業して８年，人生半ばを過ぎましたが，子供の行く末を心配しつつ，地域医療の為に？働き，休日はゴルフをして，夜は女房の為に晩酌のビールを注いで今日も無事過ぎたなというのが私の近況です。

竹　本　　学

卒業後広大第１内科に入局し，いろいろな病院を転々としましたが，昭和61年アメリカより帰国し，以後は現在の職場，ＮＴＴ広島中央健康管理所で産業医と臨床（消化器）の仕事を半々づつしています。学生の時習った精神科の児玉久助教授が昭和60年より所長として赴任しておられ，その下で副所長として働いているわけですが，昭和61年に赴任した時には，香川君，生田君も同じ職場で，また山口健康管理所には宮野さん（現在岩本さん）もおられびっくりしました。ＮＴＴ社員の健康管理が主な仕事で，疾病予防にはいかにあるべきかを常日頃社員に説いているせいか，おかげで運動も好きになり，久しぶりの人からはどこか悪いのではないかともいわれていますが，学生時代よりも体重も落ち健康的な生活を送っています。中国地方に５カ所ある健康管理所をわたりあるくことも多く，management　の大変さを身にしみて感じているこの頃です。

田　丸　隆　二



最近は，天気が崩れると体の調子が乱れるようになり，春夏秋冬が身に染みる感じがします。四十歳を過ぎると，休日は自宅が一番と思いますが，そうもいきません。

学生時代のんびりしていたため，医者になってバタバタしていました。人を使うようになって，人間の個性に余裕を以て対処できるようになりました。なかなか大変ですが。

若い医者は，専門もできやしない等と言っている今日このごろですが，自分自身も，いろんな人に迷惑もかけたと，過去を振り返っています。だんだん，新しいことが苦手になりましたが，いま考えているのは，コンピューターを用いた，より合理的な医療です。実際は，大変です。気も長くなったので，ゆったり行っています。

広島市が，私が居なくなってからも，益々発展していることは，嬉しく思っています。ヴェルディよりサンフレッチェを応援しています。

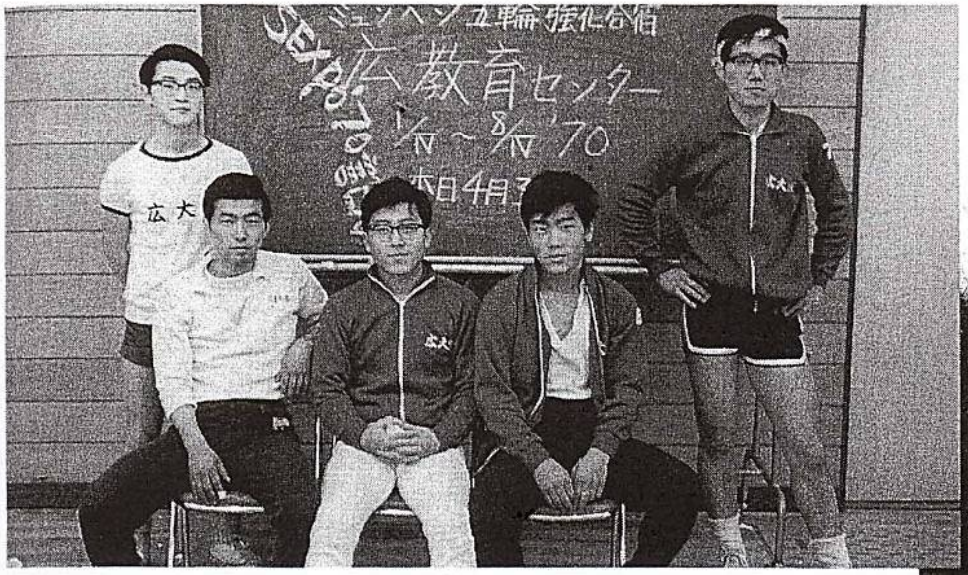
光　野　貫　一
（旧姓　鄭）

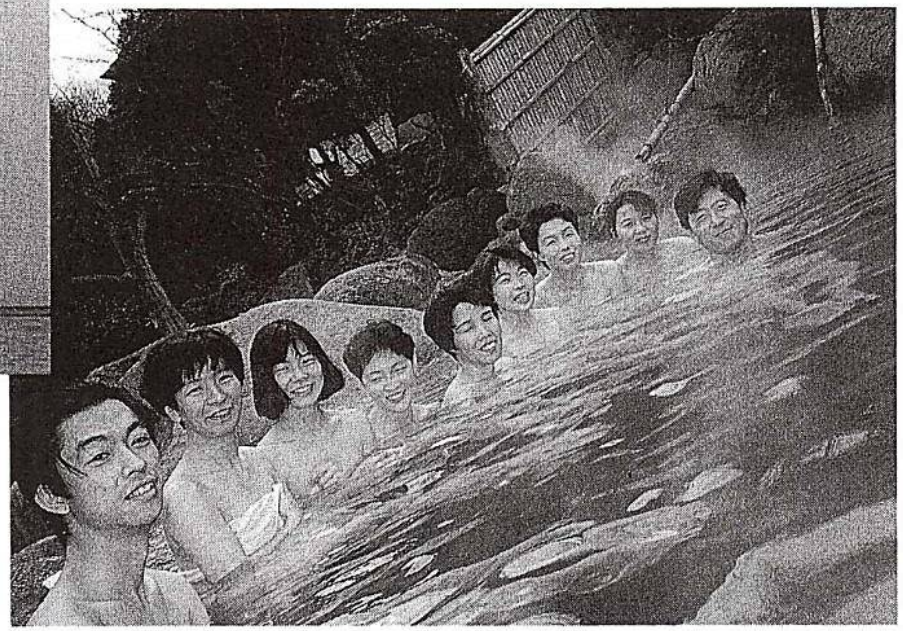
「人間の思考のなかで重要なことは，彼らが考えたことよりも，むしろ彼らによって考えられなかったことのほうである」(M．フーコー)。26年前，広大入学前に大学でストライキをするとは考えていなかった。教授も授業もすばらしいものと期待していた。20年前，医師になれば優雅な生活が待っていると夢ばかり見ていた。あんな厳しい卒後トレーニングを九州まで行って受けようとは思っていなかった。十分に楽しんだのは留学時代のみであった。11年前，広島に帰り，日赤病院に就職した時はやっと落ち着いて臨床医学を極める（？）ことができると実感し，平凡でもいいから生涯一勤務医を目指した。しかし6年まえに急遽開業することになった。今度こそ自分に浸ることができると思った。しかしながら超過労のため，2年前には不整脈，数か月前には眼底出血を患った。とかくこの世は住みにくく，思ったことの反対方向にばかり作用するように思われる。将来の医師はますます困難な時代を迎えると皆が思っている。きっとこれとは反対に終に楽しく充実した医師としての人生を手に入れることができよう。そして同級生と楽しく酒杯を傾けながらゆっくりと時の流れを見つめよう。

土　井　一　可

気がついてみれば卒業20年を迎えようとしている。卒業当時も，将来の自分の姿をあまり考えず長期的な展望を持たないまま，行き当たりばったりでここまで来た感じである。当時はまだ卒後研修という体系的なものはなく，自分の中にも明確な専門性も持てなかったので，大学病院での半年の研修後に出た国立療養所賀茂病院で，腰を落ちつけようという気になっていた。ところが県病院に移る機会があり，それまでののんびりした生活から一気に忙しい生活に移り今日に至っている。やっと総合病院精神医学という分野に慣れてきた時に，前野村部長が開業されることになり，後を引き継ぐために四苦八苦したが，同僚や病棟の看護婦さんにも恵まれ何とか重責の仕事をさせてもらっている。20年間の仕事で専門性を打ち出していなければならないが，深く追求したものがなかったので，今更難しく，無理のない程度に頑張っていこうと思っている今日この頃である。

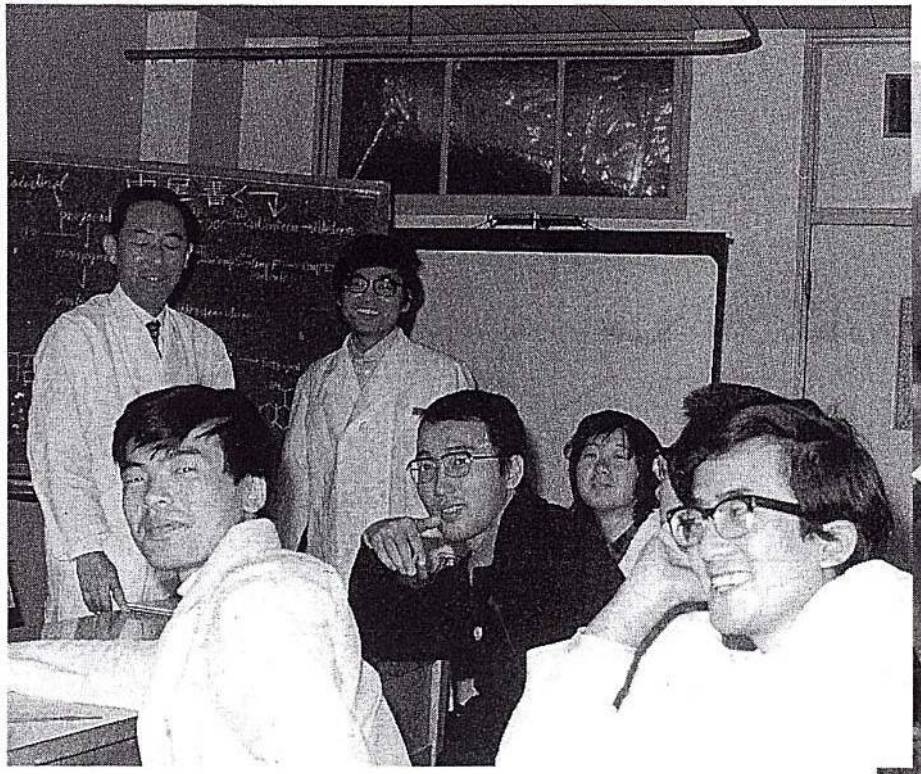
東方田　芳　邦

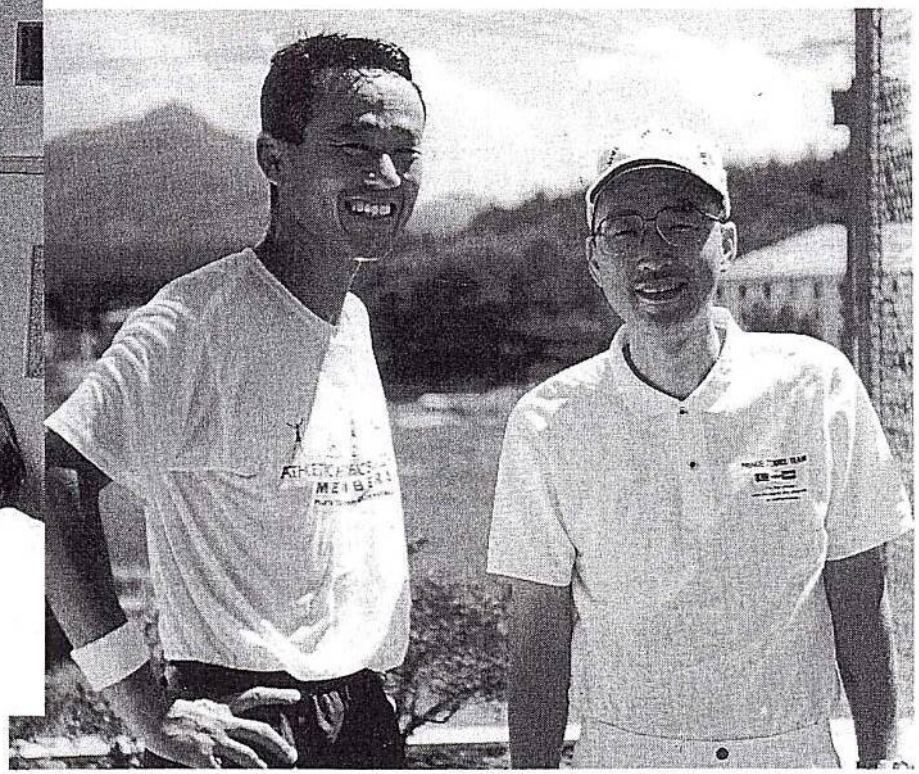




大学入試のときに見た霞町の赤れんがの建物がひどく印象的で，入学したら「学問を」と思った，そのけなげさは入学当時のみで，その後の意識改革はそれこそあっという間，授業にも出席せず，遅刻というより昼下がりの起床，熱心なのはマージャンとアルコール漬けのクラブ（医学部水泳部），でもクラスの中での真面目度は中くらいだったと思う。教養部の単位が全部そろっていなかったため留年するだろうと思っていたが，大学紛争のどさくさが幸いしてか，無事学１に進級した。昔の写真は内科ポリクリのスナップ，勝田先生の後の黒板にあるステロイド代謝マップ，理解というより無理やりの瞬間暗記保持技術あるのみ，このあとすぐに完全に頭から消えてなくなった確かな記憶がある。あれからあっという間の20年，診療に追われ変化のない生活をしているが，心ときめく変化を模索中・・・現在の写真は畏友松村誠君とＴＡＣテニスコートにて。

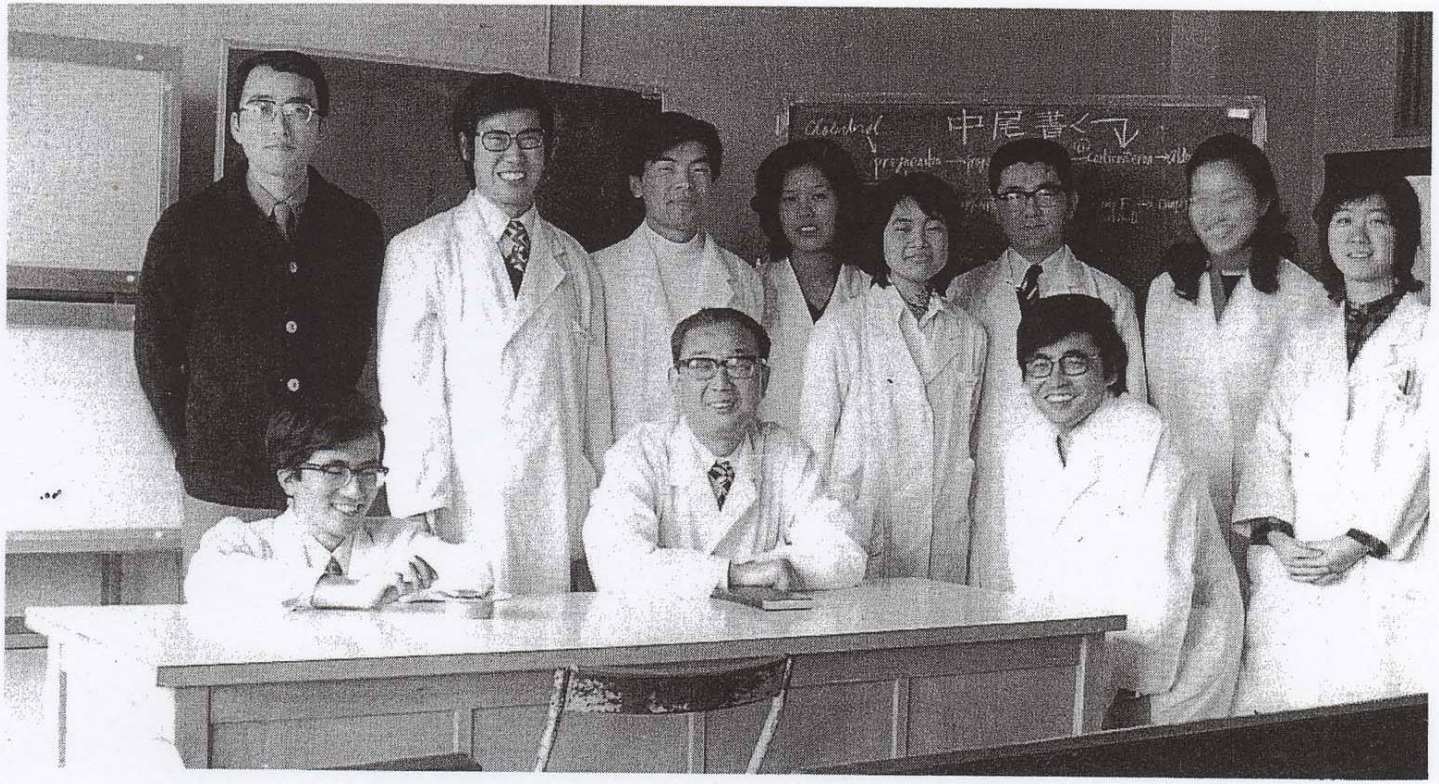
長　尾　公　吉

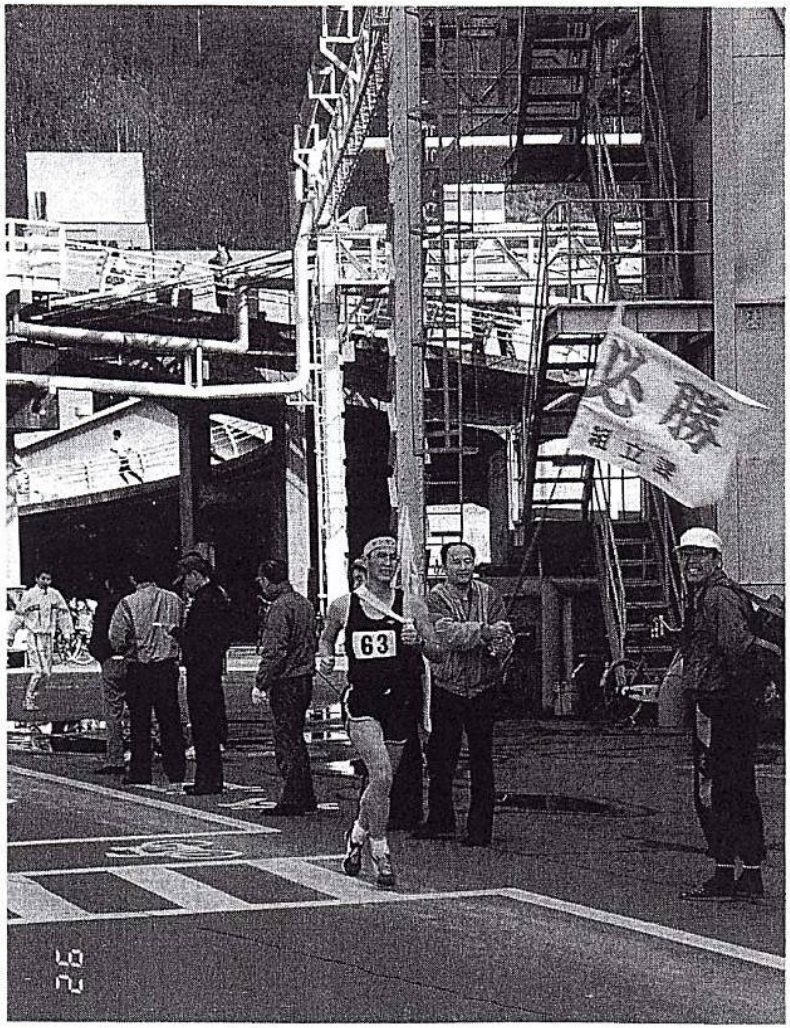




卒業後大学で２年間の研修を終え，昭和51年より北は庄原，南は宇和島と点々とし，昭和62年10月より生家の裏で19床の内科医院を開業しました。開業当初は malignancy １例／M，シャイドレーガー synd., アミトロ，double ca 等症例が多く，経営の不安もあり，やや緊張して仕事をしました。又ベットを持った為遠方に出かける事もできず，近くでできる趣味（アマチュア無線，手品，ラジコン，熱帯魚，有線放送，木工，テニス他）を多く始めました。現在仕事量は少し増えましたが症例も減り，趣味の方もマンネリ化。手品と熱帯魚は院内のムード作りに役立っており，テニスは松村氏のさそいもあり１回／M程度，木工も子供のおもちゃや小家具で家族に重宝され今も続けていますが…。世の中は目まぐるしく変化しておりますが，仕事生活はマンネリ化，この辺で気をとりなおして頑張らねばと思います。変化を求めている今日この頃です。

中　尾　精　治





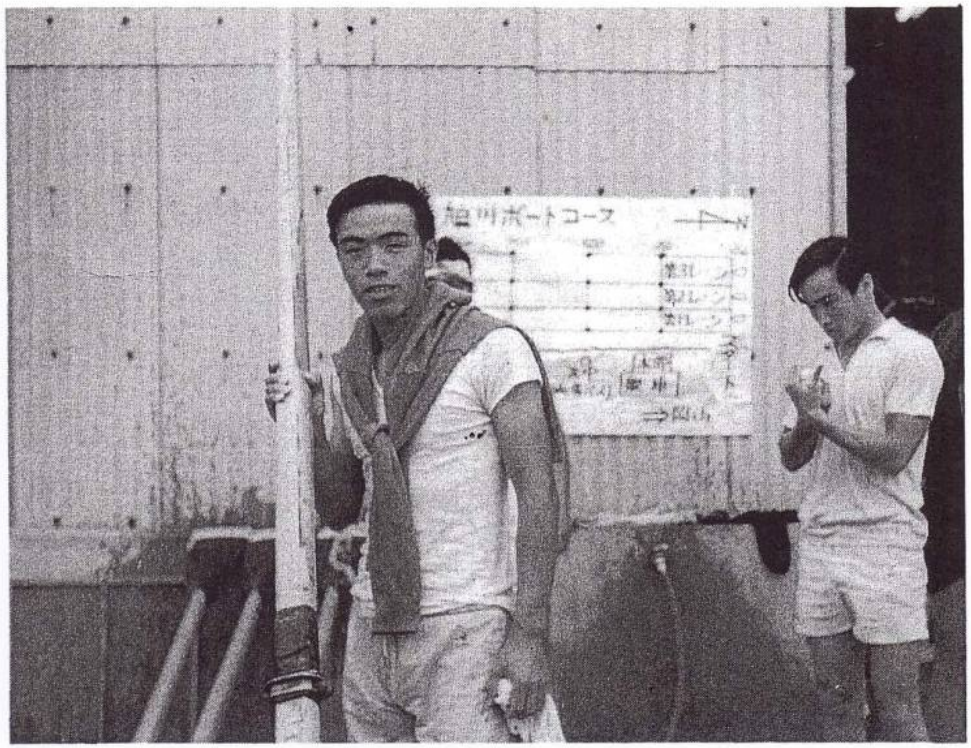
平成２年４月から中国労災病院精神科に勤務している。総合病院と同じように考えていたが，実際は大違いであった。大学では精神病という病気を診ておれば良かったが，当院では精神的な問題を持つ人間を診なければ診療にならないことに気付いた。その結果，患者さんもある意味では病気の専門家であると考えるようになった。今では，診療は患者さんとの勝負であると考えるようになり，勝った負けたで一喜一憂している。

通勤は主としてＪＲを利用している。ラッシュはなくゆったりできて良いのだか，一抹の淋しさは否定できない。車で通う時は，30年前の遠足で通った山道を通っている。今も面影は少し残っており，あの頃は若かった，どんな事を考えていたのだろうか，まさかこの道を通って通勤するとは夢にも思わなかった等過去を振り返りながら通勤する事もある。

中　川　一　広

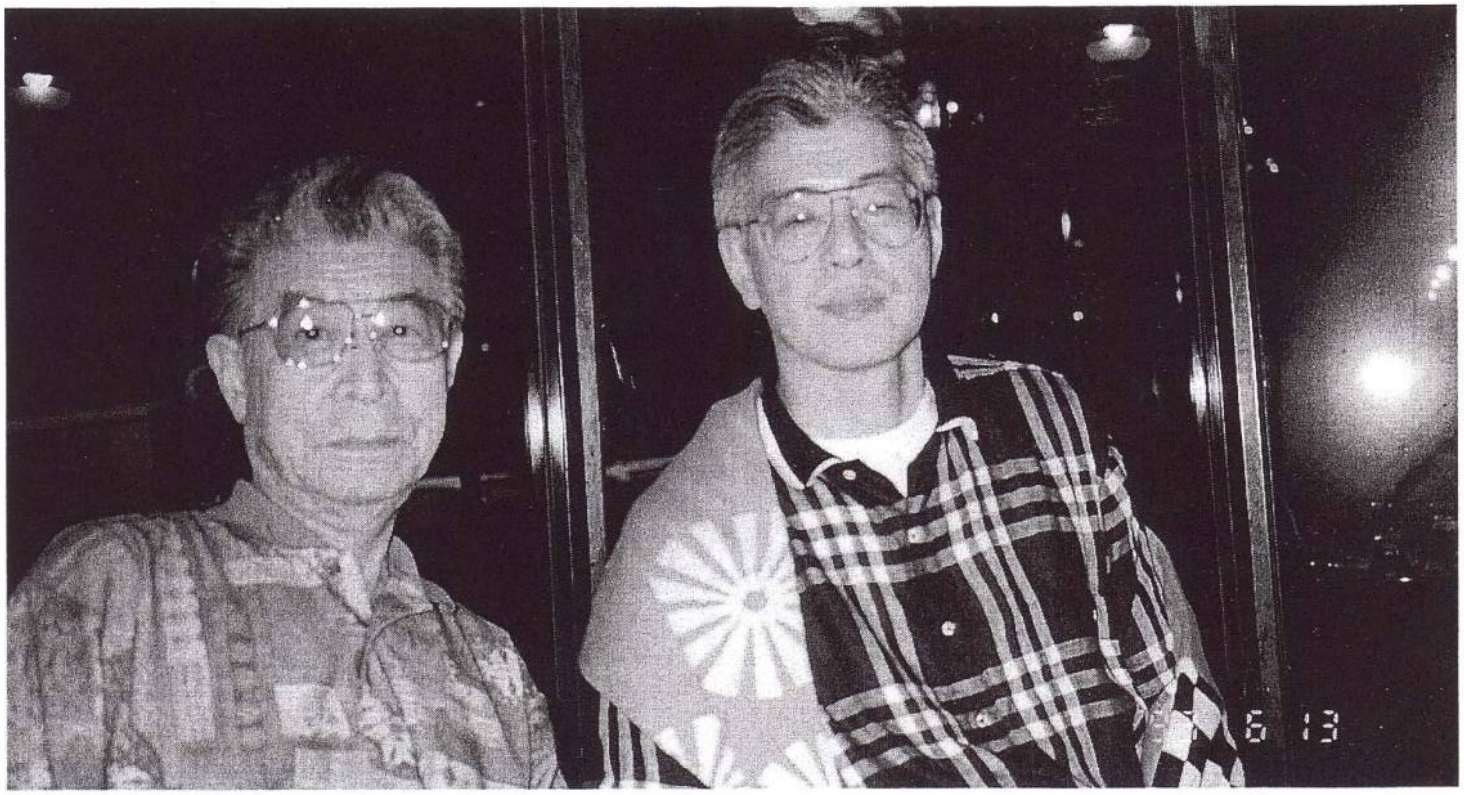
皆さんと同様，毎日多忙な日々を送っています。最近は小児科でカテーテルによる心疾患の治療をやるようになってきたので，朝から夕方までカテーテル室に入っていることもしばしばです。月に15～20例のカテーテル治療をほとんど私一人で行っています。夜は夜で心臓，血管の発達に関する生理学実験をおこなっています。仕事にあけくれる毎日で，ものを考える余裕もなくあっというまに１年が過ぎ去ってしまうので，時々これでよいのかと疑問に思うこともあります。このままたいしたこともせずに一生が終わってしまうのでしょうか？日々の仕事に充実感を覚えることも多いのですが，どうも最近はむなしさがつのってきています。

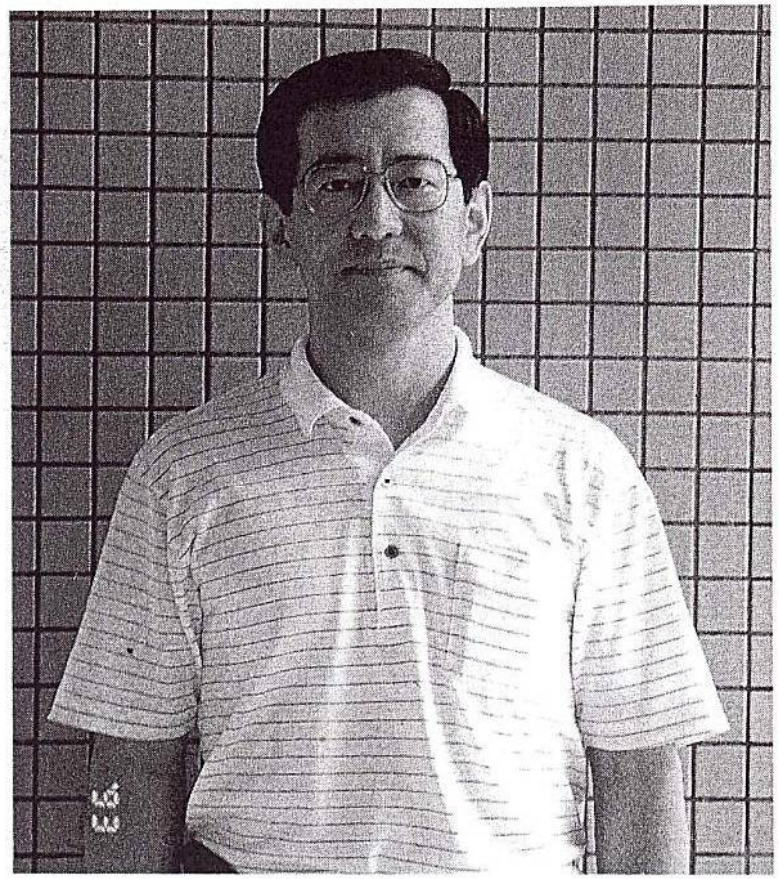
中　西　敏　雄



ごぶさたしております。早いもので卒業して19年，広島を離れて10年目になります。原医研外科でお世話になったあと熊本県北部の山鹿市立病院外科に勤務しておりました。当初は山鹿市で開業を，とも考えていましたが諸般の事情でほぼ開業は断念，勤務医で気楽にいこう，などと考えていました。昨年6月突然熊本市内にビルクリニックを開業する話が舞込み急遽8月に開業した次第です。大学病院，地方の公立病院，そして今度は地域医療の最前線と医療現場が変わると，こうまでも医療内容が変わるものかととまどいながらも一年と二か月が経過しやっと落ち着いてきたところです。子供も長男が高校生になり，次男も小学4年生になりました。自分では若いつもりでいましたが，やはりだんだん無理が効かなくなり，がむしゃらな生活から少し変えなければと思っています。同窓のかたも少ない熊本ですが来熊の節はご連絡ください。

中　野　　章





『旧友への手紙』

皆さん，御無沙汰しておりますがお元気ですか。卒業してもう20年になるのですね。随分オジン，オバンになったでしょうね。（もちろん小生も髪の生え際が大分後退してきましたが。）

さて，近況ですが，卒後は広大の整形外科に入局し，昭和61年から東広島市の同門の開業医に勤務しております。広島から通勤している関係で，やはり近所の開業医に通勤している黄先生や野城先生とよく電車でいっしょになります。

私生活では，結婚が35才と遅かった為，まだ５才と２才半の子供の子育てに追われております。子供の為にも丈夫で長もちしなければと思っておりますが，医者は50才代で亡くなる人が結構多いと聞きます。お互い健康には充分留意し，卒後30年，40年にはまだ元気な姿でお会いしましょう。

中　山　雅　弘

ずっと昔，無医村に行きたいと思ったことがありました。そのころは純粋な気持ちだったと思います。今も時々，そういう気持ちになりますが，昔と動機が違ってきています。医者の仕事をしながら，畑仕事をして，のんびりしたいという願いです。しかし，現実はそのようには，いかないでしょう。

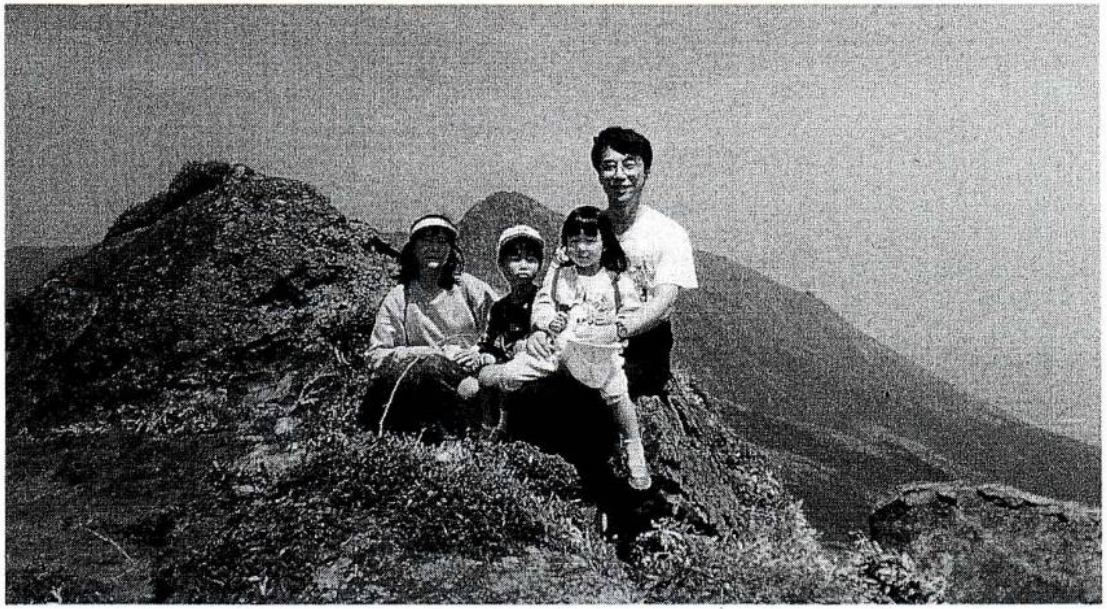
今は，過疎地の病院に通って，家では畑仕事をして暮らしています。ラッキョウのような玉ねぎをつくっていると，笑われていますが，私はこれでけっこう楽しんでいます。

中　村　比早子
（旧姓　那須野）

『八方美人の聖徳太子』

小倉を見下ろす安部山に日がとっぷりと暮れて，町外れの家並みにこうこうと灯が点るころ，土日連続の当直明けの一人の医者を迎えに家族中が車でやってくる。手下げを持って，一人佇んでいると坂の上からしずしずと車が近寄ってくる。助手席のドアに手を掛け，開けるとまずは家内の「お帰りなさい」の声。それから一呼吸あって，急に「わっ！」「おかえりなさ～い！」と座席の後に隠れていた子供達が飛び出す。驚いている間もなく，「おみやげはな～に？」の子供の声。答える間もなく，「今日はね，・・・！。？」と家内。車がおずおずと動きだすや否や，一時(いちどき)に矢次早(やつぎばや)の報告，問い掛け，意見聞き，……。他人(ひと)が何を喋っていようとお構いなしに口々をついて出る言葉，言葉，言葉。聞いてもらおうと出てくる揺する手，叩く手，撫でまわす手。横を見て，後を向いて，あっちの目を見て，こっちの顔を見て，きょろきょろ，きょろきょろ。耳はこの声，あの声，天の声と聞き分け，聞き分け，ついには「聖徳太子」と成りきるのです。あっちを向いてはうなづき，こっちを向いては中途半端な笑い，あげくは好(い)い加減な答えを出して，あっちにニコニコ，こっちにフンフン。こうして「八方美人の聖徳太子」が完成されるのです。やがて我が家の門灯が見えて，約10分間の第一場から第二場へと移っていきます。

西村　茂

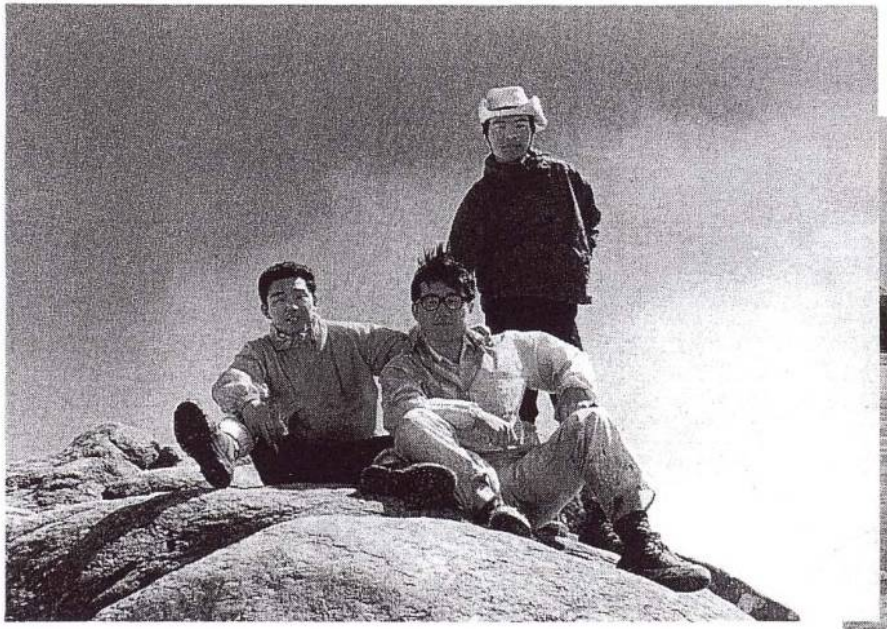


卒業して20年が経過した。あっと言う間だ，しかしいろんな事があった。振り返ればこの20年が人生の最も充実していた時期かも知れない。

現在県立広島病院に小児科医として勤務しているが，知力，体力とも今がピークと言う感じがする。世はコンピュータの時代だ。県病院でも93．４月よりオーダリングと称して医師が診察後処方・検査をその場で入力するようになり，一種の革命が起こった。これを推進した１人として私は一応満足しているが，新しがりやでも10年20年後この様な変化があったとき即座に適合できるか不安がある。体力も落ちてきた。これからの20年，今まで以上に大変かも知れない。

最近 jogging を始めた。体重が減り調子がよい。広島郊外をあちこち走っている。93．２の寒い中，呉－自宅（安芸郡府中町）に挑戦してみた。体力はまだまだ大丈夫だ，頭も鍛えたら大丈夫かも知れない。この調子でこれからの20年，生きて行きたい。

捻　橋　芳　久



20年とは速いものです。生活の形としては，20年前とほとんどかわっておりません。毎日働いて，夜は少し本を読んで，休日はひたすら眠り，時々遊びにでる，機嫌良くくらしています。白髪がでて，体重がふえてウエストを気にしています。

学生時代とくらべて一番かわったことは，元気になったこと。少々のことでは動揺しなくなりました。にぶくなったのかもしれません。色々な事を経験し，“物事を待つ”のは少し上手になったかナと思います。こうして年令を重ねてゆくのでしょう。

職場が西条（本永病院）で，広島と西条をいったりきたり，バタバタ忙しくしていますが，気楽な生活です。お暇があったら寄って下さいネ。

野　城　成　子

一九八三年十月に婦人科クリニックを開業いたしました。早い開業でしたが，もう十年が経ちました。閉院することもなく，無事に続けております。

性教育を今は主としており，中学校，高校の学生や，ＰＴＡを対象に話をしています。

また，十二年前より漢方の勉強を始め，治療は主に漢方療法をしています。

私ごとですが，子ども（男と女の双子です）が思春期に入り，親としての試練の時をすごしております。又，更年期を楽しく過ごせる様に，そして，老後についても少し考え始めた今日この頃です。

写真は広大産婦人科の四九会の時のものです。平成五年九月十二日に撮影いたしました。

林　　知恵子

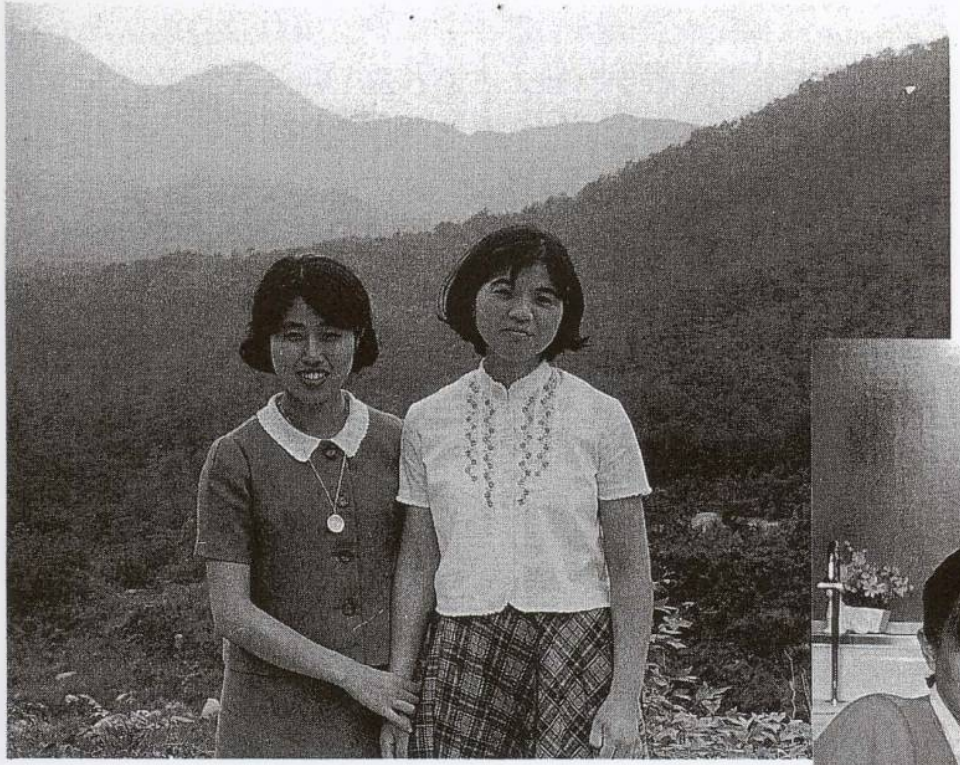
49会の同窓生の皆さん，御元気ですか？僕は，広島から新幹線「ヒカリ」で１時間の北九州小倉にいます。広島から山口県をはさんでいますので，若干，広島の情報にうとくなっていますが，こちらでは，マイペースで元気にやっています。気がついたら，我が家の長男は，今年大学受験という年令になってしまいました。家内も私も病院の勤務医なので子供の進学はあまり関係ないと思っていたのですが，やはり気になる毎日です。

写真については，学生時代の写真は，学生の時に生理学の実習室で犬の心筋梗塞の動物実験をした時のがありましたので，それを送ります。皆，ずい分かわっている事と思います。最近の写真は，私の勤務している北九州総合病院の内科の今津先生が大学に帰る時元卓球部のＯＢで送別会をした時のがありますのでそれにしました。当院は，３分の２が広大系，３分の１が長崎からきておりますが医局のムードのよい病院です。それでは又。

林　谷　誠　治

小児科入局以来の夢であった新生児医療を広島市民病院ではじめて十五年たちました。多くのスタッフ達と地域のベビー達のために，昼夜医療を行っています。生きているうちに残せるものは何かなと時々思います。

林　谷　道　子
（旧姓　松並）



昭和60年，日浅産婦人科医院を今治市に開業しまして９年になります。卒業以来皆様とは疎遠になっておりますので近況をご報告致します。

当地は田舎ですから土地も易くまた郊外ですので比較的広い敷地に立っております。分娩数は減少しており，入院費の値上げと合理化により経営安定の努力はしているつもりです。昨今不況とは言いながら患者さんのアメニティーに対する要求は強く，その対応にもエネルギーを使います。

最近では小ホールへの改造，クロスの張替，外来の小改造，二重ガラスへの変更，ソーラーシステムの故障，配水管の閉塞，漏電，レントゲン室の廃止と改造等忙しい日が続きました。また，２年に１回は海外旅行に出かけており，今年はフロリダとＮＹでしたが夢のような毎日でした。やはり開業してもこれくらいの余裕は持ちたいもので，無理して出かけております。

写真は夏に大浜紘三教授が講演に来られた時，当院で撮ったものです。

日　浅　　毅

早いもので，卒業からもう19年が過ぎ去ってしまいました。私の場合は，卒業と同時に熊本に来ましたので，広島のことや友人達の顔を思い浮かべる時，いつも時間は昭和49年でストップしてしまいました。その後，数人の友人に会っていますが，不思議なことに浮かぶ顔はいつも卒業の頃の顔です。

今回，昔と今の写真をとのことで“ふた昔”前の写真を引っ張りだしてきました。そして，写真の前で私はしばしば沈黙してしまいました。頭の中で描いているイメージと当時の現実とのギャップのすさまじさに，私の頭の中を平家物語の冒頭が流れていきました。移ろいゆく「ものの哀れ」－－－。

昭和49年，熊本大学免疫病理学教室に入り７年。この間に結婚し，子供が２人産まれました。昭和56年に熊本大学小児科学教室に移り，八代（３人目が出生）と別府で勤務した後，平成４年３月まで大学で過ごしました。

現在は，国立療養所再春荘病院（菊池郡）に勤務し，“一所懸命”を座右の銘として日々？？と過ごしております。来熊の機会に樋口の顔でも見てやろうと思われる粋狂な方がおられましたら御連絡下さい。

樋　口　重　典

『患者プロフィール』

〈職業〉開業医（平成３年７月７日開業）

〈理学所見〉

体重　；79.5kg（永続的に減量作戦中）

身長　；173.5cm（すでに縮みはじめた）

肥満度；17.0％（長時間ズボンをはくと呼吸困難を生じる）

白髪　；約20％（10回に２回は白髪が掴める）

血圧　；98/68mm Hg（怒るとすぐ上昇するため，低いのは早朝の極く短時間のみ）

脈拍　；58/分（血圧に同じ）

〈血液生化学検査〉

ＴＣｈ；285mg/dl（正直言って先行き不安）

ＴＧ　；244mg/dl（コレステロールに同じ）

γＧＴＰ；56IU/ℓ（飲酒量はもう少し増やしたい）

〈その他の現症〉

脚力　；歩行でも息切れを生じるようになった。

視力　；眼鏡が必要だが意地で使用していない。

趣味　；テニス，写真であったが開業後は寝ること。

これからの希望；酔生夢死 …

肥　後　正　徳

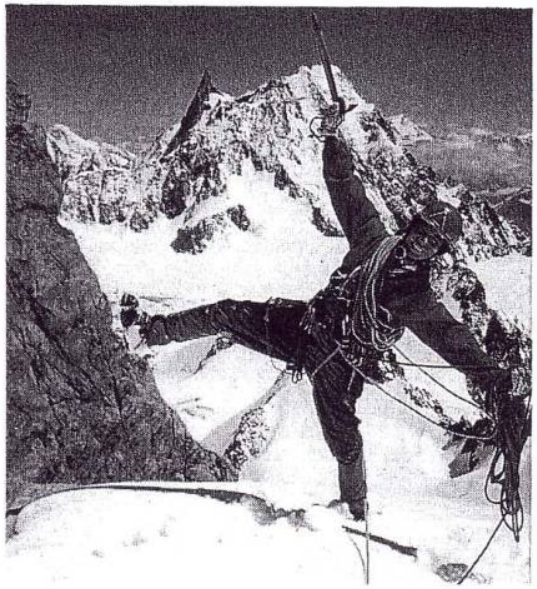
学生時代楽しかった思い出は何といっても学３の夏休みにヨーロッパアルプス登山に行ったことです。１ヶ月の間にシャモニモンブラン山群を中心に登りまくるつもりでしたが，あいにく毎日雨の連続でした。やっと晴れたある日登ったのが標高差1200mの大岩壁です。4000mを超す頂上からのながめは感動的なものでした。マッターホルンも雪におおわれて下降が危険でしたが，ピラミッドの様な独立峰は登っても下からながめてもすばらしくずっとそこに居たかったです。

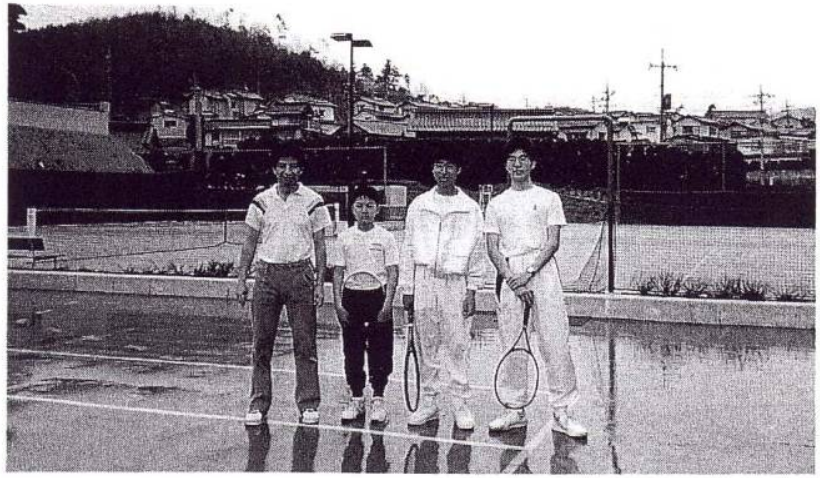
医者になってからは長い休みがとれず登山はできませんが，基礎体力だけは維持して，年をとっても再びヨーロッパアルプスに行ってみたいと思っています。当時使ったテントやナベ，カマが今もシャモニのキャンプ場に置いてあるはずです。

現在４人の子宝に恵まれ家族でテニスを楽しんでいます。日曜日の早朝（写真では雨まで降っていますが）まだ人の来ない内に近くのコートで特訓しています。

さて私は卒業後内科研修医を終えて循環器に興味を持ち，福島生協病院内科，広島記念病院内科を経て県立広島病院胸部外科に勤務しました。平成２年に循環器内科を開業してからは規則正しい生活を送れるようになりました。次第に衰える体力をなんとか維持しながら仕事・趣味ともに精一杯人生を楽しんでやろうと思っています。

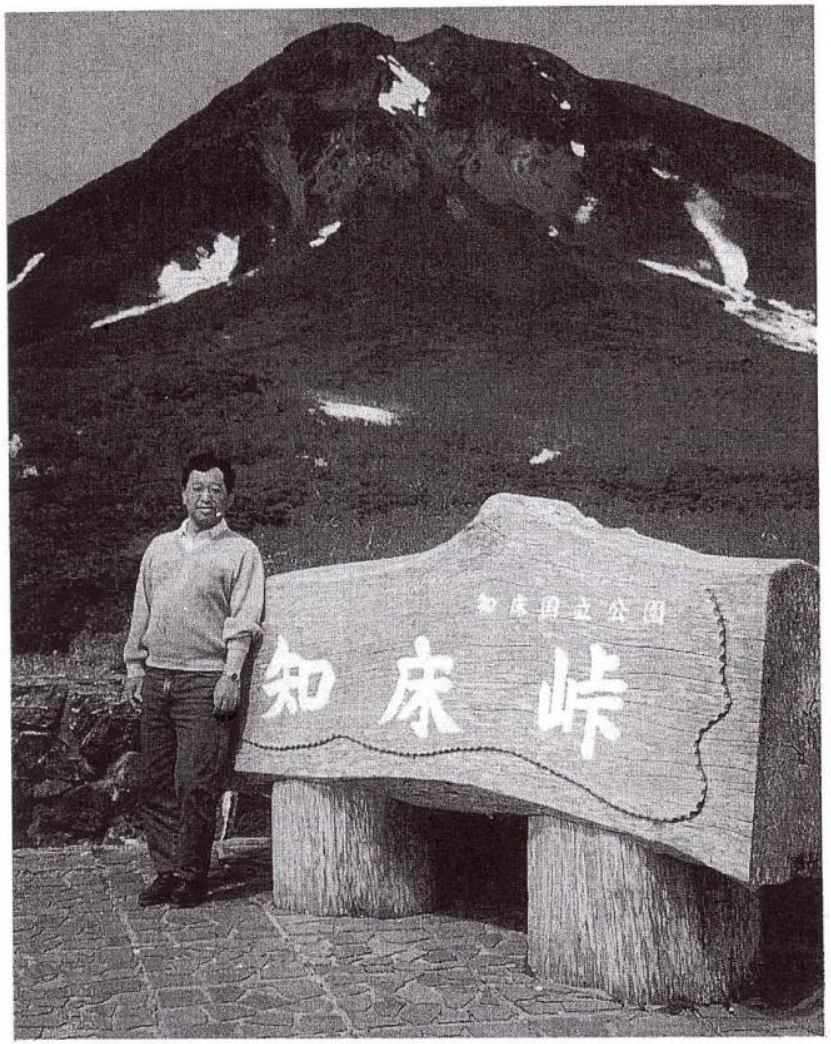
藤　井　隆　典





平成５年７月に15年間勤務した三菱三原病院を辞職し，現在は尾道総合病院産婦人科に勤務しています。

尾道総合病院は昭和32年にベット数280床で開設され，昭和33年に総合病院認可を受け，今は437床を有する広島県東部の中核病院として医療，検診にとりくんでいます。産婦人科はベット数40床，藤原　篤院長を含めた医師５名で診療に当たっています。平成４年の実績は開腹手術件数196，その内悪性腫瘍30，外来小手術46，悪性腫瘍放射線療法10，分娩449でした。



当院は広島大学医学部産婦人科の関連病院のなかでも有数の症例を持つ病院で，Linac・RALSの設備，ＮＩＣＵがあり，婦人科悪性腫瘍・良性腫瘍の紹介患者や合併症妊婦・早産などの母体搬送も多く，多忙な日々ですが，一人医長でいたときに比べて充実した生活を送っています。これもひとえに小生を当院に配属していただいた，大浜紘三教授と藤原　篤院長のお陰と感謝しています。

私的には，７月に一ヶ月間充電期間ができ10日間北海道旅行をしてきました。幸いにも北海道南西地震の前日に帰広しており悪運の強さに感心しています。現在では唯一の趣味となった釣りも産直にきてもらえないため休漁していましたが，10月から始めてみようと思っています。

尾道には瀬戸内屈指の漁港が有り，新鮮な魚が豊富なため旨い料理を食べさす店が沢山あります。近くへお越しの節は御一報頂ければ案内します。

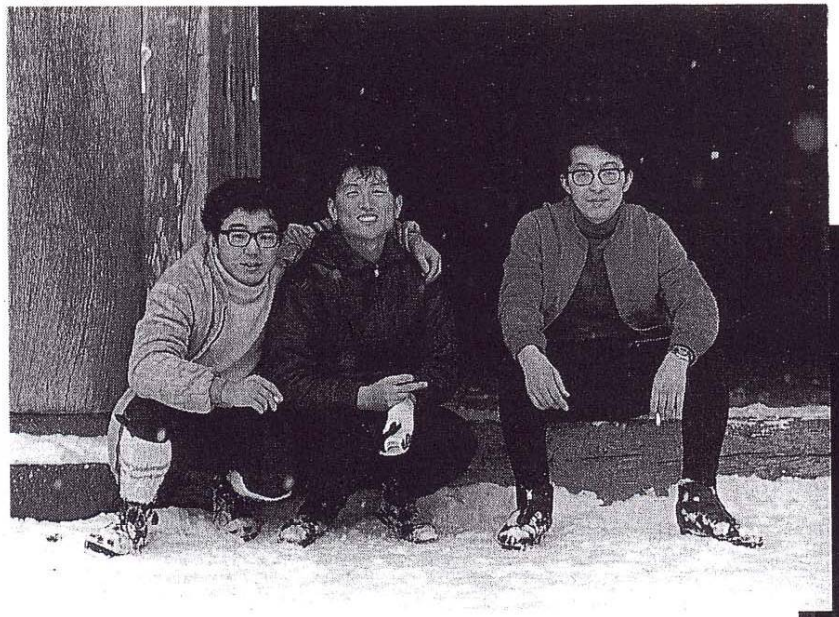
以上簡単ですが近況報告を終わります。

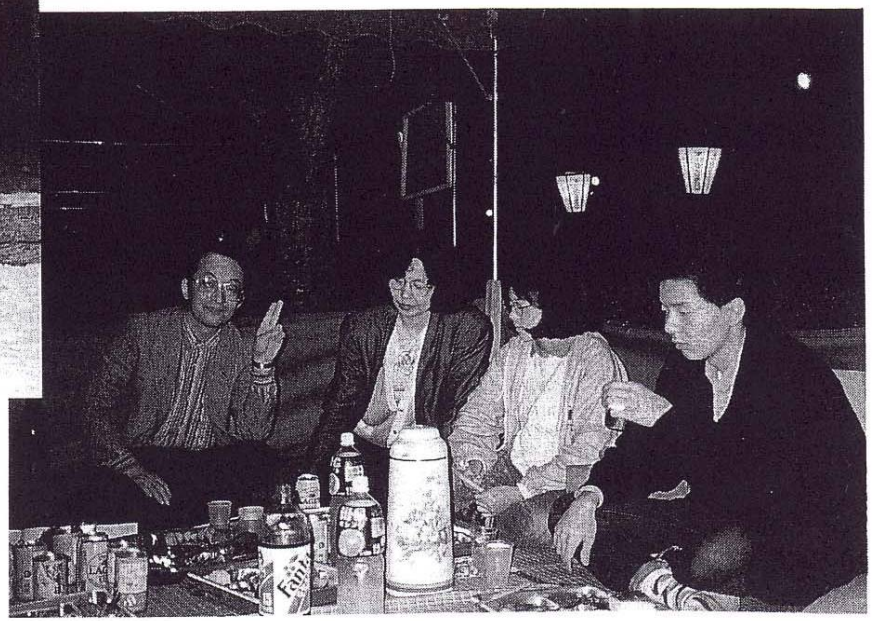
松　岡　敏　夫

卒業後広大泌尿科教室に入局しましたが，'78年には島根医大に赴任となった石部教授とともに出雲市に移り，7年間山陰生活を送りました。夏は澄みきった日本海で魚釣りや海水浴を，冬は三瓶山や大山でスキーをと遊びに精出しながらもなんとか一仕事区切りをつけることができました。'85年からは巾広い医療を身につけたく，私の故郷の私立病院において泌尿科診療を行う傍ら，内科・外科方面の研修を受けさせていただきました。'90年9月より現在地に医院を開業いたしました。ホームドクターとして地域の人々の健康管理に役立たせてもらっています。田舎のことですので何科といわず相談を受けるため毎日が勉強に忙しく遊ぶ暇もありません（？）。

当地は広島から2時間半，関西方面から2時間高速（中国縦貫道）を走ると到着いたします。温泉とゴルフには不自由いたしませんので近くにお越しの節は是非お立ち寄りください。

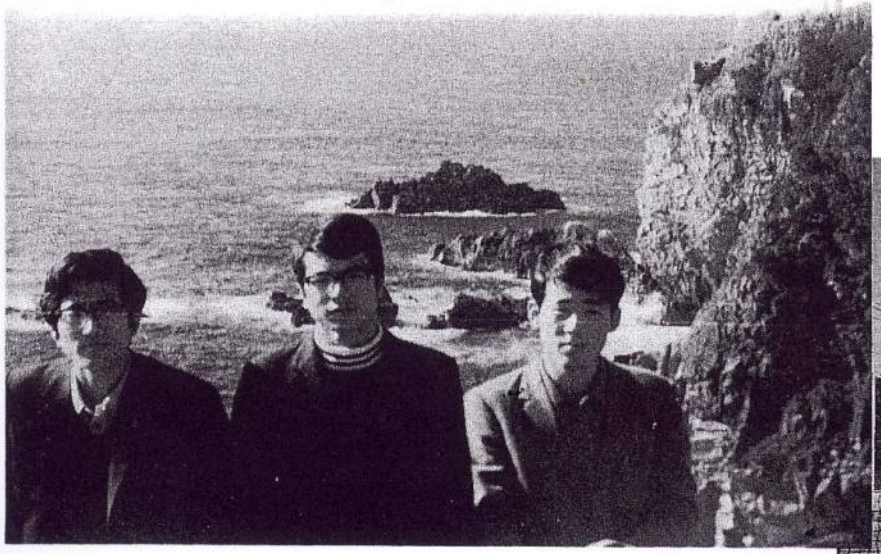
前　原　　進

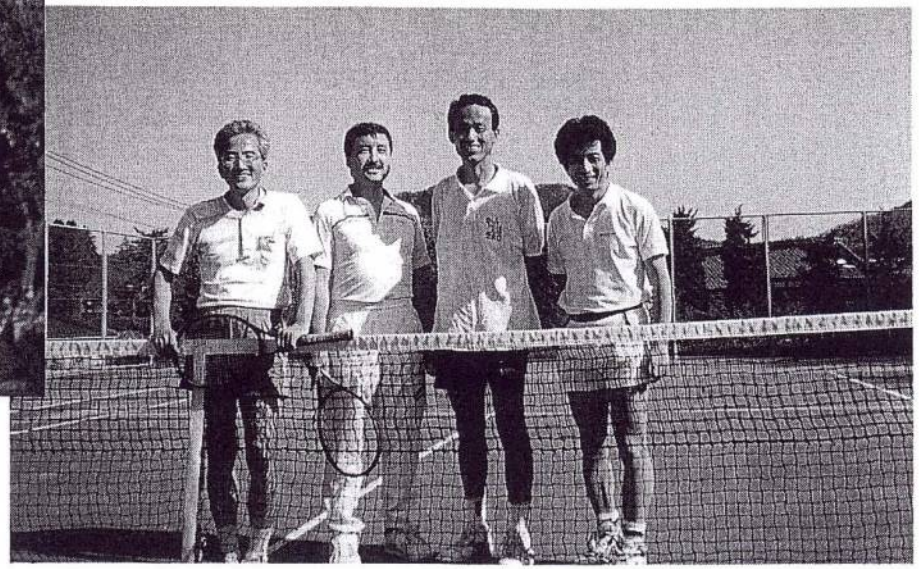




今年で町医者10年となる。それまでが，心臓外科医で10年であるからきりがよい。次の10年はというとやはり今のところ町医者を続けるしかなさそうだ。でも何かしてみたい。近頃，禅・マラソン・テニスがおもしろい。マラソン歴は７年になる。年に１～２回フルマラソンを走る。河口湖・篠山・那覇の国内３大マラソンを走破，今年は福知山をめざす。いつの日かニューヨーク・ロンドンを走りたい。マラソンは走る禅である。まず姿勢が同じである。腰に力を入れ背骨を伸ばすことで身相を調える。次に呼気を十分吐き呼吸を調える。そして心を無にし，ひたすら座ること走ることにのみ集中する。散乱した心が自然に集中統一される。おそらく禅もマラソンも極めれば同じところへ行き着くであろう。一方テニスはひとりではできない。仲間が多いほどおもしろい。49の安部・生田・市川・中尾・肥後・藤井の各氏とは，Tennis and Alcohol Club（ＴＡＣ）で交遊談話してる。
写真左．昭和44年の生田，立石，松村
写真右．平成５年の生田，肥後，藤井，松村

松　村　　誠





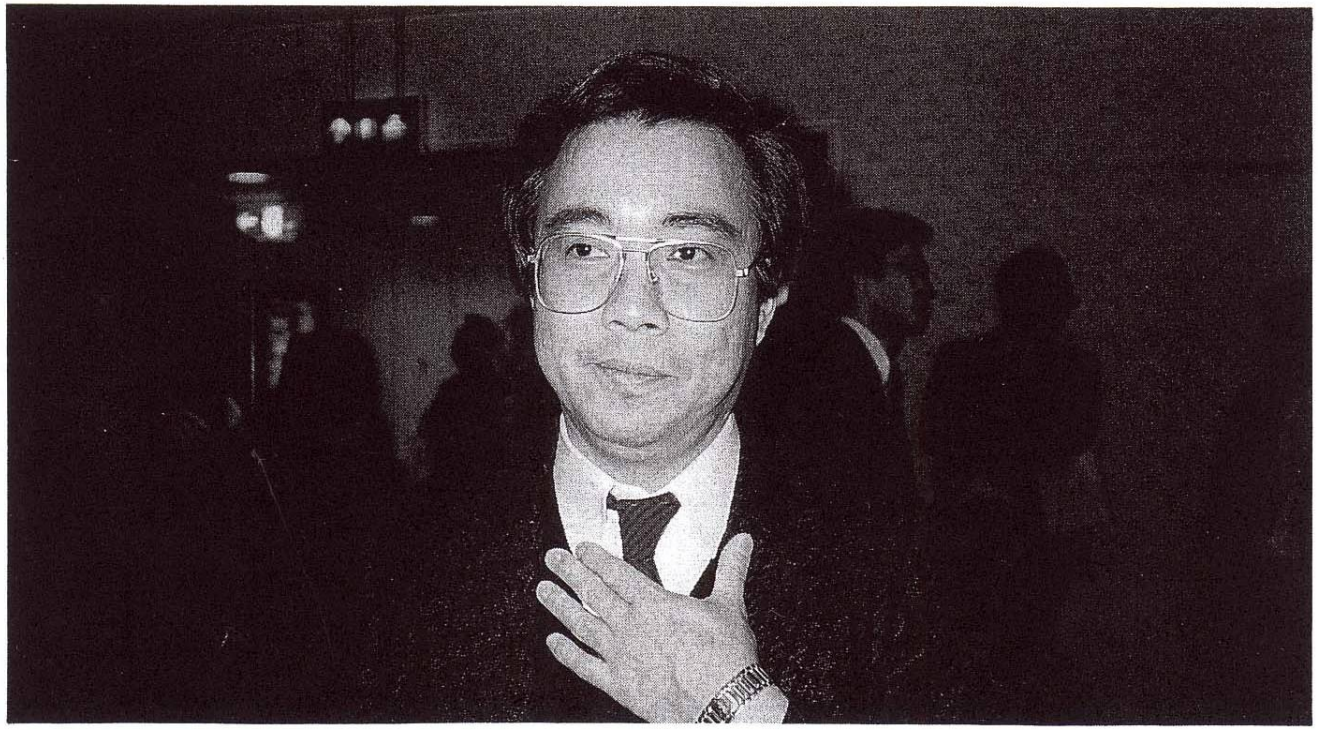
『卒後20年目の自己紹介』

卒後20年目の最大の変化は，頭部のシルバー化とシングルライフではなくなったことであろう。妻と子供３名（長女－高１，次女－中１，長男－小２）の家族構成である。

現在，広島市立安佐市民病院に勤務して12年目である。２年前に増改築により多目的ホールとしての体育館（２階吹き抜け，１周50mトラック）を設置し，心臓リハビリ施設としての認可も得て，非薬物療法としての運動療法の心機能および代謝面での効果につき興味をもって取組んでいる。

一方当院に勤務してから，体力維持を目的に先輩医師とスキー同好会を結成し，冬場にはできるだけ休暇をとり芸北地方さらに毎年必ず北海道や東北へ３泊４日のツアーに出かけ（できる限り職場から遠くはなれた地へ），華麗なシュプールを夢にみつ，雪面に拒否され嫌気さすも酒と温泉で慰められ（主目的である）性懲りもなく続けているのが実情である。

満　田　広　樹



早いもので大学を卒業して20年になりました。卒業後すぐ結婚して，主人の勤務先である山口県宇部市に住み，山口大学医学部第２内科に入局しました。第２内科は循環器が専門ですが，私の入ったグループは心臓の免疫が研究テーマでしたので，もっぱらウサギやラットの心臓を相手に実験をし，病棟では循環器にいながら膠原病や腎炎の患者さんをおもに診ていました。

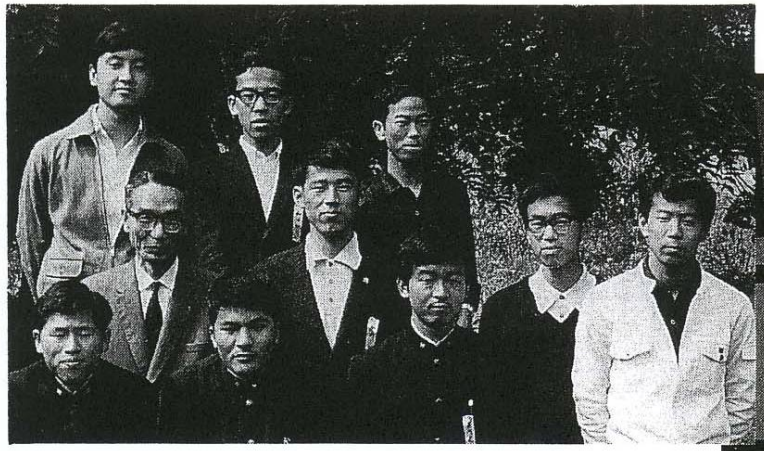
長男が幼稚園に入るのを機会に子育てに生活の重点をおくため，昭和55年にＮＴＴの健康管理所に移り，産業医になり現在に至っています。子供にも恵まれ，高３，高１の男子，小５，小２の女子の４人の子もちになってしまいました。

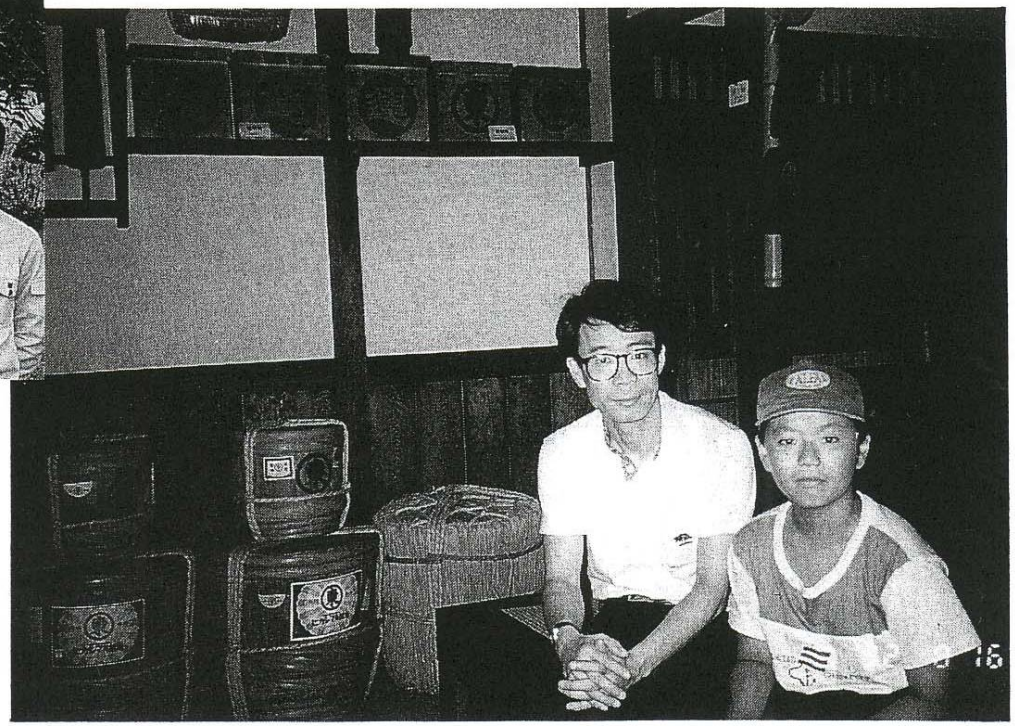
技術的進歩はありませんが，産業医も楽しく，本当の意味でのプライマリー・ケアーができると思っています。最近は検診のデーターの整理にパソコンと悪戦苦闘しています。

岩　本　節　子
（旧姓　宮野）

昭和60年より現在の長浜赤十字病院の産婦人科部長をしています。日赤勤務も９年目になると，身も心も日赤精神に染まってしまいました。次々と大学よりおくられて来る若い婦人科医との年齢差もしだいにひろがってきましたが，気持ちはまだ青年のつもりで，それら若い先生から色々新しい医学をおしえてもらっています。家庭では御多分にもれず，受験期をひかえた中２の長男と一緒に勉強したり，小６，小４の長女次女のめざましい最近の発育におどろいたりの毎日です。もう子供も大きくなって来たので色々なことが話せるようになりました。私たちが一生懸命に走ったセピアカラーの学生時代の思い出を興味をもって聞いてくれたりします。医師として，父として20年近くになりますとどういう自己完結をすべきか，ふっと迷うことがあります。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

宗　重　　彰





広島市東区光町（新幹線口）に，テナントビル開業して，13年目です。経済的苦労からは一応解放されましたが，従業員の問題では常に苦労しています。

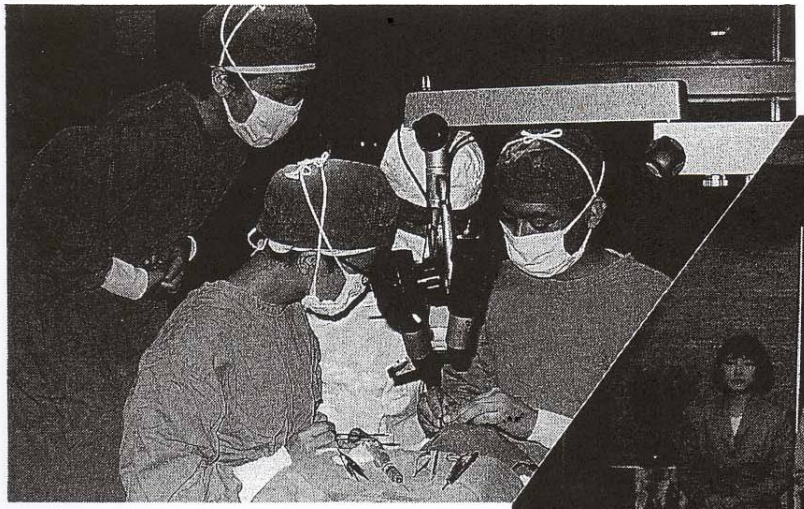
家族は，主人（会社員），中三，中二の男子と私です。最近では，両親も病気がちとなり，同級生の先生方のお世話になり本当に感謝しています。

現在，従業員は，事務長以下９名です。開業以来，医療費抑制策と人件費高騰の為，貧乏暇なしで，一日も休診していません。但し，五年前より週休２日制にしています。六年前より，関連業種のコンタクレンズ販売にも力を入れています。

健康維持の為のストレス解消法は，睡眠とショピングと，活字を読むこと，美術鑑賞です。

家事は苦手で，家族の犠牲と，多くの人の支援のもとで生きています。今後は，微力ながら，患者，従業員，家族等の支えになれるよう努力していこうと思っています。

沖　本　峰　子
（旧姓　村崎）



我々が卒業した昭和49年の頃は，制度が変わって初めての国家試験と，これから入局する科の選択で悩んでいたのを想い出す。内科に進もうと考えていたのを，第二外科に変更したのだが，今から考えてみると外科の方が性分に合っていたようで良かったと思っている。昭和53年には同期のトップを切って県病院の勤務医から南区の大洲に開業した。医局の当時の児玉助教授の，「心配せんでもいい，医局からも応援をしてやるから。」という有難い言葉を頼りに，今から考えるとよくもまあ思い切ってやったものよ，と我ながら感心する。当地の大洲というところは，良く言えば下町風情の情のこまかいところであり，悪くいえば少々ガラの悪いところであり，昔はよく酔っぱらいやガラの悪いお兄さんと取っ組みあいをやったものである。それでも無事に15年間の開業生活を送れているし，これからも体力の続く限り，地域医療に専心しようと思う。アルバムに載せている写真は，私の兄の耳鼻咽喉科教授就任祝いの内輪のパーティーの席上での，妹の husband であり同級生の前原進先生と一緒のところです。二人共，仲々貫禄がついてきたようです。

医学の世界に共に学んできた我々だから，これからも精進してゆきましょう。

夜　陣　正　明

『卒業後の私の履歴書』

町道場で空手に汗を流しながら，大学６年間を比較的真面目に過ごし，卒業後直ちに原医研外科に入局。大学で１年間基礎的な研修をした後，松山赤十字病院にて外科，麻酔科を２年間研修。その後，九州がんセンターおよび九州大学生体防御医学研究所免疫部門において２年間がんの免疫を学び，帰広。昭和54年４月より平成２年５月まで大学に居座る。主に消化器がん及び乳がんの外科的診療に携わりながら，がんの免疫学を研究。途中，昭和57年６月より59年５月までの２年間，Austria，Wine 大学がん研究所，英国は Manchester，Christie Hospital and Holt Radium Institute Paterson Laboratories に留学。『世界的学者（？）になろう！』と奮闘努力も，功成らず。思う所あって，現在個人医院の副院長として，がんの診療を続けながら，子供から老人まで，スポーツ医学を含めて整形外科的および外科的診療に邁進中。

柳　川　悦　朗

『ひとりごと』

大学卒業後20年。悔いのない20年間だった。大半を大学で過ごし，整形外科医として自分の実力以上のことをさせていただいた。脊椎専門医として手術例は1000例をこえた。今後もメスを捨てることなく続けていこう。

近況：平成４年10月，自分で考えてもいなかった開業に踏みきった。大学で燃えつきたのか？段原での小さなビル診ではあるが，第２の人生のスタートをはじめた。

心境の変化：座右の名とはいかないまでも寄せ書きに書く言葉

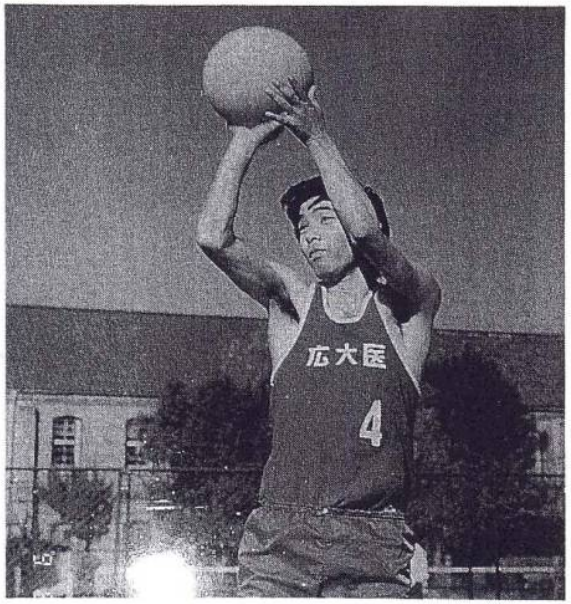
過去－精神一到何事か成らざらん

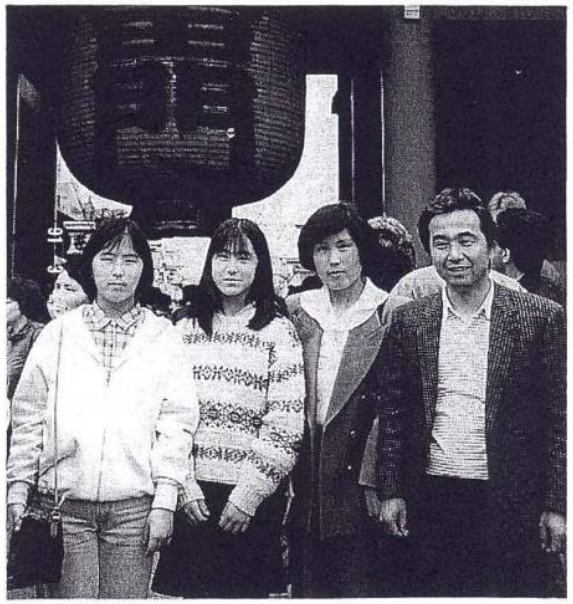
現在－自然体

若年寄りになったのか？無理せずにいこう。

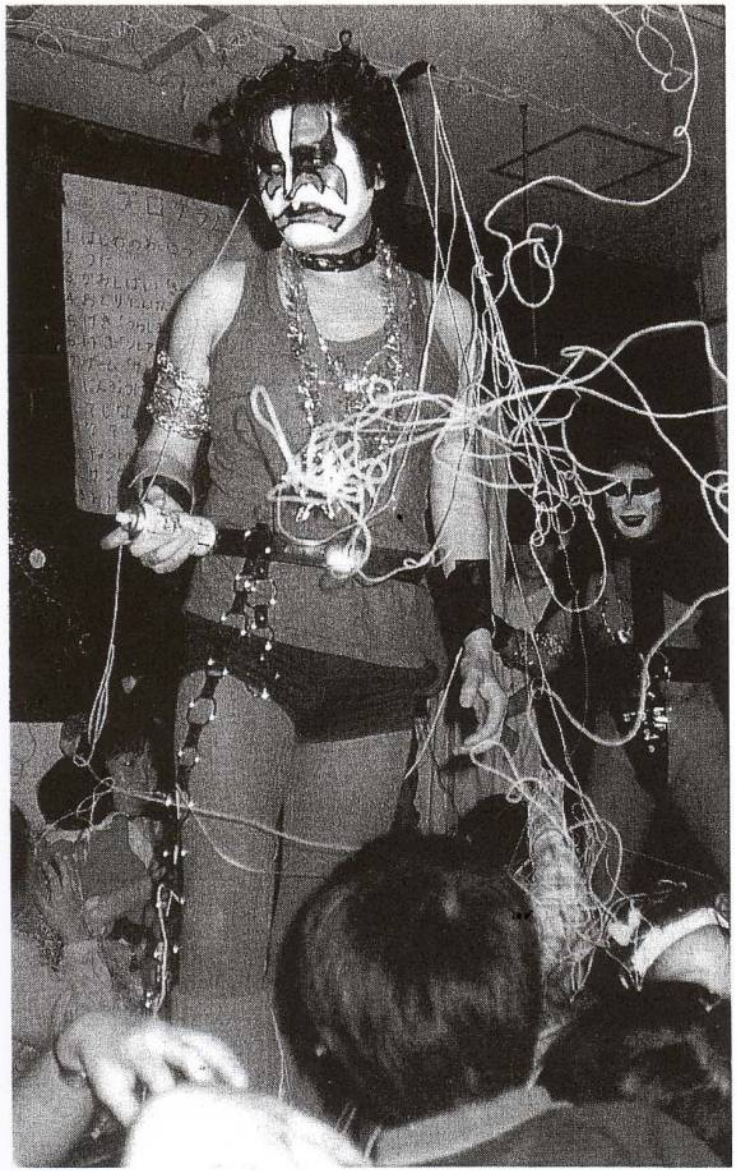
今後：写真のようにいかないまでも健全なスポーツにとりくみたい。今年は広島で第２回西日本医師バスケットボール大会（18大学，幹事）あり，選手として活躍できるよう復帰したい。ゴルフ（平均スコア80台）は適当にし，家族と一緒にできるテニスでもしよう。とりわけ健康には注意しよう。

吉　岡　　薫





大学卒業後，出身地にある北九州市立小倉病院小児科で研修しました。研修終了後そのまま同院に就職し勤務医を現在まで続けています。



1991年５月に新棟が完成し名称も変わりました。小児医療そのものが大きく変遷する時期に優れた指導医や同僚に恵まれ，大きな病気もせずに一地域病院でたくさんの子どもたちに接することができました。今では彼らを自分の財産と考えています。

守備範囲が新生児医療で年齢的に多少きつくなりましたが、20代の研修医にまじって月に６～７回のＮＩＣＵ当直をこなしています。

1976年に名市大で研修を終えた同期の島内ゆかりと結婚。長男（高１）、長女（小６）次女（小５）との５人家族です。

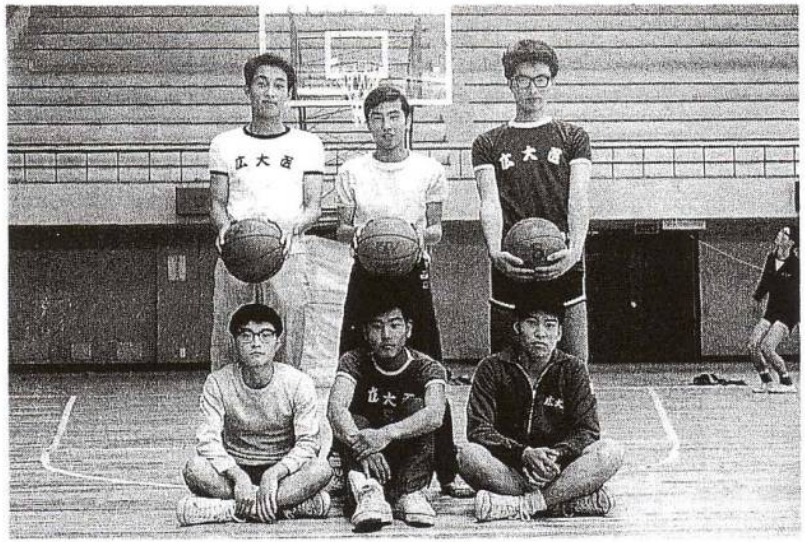
ゆかりは1990年に14年間勤務した国立小倉病院を退職して私が勤務する病院のすぐ近くで小児科医院を開業。３年経過しやっと軌道に乗ったところですが、勤務医時代よりもハードな生活を強いられています。

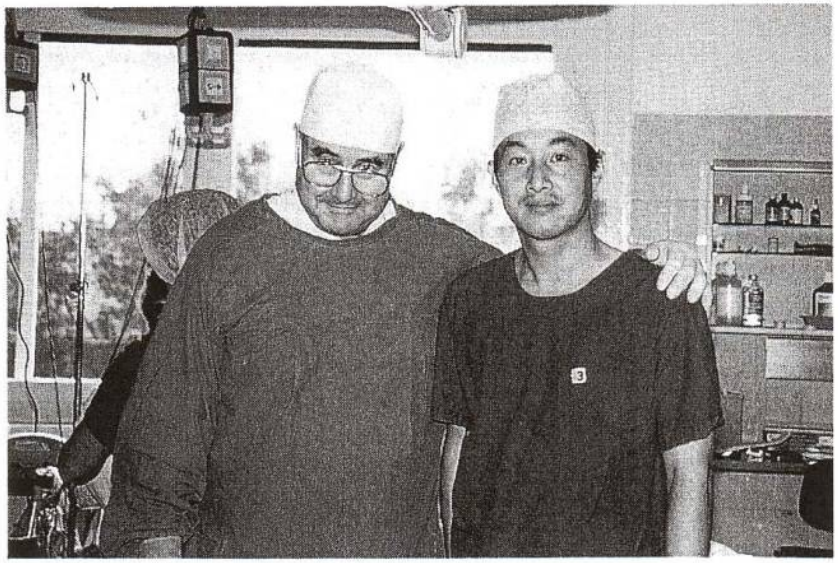
吉　田　雄　司
吉　田　ゆかり
（旧姓　島内）

『岐路』

卒業20周年の記念文集への原稿を早く出すようにと勝部君から催促を受けた平成５年９月の丁度その頃，17年間努めた広島市民病院を退職して開業する決心を固めた。思い起こせば，20年前内科か外科に入局しようと考えていた時に，恩師の故黒住静之教授の強いお誘いがあり，耳鼻咽喉科に入局，３年後，同じく黒住静之教授のご指示で広島市民病院に出向した。その後は原田康夫学長のお勧めもあり，ずっと広島市民病院に留まっていたが，今般，いろいろな方々の制止をも省みず，ここを人生の岐路と考え開業を決心した。そうしてその準備のため今まさに多忙の極にある。今まで会ったことのないほどの沢山の業種の人が訪れ，今まで経験したことがないほど沢山の決断を下さなければならない。これまでとはちがった緊張の連続であるが，この選択もまんざら捨てたものではないと感じている昨今である。

明　海　国　賢
（旧姓　頼）





『速い，卒業してもう二十年』

四九年（一九七四年）卒で，今年は平成五年（一九九三年），昭和でいうと六九年だから，六八から四九引いて，そうか，卒業して一九年になるのかと，算数の答えを出して，これからは元号よりも西暦が便利だなと思いながら，来年は二〇年になるのだという実感が一向にわいてこないのは不思議です。

ヒトの年齢には，暦の上の年齢，精神年齢，そして外見上の年齢の三つあると聞いたことがありますが，まわりの人にどう見られているかはいざ知らず，自分ではいつまでも変わらないつもりでいるのです。

しかし待てよ，変わらないという事は果たしていい事なのか，ある人は努力して，中には苦もなくできる人もいるが，あんなに偉くなって，あんなに髪が・・・，あんなに貫禄が・・・と思い一瞬焦ってみたりしますが，ま，これが不惑にまだ遠いという事だと納得して，平凡な毎日を送っています。（仕事は忙しいのです。念のため）

写真は長女一歳の時と，一四歳の今年の写真です。

渡　辺　　隆

卒業してはや20年になろうとしていますが，皆さんお元気ですか。私は小児外科を専攻したため広大に残らず金沢医科大学に入局しました。以来16年間金沢ですごしたため金沢人？になりかけていましたが，平成２年より小児外科を開設した厚生連尾道総合病院で働くことになり，以後はこちらで頑張っています。

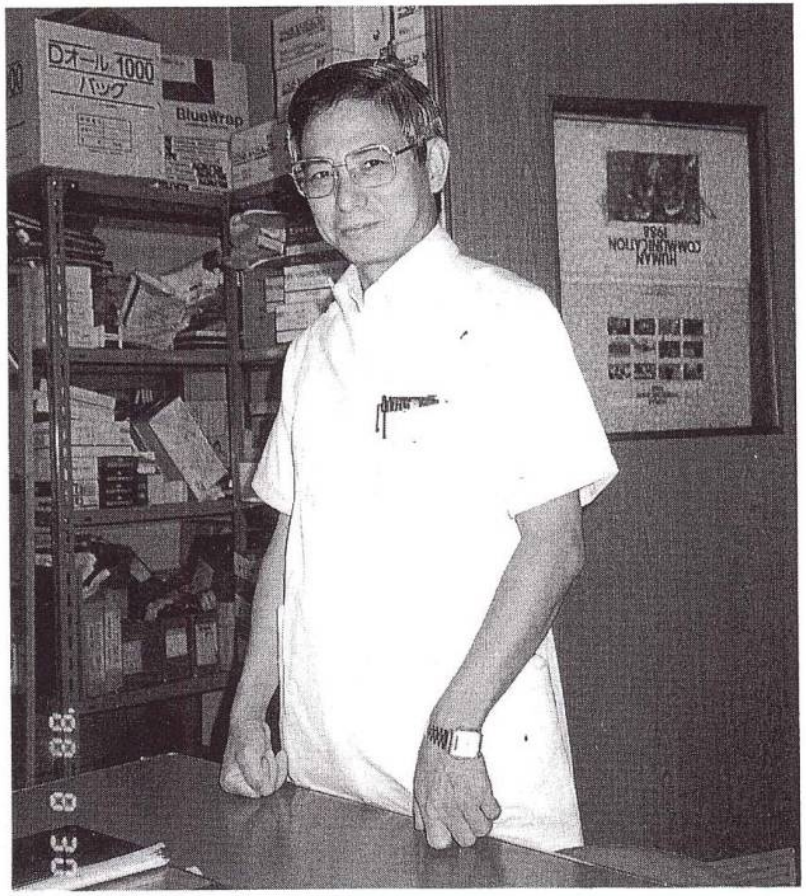
瀬戸内の気候は小学校から大学まで広島にいた関係で充分判っていたつもりですが，久しぶりに経験すると毎日が明るくかつ随分と穏やかに感じます。しかし逆に季節の節目が明確でないようにも思われます。ご存じの様に当地尾道は古い港町で観光にはいいところですが，経済活動に関しては周辺と比べ今一歩の感があり，人口もわずかですが減少しています。その中で小児外科を専攻することは苦しい面もありますが，周辺の都市を含めて幅広い活動をしたいと考えておりますのでその節にはよろしく頼みます。

和　田　知　久

来日して，26年となりました。この間，大学，広島赤十字病院，広島市民病院，県立安芸津病院を経て，現在東広島市の本永病院に勤務しております。

広大に入学して，最初，言論自由，民主主義のカルチャーショックをうけて，そして高成長の慌ただしい社会の洗礼をうけました。学園紛争の続く教養部の２年間と専門課程の４年間をやっとの思いで卒業しました。このまま帰国したら何も身につけていないことに気づき，医局に入局しました。早く一人前の外科医になって帰国しようと思いつつ，とうとう現実に勝てず残ることになりました。今まで，頑張って二十年経ちました。医療環境の厳しい頃ですが，今後も負けずに楽しい人生の思い出の一ページをつづけていきたいと思います。

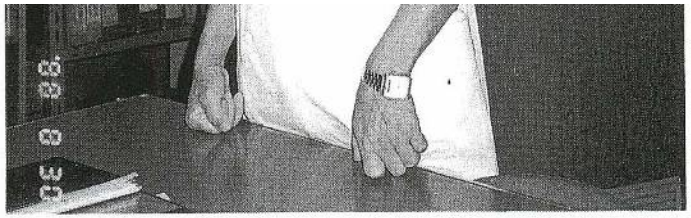
黄　　哲　治



『そうか，もう20年経ったのか』

1993年９月のある晩　神人さん（旧姓川口さん）から電話を頂き『卒後20年の記念アルバムを発行したいんじゃが原稿が集りよらんけぇ皆困っとる。なんでも幹事の話では34人しか集まっておらんらしい。わしも幹事に怒られとる

『そうか，もう20年経ったのか』



1993年９月のある晩　神人さん（旧姓川口さん）から電話を頂き『卒後20年の記念アルバムを発行したいんじゃが原稿が集りよらんけぇ皆困っとる。なんでも幹事の話では34人しか集まっておらんらしい。わしも幹事に怒られとるけぇ早う書いて井内君に送って下さいよぅ』との話である。『いいな！』とは言わなかったがあの有無を言わせぬ口調に驚いて，日曜日に病院に出てきてワープロに向かったが未完成のままであった。そして未完成のまま放り出してあったところへ今度は９月21日宇土君から『どうや，出来たんかいのう，生田が怒っているでえ』という電話があったのである。私は広大の眼科学教室に入ったが昭和50年に千葉県に移り，904床の総合病院で主にNephrology. 血液浄化に従事している。千葉大学の内科や病理の先生方にお世話になりながら当院のこの部門の充実に努力してきたつもりである。お蔭でそれなりの形にはなったように思う。学会で会った唯一の同級生は前原君であったが，最近第２内科の頼岡講師のグループがその方面で実績を上げているのを見ると嬉しくなる。また当院のCPCで千葉大学第１病理の三方教授と話した折，山口大学，広島大学の病理の話になり，第２病理の井内君を大いに誉めて戴いた時も嬉しいものであった。厚生省健康政策局医事課長の今田先生（46卒）の活躍ぶりなど，同窓生の活躍はこちらも非常に刺激を受けて気持ちのいいものである。血液浄化療法をやっていることもあって，救命救急センターを兼務させられ暇とは縁のない生活が続いているが病院という組織の中ではそれもやむを得ないのかもしれない。そこでリフレッシュのため毎年４月の第一土・日曜日に，雪深い福島県奥会津の湖で糸を垂れるのを習慣にしている。電話もない，ポケベルもない，周りは雪と静寂のみ。ビールを飲みながら，サクラマスに会える至福の時である。20周年の案内状を見て思うのは『そうか，もう20年も経ったのか』という感慨である。20周年のクラス会で皆に会えることを楽しみに待つとともに幹事諸君の御苦労に感謝する。写真は当院で毎年開催されている『青年の主張』コンクールのスナップ。

伊良部　徳　次

昭和49年卒業後直ちに郷里の沖縄県立中央病院の研修医になりました。以後18年公務員として勤務しました。平成４年11月小児科，内科医院を開業しています。未だ１年もならない新米です。医療は10年単位で進歩していると思います。皆様方と一緒に学んでから相当の年月が立ち，相当の変化をしたのではないでしょうか。広島の町並みも変わっていました。５年前に広島を訪ねました。教養部のレストランで若い頃食べたチキンフライを食べたかったのですが時間がなくてできませんでした。カゼをひいた時はそれを食べると良くなった思い出があります。卒後20周年の機会に是非と思っています。恩師の先生方や皆様に会える日を楽しみにしています。

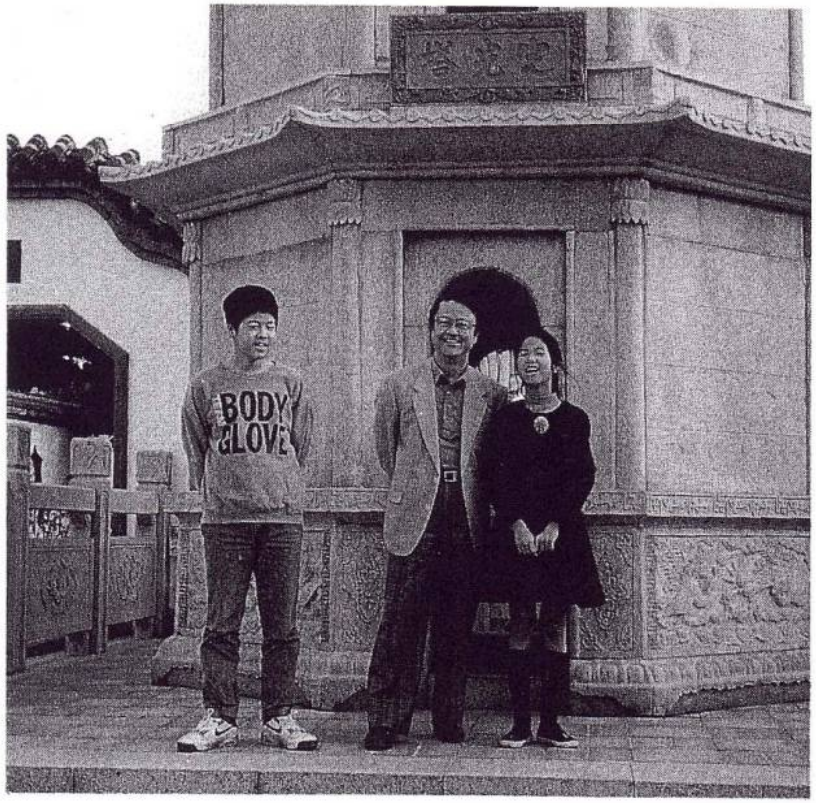
呉　屋　五十六

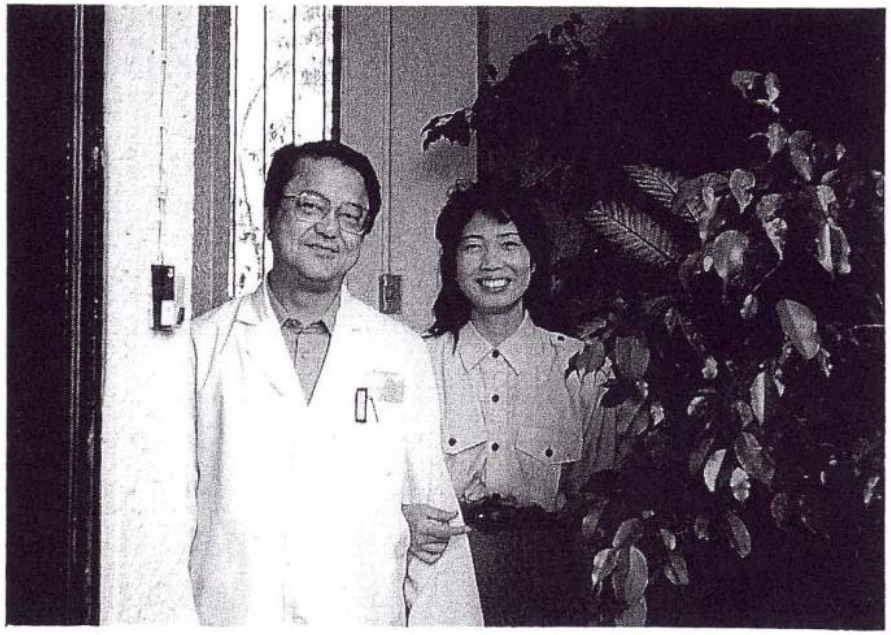
二十年という歳月は長いようで短かく，記憶というのもやっかいで，昨日のように想い出す事もあれば，遠い風景のように輪郭のハッキリしないのもあります。

四，五年前，なかじま診療所の中嶋（旧姓百々）啓子さんが，職員を引き連れて私の診療所を訪ねてきてくれました。地域医療に情熱を傾ける中嶋さんは，学生時代そのままの人でした。私も精神科入局後，沖縄に帰ってから，地域の精神科医療や最近は内科，心療内科的なものも含めて，全人的な医療を心掛けています。地道な暮らしをしながら，若い頃の夢を少しずつ実現してゆくというのは難しいことです。皆さんどうでしょう。

この二十年，幸いに私は健康と友人や家族には恵まれました。家族を紹介しますと，長男（中３），長女（中１），妻と私の四人です。久しくお会いしていない皆さんの御健康と御活躍をお祈りしております。

松　島　朝　彦





『ヒロシマは私の医療の原点』

49卒，卒後20周年おめでとうございます。

卒業して20年経ったかと思うと感慨深く感じ入ります。

私は49卒の皆さんと本当の同窓生といえない悲哀を持っておりますのに，この度，声をお掛け頂き心よりうれしく思います。

41年度に入学してからの私の学生時代は，大学闘争の真っ只中，世間知らずで素直な私はつい足を滑らせどっぷりと漬かり，医学部では医局講座制やインターン闘争等を見ながら「医者としてどうあるべきか」を考えました。

２年間悩み続けてやっと決心してクラスに復活した時は，顔なじみの仲間はなく，授業もチンプンカンプン。本当をいうと最後の１年間は泣きの涙でした。あの頃お世話になった両神人先生や小金丸先生や松島先生，本当にありがとう。心より感謝しています。

しかし，この学生時代の苦労があったからどんな医者になるか，こだわれる自分になったと思います。

被爆地広島で産まれ育った広島っ子の私ですが，なんやかやと言っている内に関西に居る年月の方が長くなりそうで驚いています。

ヒロシマ－広島は私の医療の原点です。

原爆症も戦争の社会がつくった悲惨な病気ですが，どんな病気にも社会的背景があります。患者さんや地域の人々の病気の社会的背景を見ながら，生活に最も近いところで患者さん一人一人の生きざまを知り学びながら医療を行いたいと，８年前に大阪の高槻市の住宅地で開業しました。

患者さんや地域の方々とふれ合い，一緒に医療をつくる第一線医療にこだわって，医療と健康を考えお互い同士で助け合う地域活動をすすめたり，また病院に入院医療があるように開業医の大切な役割としての在宅医療に心を注ぎ，訪問看護や訪問リハビリなどを取り入れ，看護婦や作業療法士や介護福祉士と一緒に在宅ケアーに勤しんでいます。

また４年前よりは，老人デイケアーを開設し，どじこもりの在宅療養患者を外に出すことに喜びを感じつつ毎日を送っている今日この頃と近況報告いたします

49卒の皆さんの顔も名前も十分判らない私ですが，これからも広島のよしみで御指導御鞭撻頂きますようお願い致します。

中　嶋　啓　子

（旧姓　百々）

広島大学医学部昭和49年卒業生 卒業20周年記念祝賀会　1994・3・20　於　広島グランドホテル